



A-dec 300

サービスガイド

内容

手引き	1
チェアへの取り付け	3
サポートセンターへの取り付け	9
歯科助手用器具への取り付け	15
デリバリーシステムへの取り付け	22
歯科ライトへの取り付け	34
曲線型フロアボックス への取り付け	36
リモートフロアボックス への取り付け	38
ユーティリティの接続	39
スピットンの取り付け	61
張地の取り付け	62
システムの準備と調整	65
システムの水平調整	79
タッチパッドの設定	82
システムのテスト	95
スピットンボウルとアームレスト 間のクリアランス適正度確認	96
カバーへの取り付け	98
エアバキュームシステム (AVS) への取り付け	107
規制に関する情報	112



注 本書では、正しく安全に設置するために重要な情報は、この注のように背景色付きで示されています。

手引き

本書にはA-dec 300システムの設置方法が記載されています。



注意 カバーを取り外したり交換したりする場合は、配線を損傷しないように注意してください。交換したカバーがしっかりと取り付けられていることを確認してください。

始める前に：

- すべての塵屑を一掃して、床面を完全に清掃してください。
- 手動空気遮断弁および水遮断弁の取り付けを確認します。
- 空気および水ラインからすべての残屑を一掃してください。
- お住まいの地域の建物／規格管理機関に設置要件を確認してください。設置要件は州ごとにまた国ごとに異なります。

設置方法によっては、本書に記載されている一部の部品は必要ありません。始める前に：

1. どのモジュールを取り付けるかを確認します。
2. 2ページの「設置手順」を確認して、取り付けるモジュールの順番を書き留めます。

推奨する工具

この設置に必要な工具類		
六角レンチセット	ドリル	ドリルビット:3/8インチ(ウッド)、1/4インチおよび1/2インチ(メーソンリー)
5/16インチの六角レンチ	斜ニッパー	A-decシリコン潤滑油
六角レンチドライバー(ボールポイントタイプ)セット	ラジオペンチおよび標準ペンチ	アンビリカルスネーク
可動レンチ	プラスドライバー	ゴム製マレット
3/4インチおよび9/16インチのソケットとラチェット	ロータリーハンマドリル	スリーブブッシュ
1/4インチ、1/2インチ、および3/4インチのコンビネーションレンチ	磁気水準器	電圧計
巻尺	プライヤー	

設置手順

A-dec 300の取り付けのためのモジュールは、図1に示されています。記載されている順序に従って、必要なモジュールを取り付けます。

図1. A-dec 300出荷用梱包



デンタルチェア



サポートセンター



歯科助手用器具



注 各モジュールの梱包箱には、当該モジュールの取り付けに必要なすべての部品が梱包されています。



デリバリーシステム



歯科ライト



モニターマウント

チェアへの取り付け

! 注 ポスト取付型システムをお持ちの場合は、このセクションを飛ばして、9ページの「サポートセンターの取り付け」に進んでください。

チェアのセット

1. チェア周りからすべての部品と段ボールを取り除きます。

! 注 梱包材料からモジュールを取り出す際は、医師用に同梱されたキットとマニュアル(A-dec 311 デンタルチェア使用方法など)を見逃さないよう注意してください。取り付け作業中はこれらのキットを傍らに取り除けておいてください。

2. カバーを取り外します。
3. 3/4インチのソケットとラチェットを使って、パレットにチェアを固定しているボルトを取り外します。

4. アームレストとチェアフレームの前部をつかみます。チェアを持ち上げ、処置室の所定の場所に設置します。

! 注意 システムに曲線型フロアボックスが含まれている場合、ユーティリティと曲線型フロアボックスカバーの間に十分なスペースがなければ、電源装置カバーは取り付けられません。詳細については、36ページの「曲線型フロアボックスのフレームの取り付け」を参照してください。

5. アームレストから梱包用ストラップと梱包材料を取り除きます。

このセクションに必要な工具

3/4インチおよび9/16インチのソケットとラチェット	3/8インチ (ウッド) のドリルビットまたは1/4インチおよび1/2インチ (メーソンリー) のドリルビット
ドリル	3/16インチの六角レンチ
ロータリーハンマドリル	3/4インチのコンビネーションレンチ
プラスドライバー	

図 2. チェアの設置

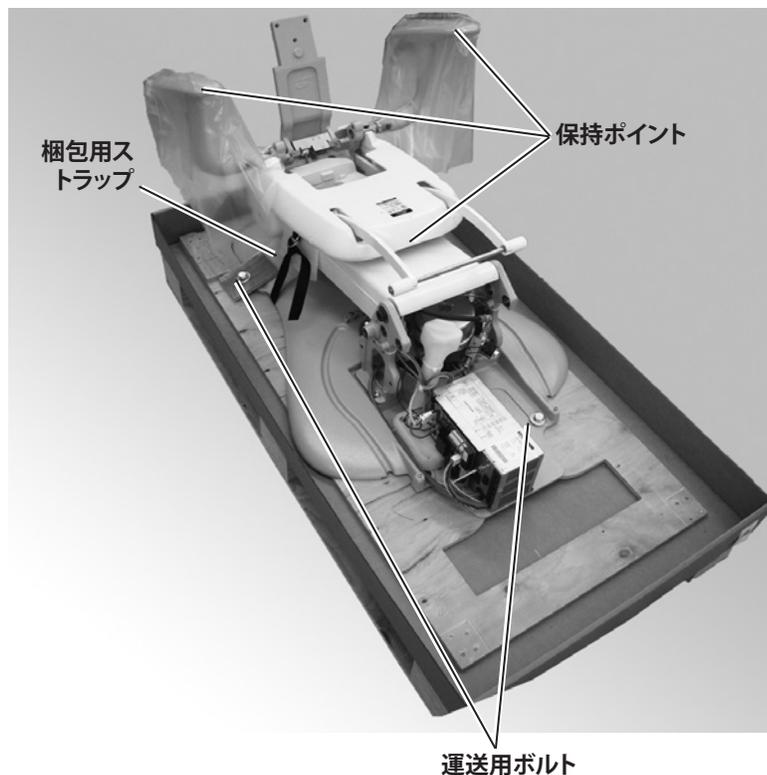
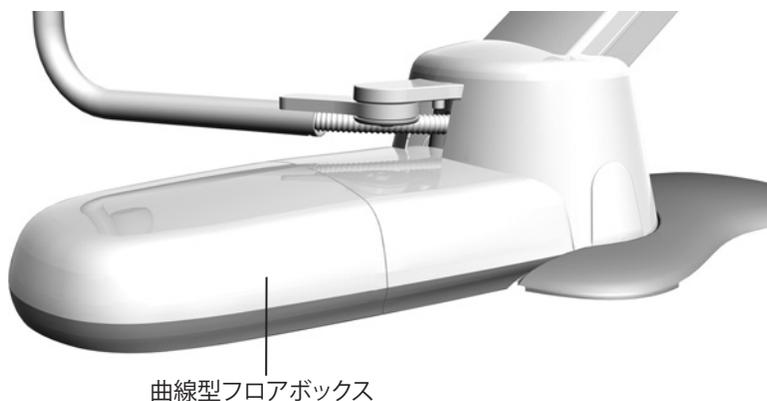


図 3. 曲線型フロアボックス



チェアーの固定

ラグスクリューまたは、クリート付きメーソ
ンリーアンカーを使用してチェアーを床にしっかり
固定します。設置場所のフローリング構造
のタイプに従って、手順を選択してください。



警告 チェアーを床にしっかりと固
定して安定した動作をさせることが必
要です。床への固定が適切でない場
合は、器物の破損や、重傷を負ったり、
死亡事故につながる危険があります。



注意 チェアーを固定するフローリ
ングおよび、またはフレーミング材を
確認してください。床材の厚さが少な
くとも82ミリ(3-1/4インチ)に満たな
いときは、床の補強について認可を
受けている建築請負業者に連絡して
ください。

コンクリート床への固定

設置エリアの準備

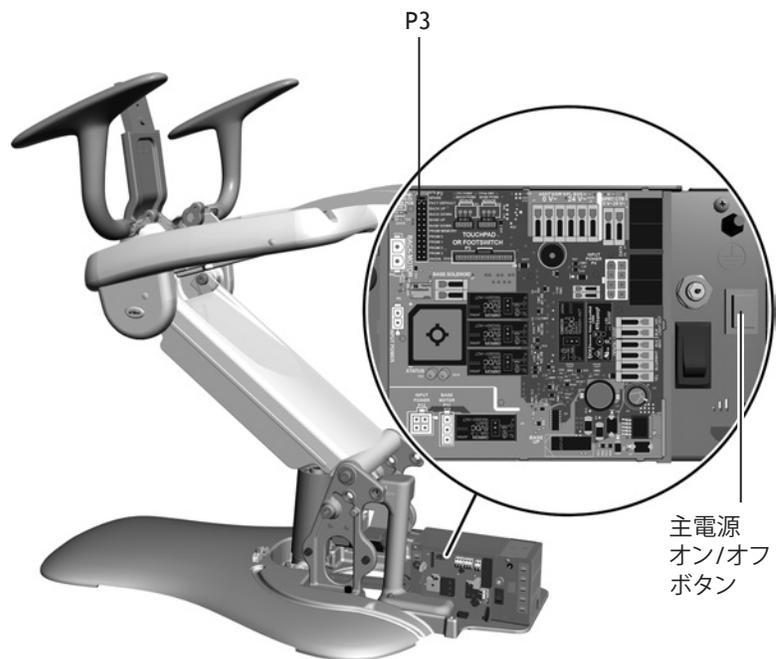
1. チェアーの電源をコンセントにつなぎ、電
源の右下部にある主電源オン/オフボタ
ンを押して電源を入れます。



注意 回路基板上の電装品は、
静電気の影響を受けやすいの
で、取扱いに安全上の注意が必要
です。

2. チェアーの回路基板のP3内のジャンパーを
「基部アップ」位置に動かします。チェア
ーが上昇した時点で、ジャンパーを「スベ
ア」位置に戻します。
3. 電源を切ります。
4. チェアーの電源を抜きます。

図 4. チェアーの準備

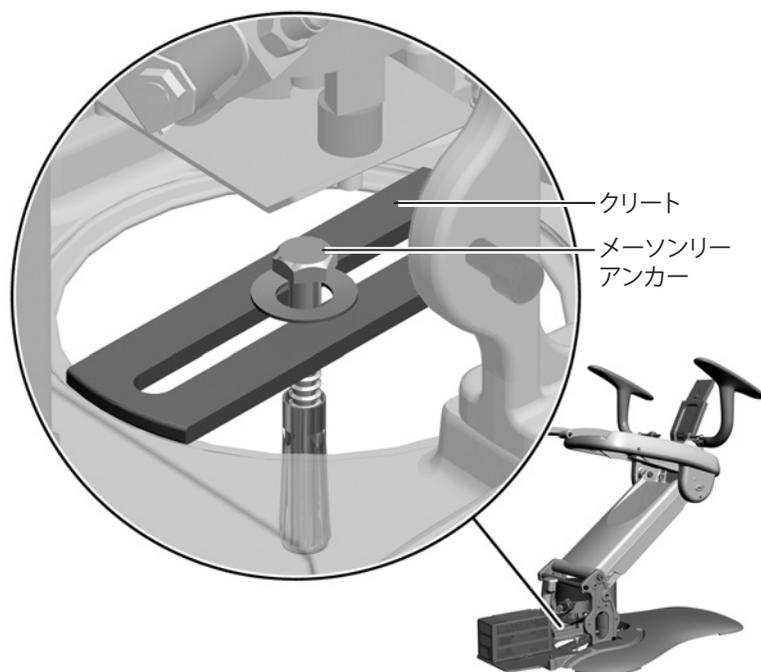


5. チェアのベースの大きなサークル内にクリートを置きます(図5を参照)。
6. メーソンリーアンカー用の穴をドリルで開ける位置に印を付け、チェアを動かします。
7. 1/2インチビットの回転式ハンマを使用して、101ミリ(4インチ)の深さの穴を開けます。残屑はすべて取り除いてください。

チェアの固定

1. 3-1/2インチのメーソンリーアンカーをワッシャが床面に同一平面にぴったり重なるまで穴に押し込みます。
2. 9/16インチのソケットとラチェットを使用して、アンカーが穴に完全に固定するまで締め込んでから、スクリューとワッシャを取り外します。
3. チェアを元の位置に戻します。
4. チェアの左前部から、ネジをワッシャとクリートに通して、穴に取り付けます。
5. 9/16インチのソケットとラチェットを使用して、クリートに対してチェアが床面にしっかり固定するまでボルトを締め込みます。

図5. チェアのコンクリート床への固定



フローリングの床への固定

設置エリアの準備

1. チェアの電源をコンセントにつなぎ、電源の右下部にある主電源オン/オフボタンを押して電源を入れます(4ページの図4を参照)。



注意 回路基板上の電装品は、静電気の影響を受けやすいので、取扱いに安全上の注意が必要です。

2. チェアの回路基板のP3内のジャンパーを「基部アップ」位置に動かします。チェアが上昇した時点で、ジャンパーを「スベア」位置に戻します。
3. 電源を切り、プラグをコンセントから抜きます。
4. チェアベースの大きなサークル内にクリートを置きます。
5. ラグスクリー用の穴をドリルで開ける位置に印を付け、チェアを動かします。
6. 3/8インチビットの回転式ハンマを使用して、50ミリ(2インチ)の深さの穴を開けます。残屑はすべて取り除いてください。
7. 穴にネジ山を付けるには、3/4インチのソケットとラチェットを使用して2-1/2インチのラグスクリーを凡そ12.8ミリ(1/2インチ)の深さに穴に押し込んでから、ラグスクリーを取り外します。

チェアの固定

1. チェアのベース内のサークルの右後方端に穴が位置するようチェアを元の位置に戻します(図6を参照)。
2. チェアの右前部から、ラグスクリーをクリートに通して、穴に取り付けます。
3. 可能なところまで指でラグスクリーを締めながら、3/4インチのソケットと短い継手が付いたラチェットを使用して、クリートに対してほぼ完全に達するまで締め込みます。
4. チェアを所定の位置に動かし、3/4インチのコンビネーションレンチを使用してチェアが床面に完全に固定するまでクリートに対してラグスクリーを締め込みます。

図 6. ラグスクリーを締め始める

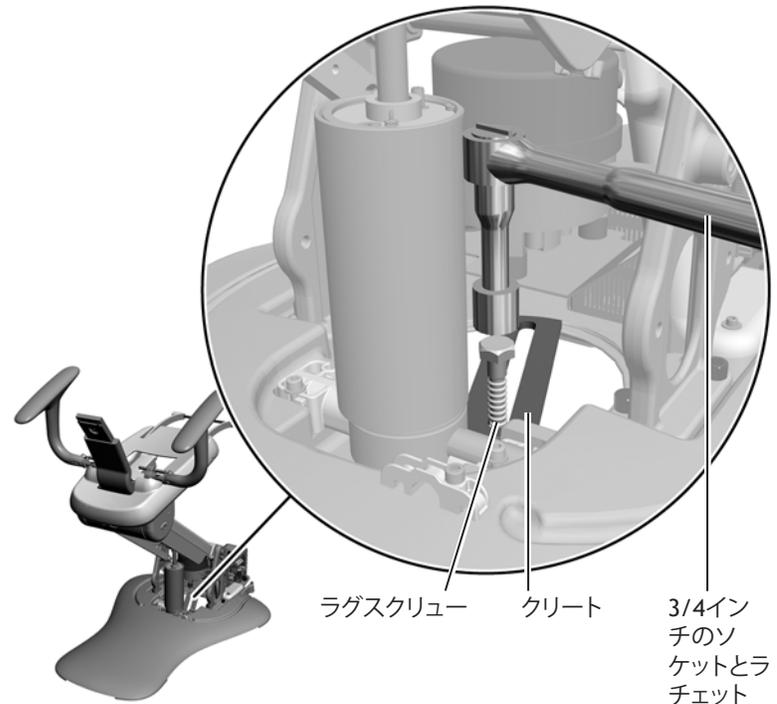
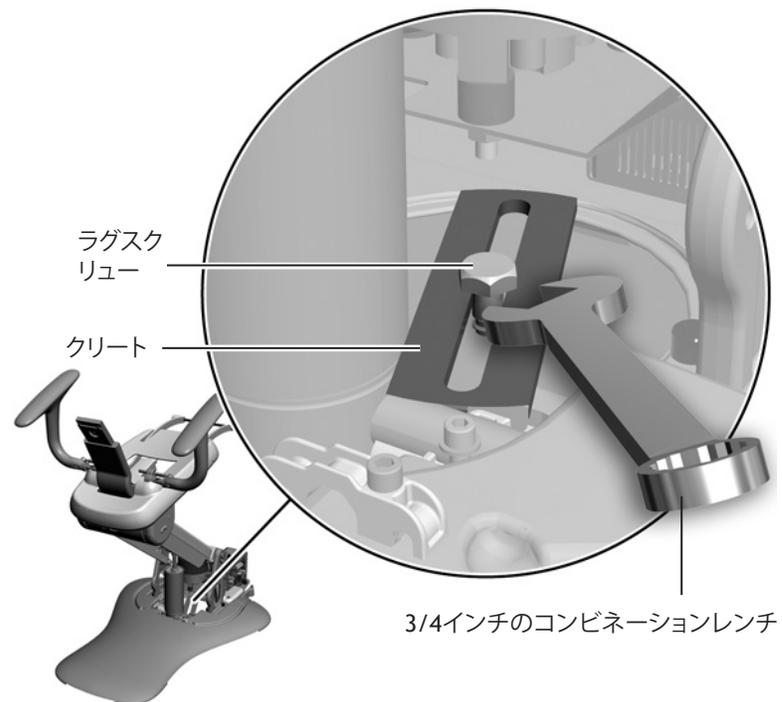


図 7. ラグスクリーを締める



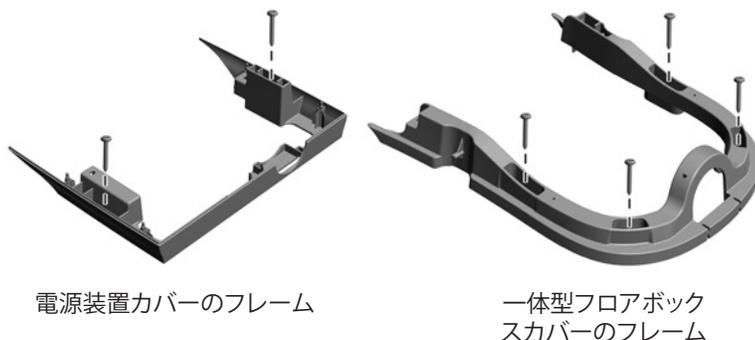
電源装置または一体型フロアボックスカバーの取り付け

A-dec 300システムには、電源装置カバーまたは一体型フロアボックスカバーのいずれかが付属しています。



注 電源装置カバーのフレームは電源装置カバーに取り付けられた状態で出荷されます。

図 8. カバーフレーム



それぞれのフレームの取り付け手順は同じです。

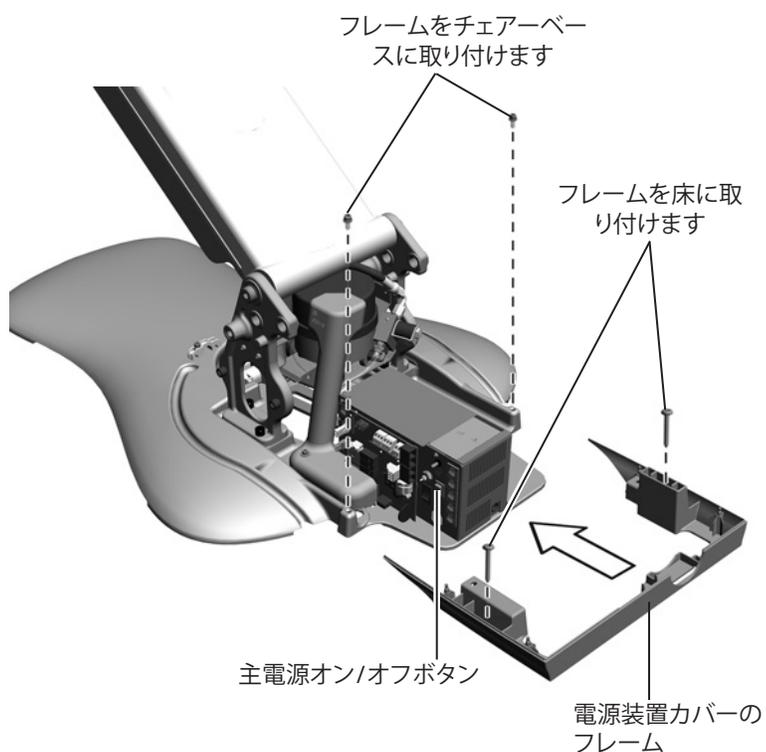
1. チェアを完全に上昇させた状態で、3/16インチの六角レンチを使って、チェアのベースから2本の取付ネジを取り外します。
2. 2本の取付ネジでカバーフレームをチェアのベースに取り付けます。



注意 チェアを移動する場合、絶対にカバーフレームをハンドル替わりに使用しないでください。

3. カバーフレームを床に取り付けます。
 - 床がフローリングの場合は、プラスドライバーと1-1/4インチのサイズ#10のネジを使用してください。
 - 床がコンクリートの場合は、1/4インチのメーソンリードドリルビットを使用して、ネジがフレームを通れる穴を2つ作ります。それらの穴にプラスチックアンカーを差し込んでから、プラスドライバーと1-1/4インチのサイズ#10のネジを使用します。

図 9. カバーフレームの取り付け



背部サポートを取り付け

1. 3/16インチの六角レンチを使って、背部サポートから3本の取付ネジを取り外します。
2. チェアの背面に取付ネジで背部サポートを取り付けます。

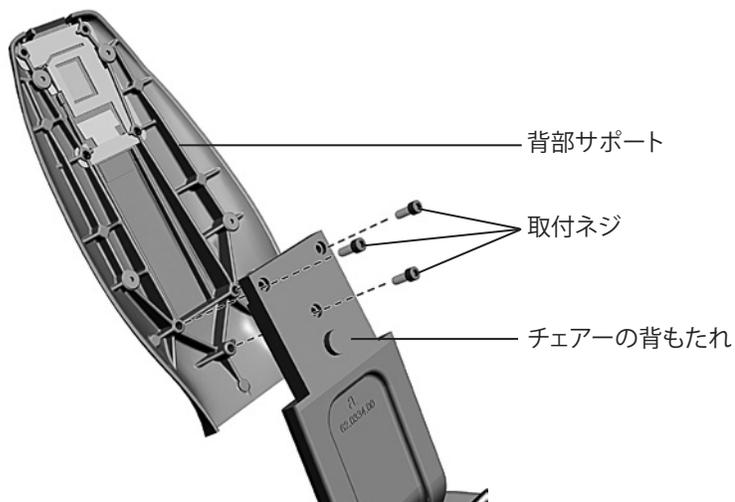


ヒント 締め込む前に3本のネジをすべて緩めてください。



注意 使用中に背もたれに緩みを生じないようネジはしっかりと締め込んでください。

図 10. 背部サポートを取り付け



サポートセンターの 取り付け



警告 システムにスピットン(口すすぎ器)が含まれている場合は、サポートセンターが適切に位置出しされるまでスピットンボウルサポートにケーブルで結ばれたポジショニングガイドを取り外さないでください。サポートセンターの適切な位置出しを確実にするため以下のセクションの手順を実行してください。

サポートセンターはチェアのどちらの側に取り付けることもできます。このセクションは、サポートセンターの取り付け方法およびユーティリティの接続方法について説明します。

チェアベースマウントの 取り付け



注 ポスト取付型システムをお持ちの場合は、このセクションをスキップしてチェアのアダプタキットに付属の指示に従ってください。その後、次のページの「サポートセンターポストの取り付け」に進んでください。

5/16インチの六角レンチと2本の1-1/2インチのソケットスクリュー(六角穴付きボルト)を使用して、チェアフレーム側面にチェアベースマウントを取り付けます。



注意 使用中にベースマウントが緩まないようにネジをしっかりと締め込んでください(約40.67 N·m [30 ft-lb]のトルク)。

このセクションに必要な工具

5/16インチの六角レンチ	3/16インチの六角レンチ
水準器	斜ニッパー
可動レンチ	スリーブプッシャー

図 11. A-dec 361サポートセンターとスピットン

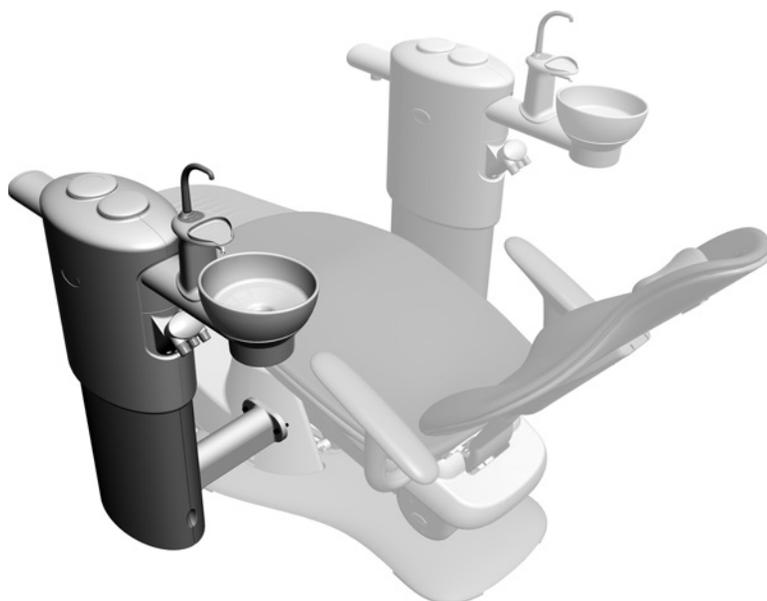
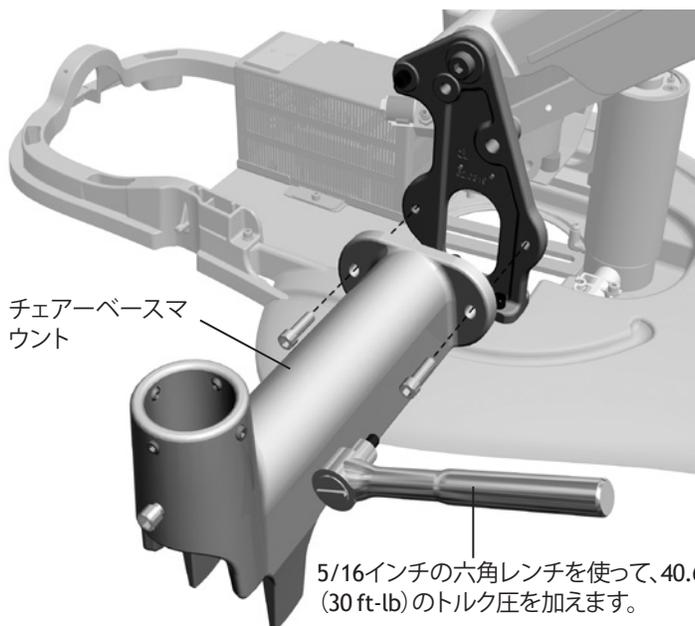


図 12. チェアベースマウントの取り付け



サポートセンターポストの取り付け

1. サポートセンターポストをマウントのベース近くにあるネジの上のノッチ(V字型の切り込み)付き底のあるチェアベースマウントに設置します。



注 ポスト取付型システムをお持ちの場合、サポートセンターポストはチェアベースマウントの代わりにチェアのアダプタに取り付けます。その場合、支柱には底にノッチ(V字型の切り込み)はありません。



警告 ポスト取付型システムを取り付ける場合は、力学的に安定させるためにチェアを床にしっかりと固定する必要があります。床への固定が適切でない場合は、器物の破損や、重傷を負ったり、死亡事故につながる危険があります。

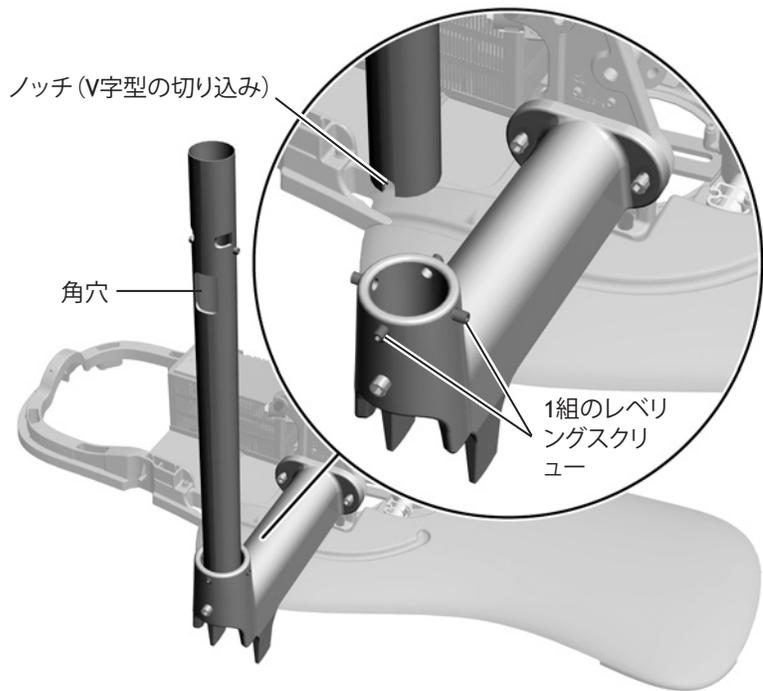
サポートセンターを患者の左側に取り付ける場合は、角穴をチェアの外側向けます。サポートセンターを患者の右側に取り付ける場合は、角穴をチェア側向けます。

2. チェアベースマウントの最上部近くに4本のレベリングスクリューで、水平器をポストに対して垂直に置きます。



注 A-dec 511チェアにポスト取付型システムが備えられている場合、チェアアダプタには8つのレベリングスクリューがあります。

図 13. サポートセンターポストの取り付け



- 3/16インチの六角レンチを使用してポストが水平になるまで、1組のレベリングスクリューからもう1組のレベリングスクリューに変更しながらネジを調整します。水平を調整する場合は、常に調整用のネジで行ってください。
- 支柱が平衡になった時点で、レベリングスクリューを均等に締め込んで支柱を固定します。



注 これが最初の支柱の水平調整です。すべての取り付けが終了した時点でシステムとしての最後の水平調整が必要です。最後の水平調整手順については、79ページの「システムの水平調整」を参照してください。

サポートセンターの取り付け

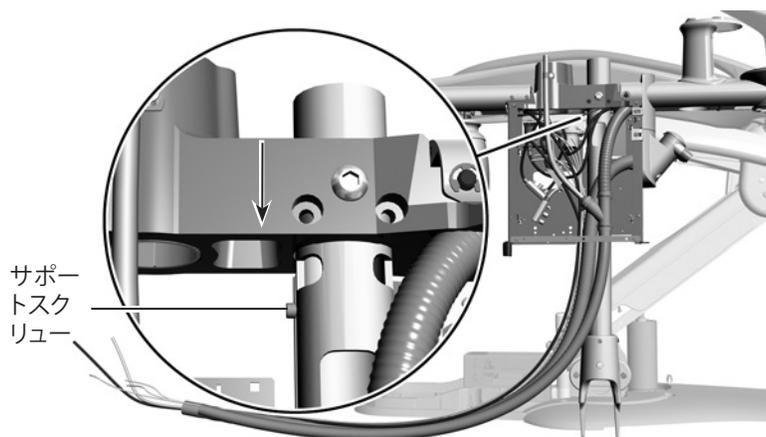
- 腕にサポートセンターのチューブ束を巻き付け、サポートセンターを箱から持ち上げます。
- サポートセンターからカバーを外します。
- ウォーターボトル接続をチェア先端に向けて、サポートセンターポストの上にサポートセンターを設置します。



注意 すべてのワイヤやチューブが引っ掛かったりねじれたりしないよう、ワイヤやチューブがサポートセンターフレームの間に収まるよう注意を払ってください。

- サポートセンターのフレームがサポートセンターポストのサポートスクリュー上で止まるまで、支柱に沿ってサポートセンターをスライドさせます。

図 14. サポートセンターの設置



5. システムの構成に応じて、サポートセンターを調整します。

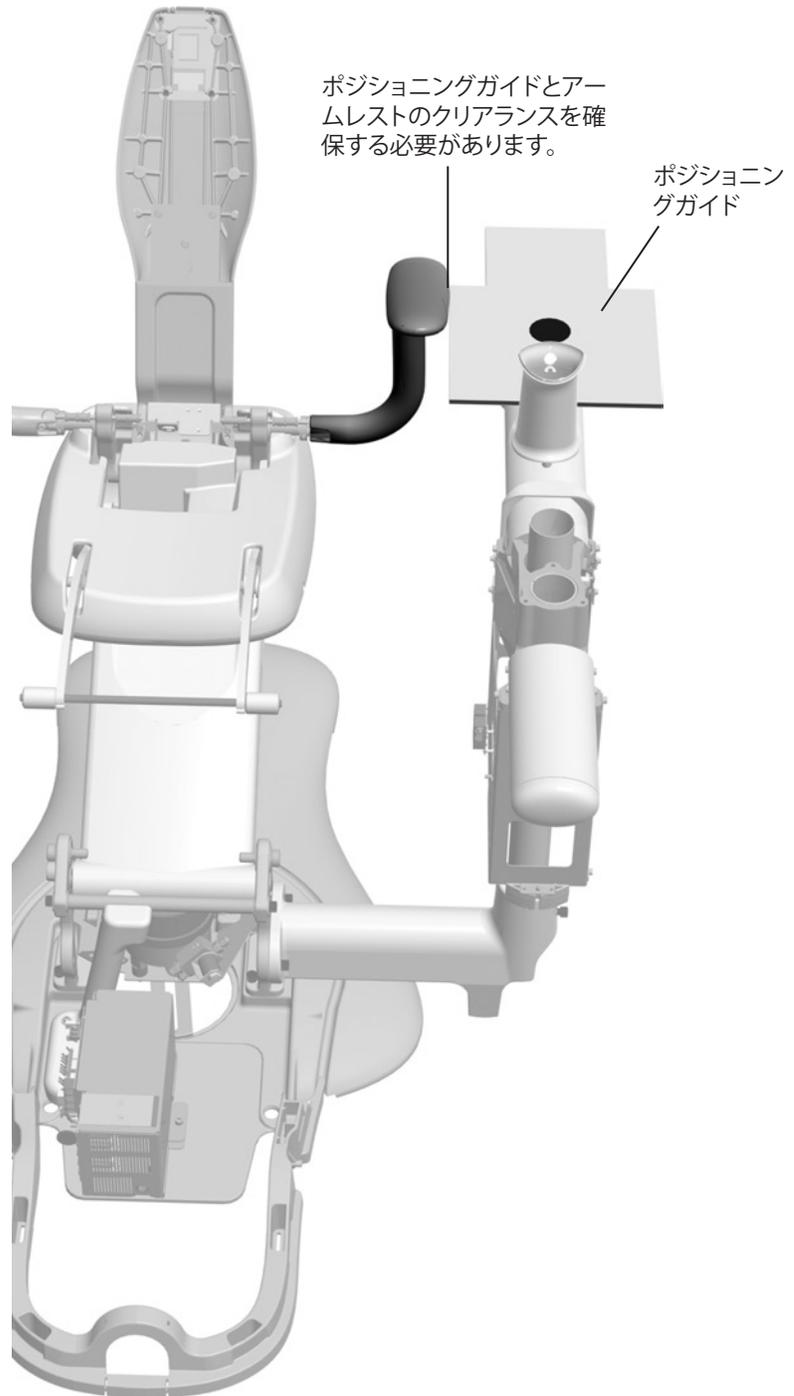
- スピットンを含むA-dec 300システムをお持ちの場合は、ポジショニングガイドとアームレストのクリアランスが確保されるようサポートセンターを位置合わせしてください。ジャンパーを使ってクリアランスをテストするためチェアを上昇、下降させてポイントを検証してください。



警告 スピットンボウルとアームレスト間の適切なクリアランス29ミリ(1-1/8インチ)が得られるよう、ポジショニングガイドとアームレストのクリアランスを確保する必要があります。

- スピットンなしのベースマウントシステム、またはポスト取付型システムをお持ちの場合は、サポートセンターを調整してデンタルチェアと平行になるようにします。

図 15. アームレストに対するポジショニングガイドのクリアランスの確保



- 5/16インチの六角レンチを使用して、ボタンボルトを締め込みます。ボルトを締め込む際は、必ずポジショニングガイドのームレストに対するクリアランスを保持してください。



注意 ボタンボルトを適切に締めめるには、約 $17.63\text{ N}\cdot\text{m}$ (13 ft-lb) のトルクを加えます。



注 ポスト取付型システムをお持ちの場合、サポートセンターの取り付けはこれで完了です。配管と配線の手順については、手順9の後の注に進んでください。

- 5/16インチの六角レンチを使用して、2本の1-1/2インチのソケットスクリューのそれぞれを、サポートセンターポストの穴の裏側に達するまで押し込んで取り付けます。
- 双方のソケットスクリューが完全に固定するまで交互に締め込みます(約 $17.63\text{ N}\cdot\text{m}$ [13 ft-lb]のトルク)。ボルトを締め込む際は、必ずポジショニングガイドのームレストに対するクリアランスを保持してください。
- サポートセンターのチューブとワイヤを、チェアベースマウントから、チェアのベースのユーティリティ部分の中まで通します。



注 ポスト取付型システムを取り付ける場合は、チューブを配管する前にデータ回線からYコネクタを外してください。(Yコネクタは、複数のデータ通信システム装置の接続用として用意されています。) チューブとワイヤを、サポートセンターの底部からコンポリュートを經由してリモートフロアボックス内に通します。

図 16. サポートセンターの固定

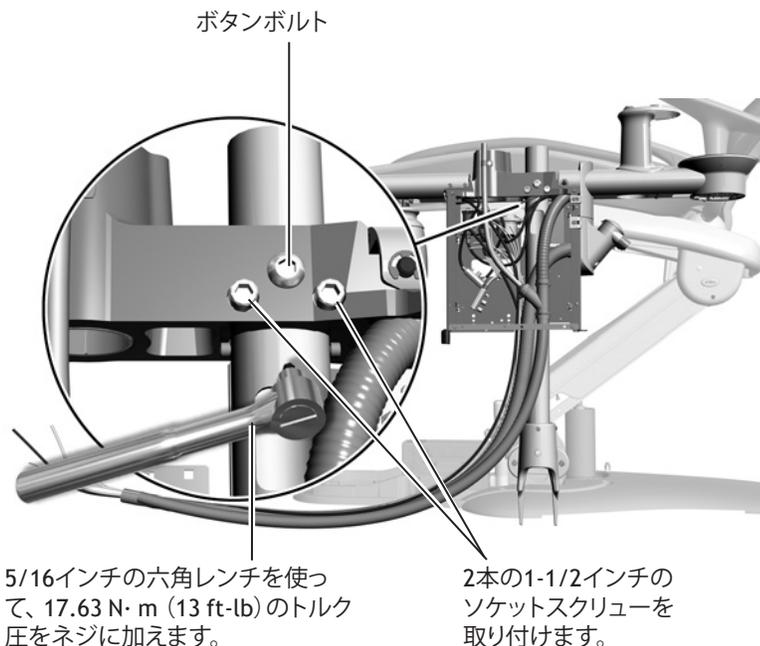
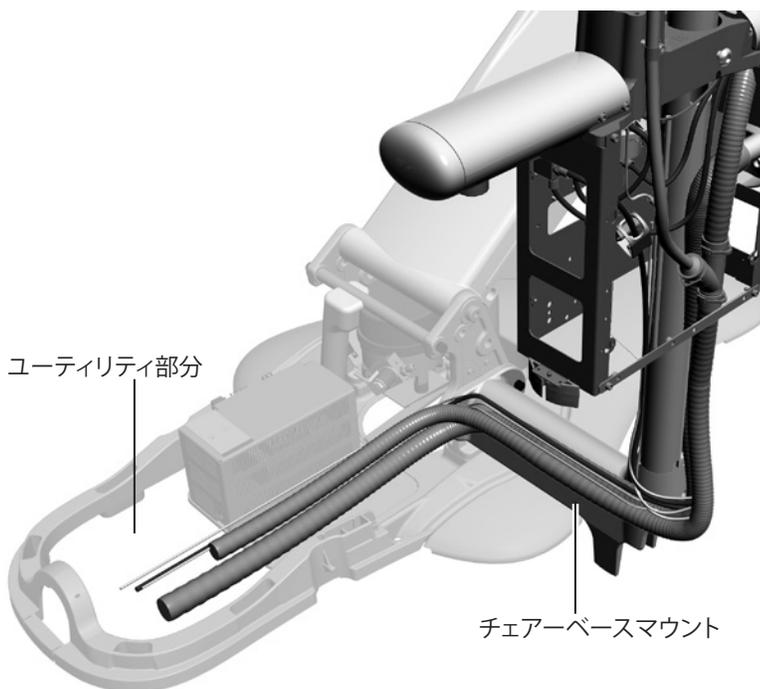


図 17. サポートセンターのチューブ束の配管



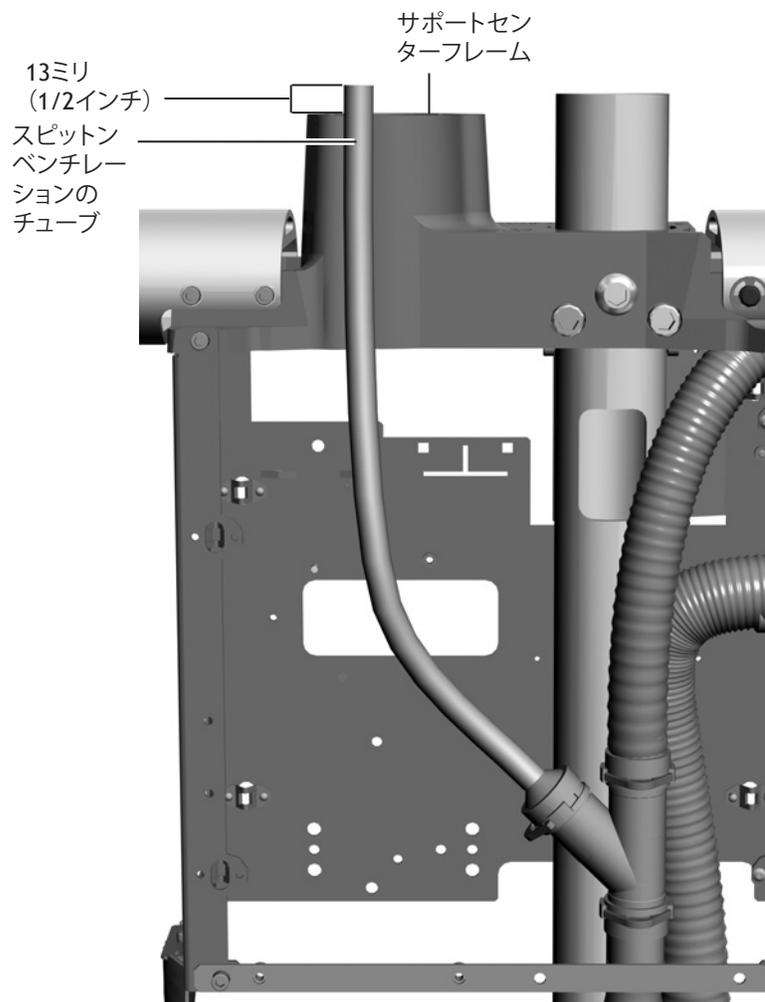
ポスト取付型システムをA-511
チェアに取り付ける場合は、電
源ケーブルとデータ回線をチュ
ーブ束から分離し、サポートセン
ターからマウントの底部を通してリフト
アームの下から電源装置に通しま
す。残りのチューブ束をコンボ
リユートを経由してリモートフロア
ボックス内に通します。

リモートフロアボックスの取り付
けの詳細については、38ページ
の「リモートフロアボックスの取り
付け」を参照してください。



注意 サポートセンターの取り付け
が完了した時点で、スピットンベンチ
レーションチューブの終端が13ミリ
(1/2インチ)サポートセンターフ
レーム上方に位置していることを確
認してください。これにより、スピット
ンが適切に排水していることを確認
します。

図 18. スピットンベンチレーションのチューブの位置の確認



湿分分離器の取り付け(オプション)

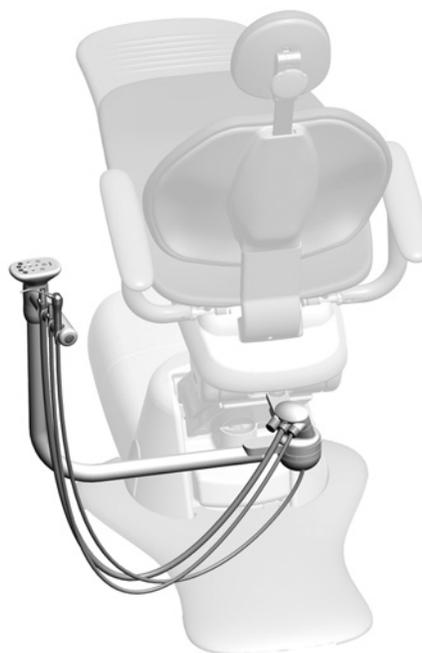
湿分分離器を取り付けるには、湿分分離器キ
ット(部品番号41.1477.00)に含まれている説明
書に参照してください。その後、39ページの「
ユーティリティの接続」を参照してください。

歯科助手用器具の取り付け

歯科助手用器具は3通りの方法で取り付けることができます。

Radius®型(351)	16
スピットン式(353)	18
伸縮式(352)	20

図 19. 歯科助手用器具



A-dec 351 Radius型の歯科助手用器具タッチパッド付き



A-dec 352伸縮式歯科助手用器具タッチパッド付き
(オプション)



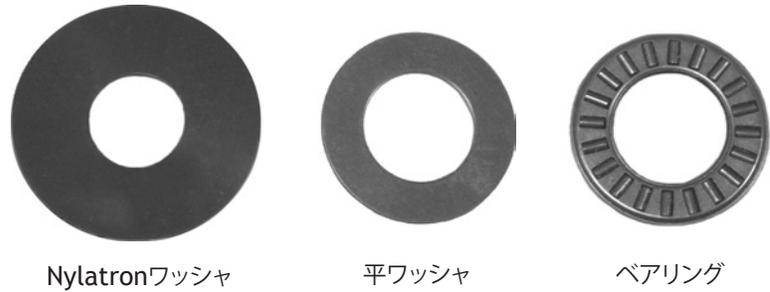
A-dec 353スピットン組込型
歯科助手用器具タッチパッド付き(オプション)

Radius型の歯科助手用器具の取り付け(351)

このセクションに必要な工具

六角レンチセット

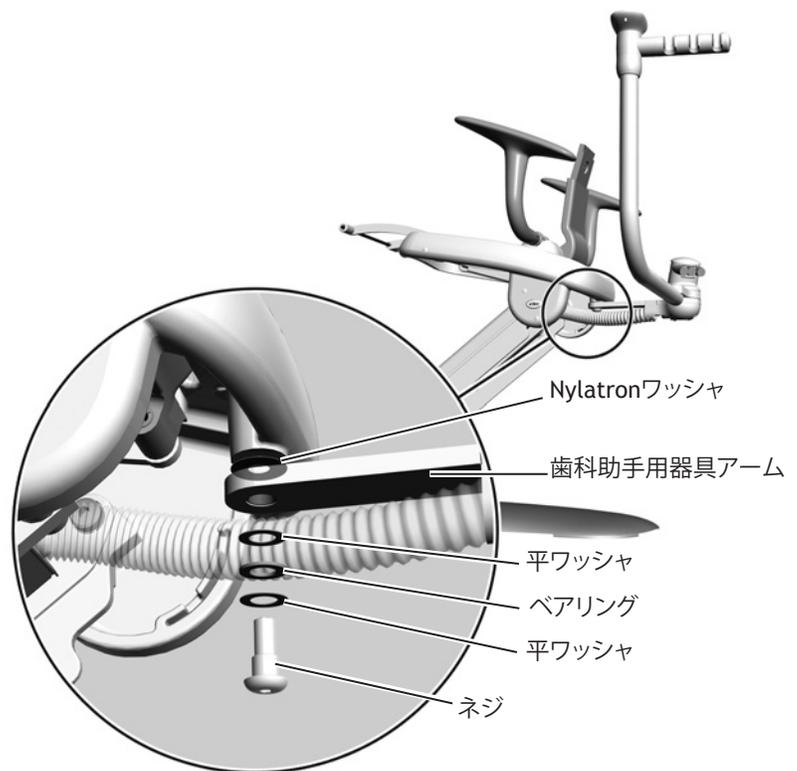
図 20. 使用するワッシャの種類



歯科助手用器具アームの取り付け

1. キットに含まれているベアリングと2つのワッシャをネジにはめます。
2. ネジを歯科助手用器具アームの穴に差し込みます。
3. Nylatron®ワッシャをネジにはめます。
4. Loctite®をネジの先端に取り付けます。
5. 1/4インチの六角レンチを使って、チェアのアームを固く締めます。アームが滑らかに回転し、ずれたりしないようにしてください。
6. 歯科助手用器具のシリンジのホルダーにシリンジを取り付けます。
7. 高容量吸引装置(HVE)と排唾管をそれぞれのホルダーに取り付けてから、それぞれのチューブをバキュームキャニスターに取り付けます。

図 21. 歯科助手用器具アームの取り付け



チューブ、ケーブル、および回線の配線

1. チェアの背面から、リフトシリンダの左から透明な油圧配管の上にバキュームラインを通します。
2. チューブ、電源ケーブル、およびデータ回線を、リフトシリンダの右側からオーバーフローボトルの上に通します。
3. 3/16インチの六角レンチを使って、中央の白色の取付台を固定しているソケットスクリューを緩めます。
4. 一番上のネジと取付台を取り外します。
5. 中央の取付台とリフトアームの間のプレートのノッチをスライドさせます。
6. 一番上のネジと取付台を取り付けなおします。ネジは必ず固く締めてください。
7. 中央のソケットスクリューを締めます。

8. チューブ、電源ケーブル、およびデータ回線を、下部の2つの取付台にケーブル留めで留めます。
9. シリンジチューブをモーターポンプとワイヤカバーの間に通してから、電源の背後に通します。
10. 電源ケーブルとデータ回線をチェアの回路基板まで通します。



注 システムにその他のモジュールが含まれていない場合は、36ページの「曲線型フロアボックスの取り付け」に進んでください。

図 22. 歯科助手用器具プレートの取り付け

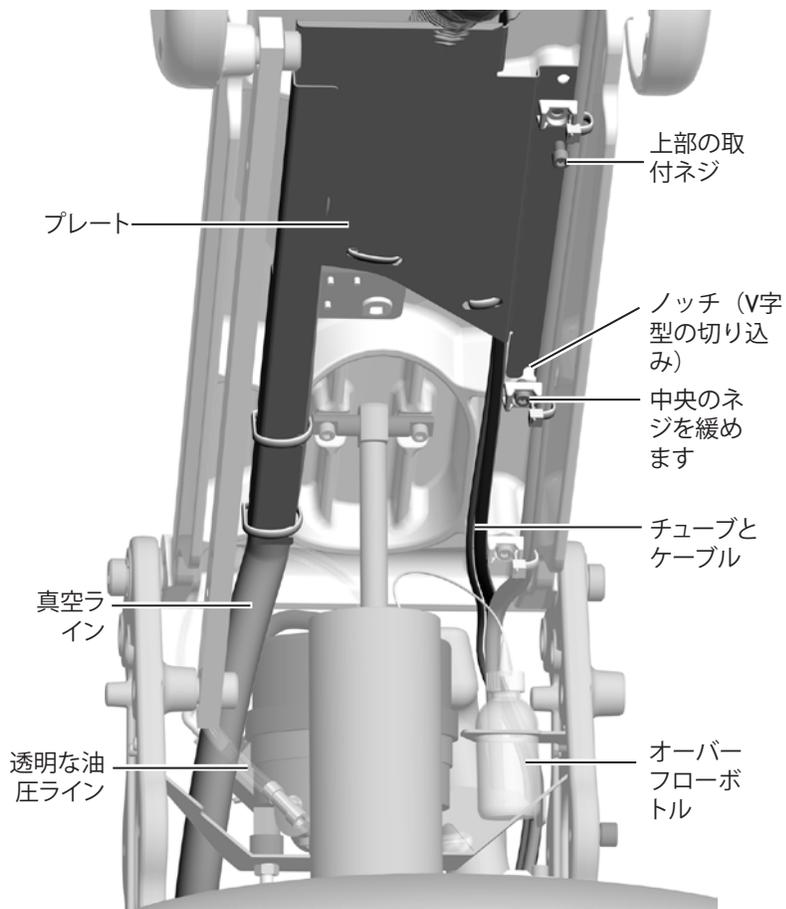
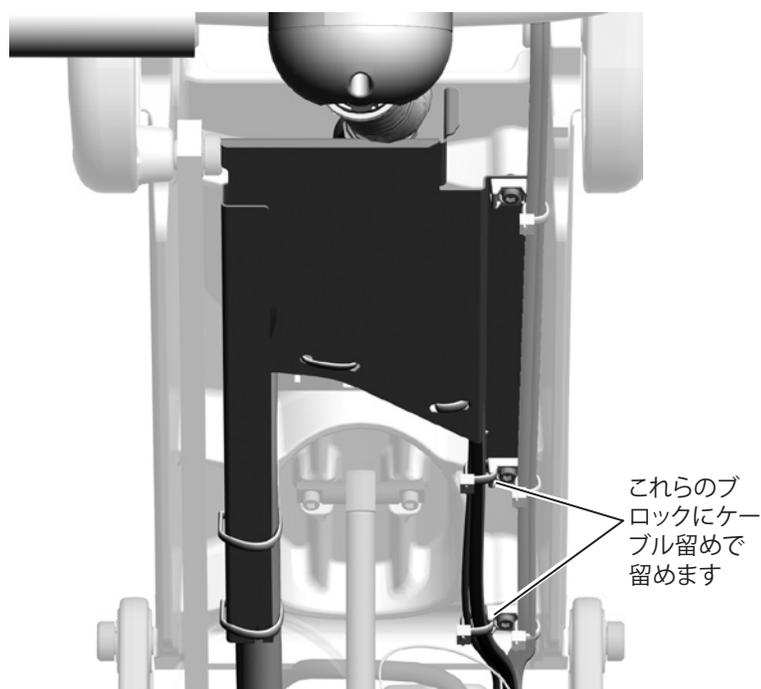


図 23. チューブとワイヤのケーブル留め



スピットン式歯科助手用器具の取り付け(353)

1. カuttingプライヤー(ニッパー)を使用してケーブル留めを切り、ポジショニングガイドを取り外します。



注 ポジショニングガイドとフォームプラグは、スピットンボウルサポート内に残しておきます。スピットンボウルとアームレスト間のクリアランスが適切かどうかを確認するため後刻それらが必要になります。詳細は、96ページの「スピットンボウルとアームレスト間のクリアランス適正度確認」を参照してください。

2. システムにAVSが装備されている場合は、1/8インチの六角レンチを使用して、トグルアセンブリをスピットンボウルサポートの底部に接続している2本のネジを取り外します。
3. 歯科助手用器具にタッチパッドが含まれている場合は、電源ケーブルとデータ回線を上のスピットンホルダーに通します。ワイヤを適切に取り付けるためには、溝の中に最初に電源ケーブルを収めてから、データ回線を収めます。
4. 歯科助手用器具をスピットンホルダーの下に取り付け、ポストがスピットンボウルサポートの底部の穴に合うように、チェアーから離れる角度にします。
5. 歯科助手用器具をスピットンホルダーの底部に取り付けるには、3/16インチの六角レンチを使用して1/4-20 x 1インチのネジを中央に取り付け、5/32インチの六角レンチを使用して中心からはずれた大きな埋め込み式の穴に10-32 x 5/8インチのネジを取り付けます。
6. 手順2でAVSトグルアセンブリを取り外した場合は、ここで再度接続します。

このセクションに必要な工具

斜ニッパー	スリーブプッシャー
六角レンチセット	

図 24. 下から見たタッチパッドへの配線

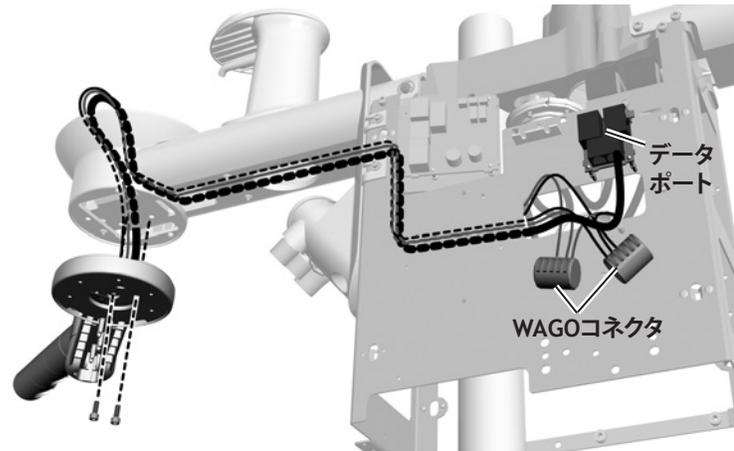


図 25. 上から見たタッチパッドへの配線



図 26. ソケットスクリュー (実寸表示)



1/4-20 x 1インチ - ミドルホールに取り付けます



10-32 x 5/8インチ - 埋め込み式の穴に取り付けます

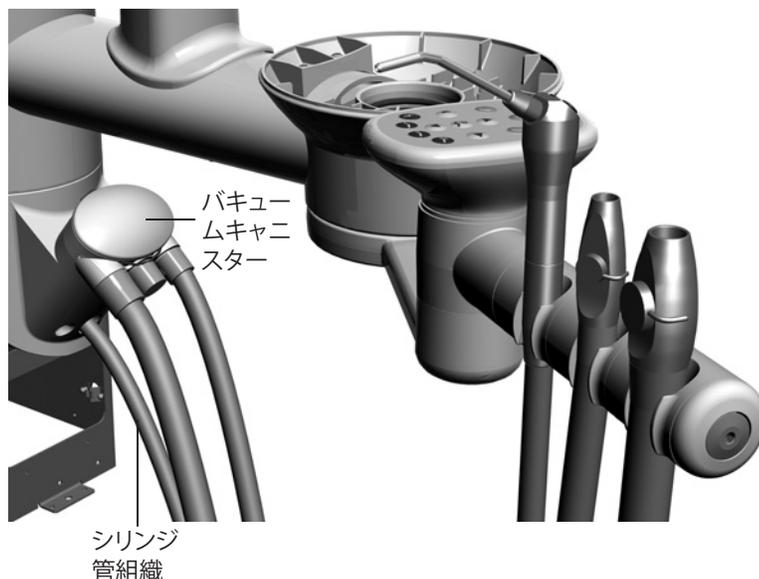
7. システムにタッチパッドが含まれている場合は、データ回線と電源ケーブルをサポートセンターに通します(18ページの図24を参照)。
8. 高容量吸引装置(HVE)と排唾管をそれぞれのホルダーに取り付けてから、それぞれのチューブをバキュームキャニスターに取り付けます。



注 システムにAVSが含まれている場合、HVEと排唾管は出荷時に取り付けられているため、取り外すことはできません。

9. シリンジをホルダーに取り付け、バキュームキャニスターの下にあるそのチューブをセンターホールに通します。

図 27. HVE、排唾管、およびシリンジチューブの配管



10. ケーブル留めとワッシャを使用して、シリンジチューブの張力緩和を作ります。チューブをしっかり支えるため、ケーブル留めで二重の輪を作ります。



ヒント 張力緩和装置をセットするとき、チューブを他の器具のチューブの緩みに合わせるよう十分な長さを残してください。



注 システムに他のモジュールが含まれていない場合は、システム構成のセクションに進んでください：

- ベースマウントシステム - 36ページの「曲線型フロアボックスの取り付け」
- ポスト取り付け型システム - 38ページの「リモートフロアボックスの取り付け」

図 28. 歯科助手用シリンジの張力緩和装置の取り付け



伸縮式アームに装着された 歯科助手用器具の取り付け (352)

1. 3/16インチの六角レンチと3本の1インチのソケットスクリューを使用して、サポートセンターに伸縮式アーム用ハブを取り付けます。ハブ上のストッパーをチェア先端部の方向へ向くよう移動します。

2. 歯科助手用ホルダーアセンブリの下部にあるバンプ継手に覆いを押し込みます。
3. 歯科助手用アームをハブにセットします。
4. ウェーブワッシャの端を下に押しつけてハブの頭頂部を捉えます。ワッシャの押し下げを、完全に所定の位置に収まるまでハブ周りの作業を系統的に続けます。
5. 高容量吸引装置(HVE)と排唾管をそれぞれのホルダーに取り付けてから、それぞれのチューブをバキュームキャニスターに取り付けます。
6. システムにタッチパッドがある場合：
 - (1) タッチパッド管組織をバキュームキャニスターの下側の右にある穴を通して配置します(この穴が一番大きい穴です)。
 - (2) チューブ上にワッシャを取り付けてから、チューブ内にブッシング(軸受筒)を差し込んで、張力緩和装置を取り付けます。



ヒント 張力緩和装置をセットするとき、チューブを他の器具のチューブの緩みに合わせるよう十分な長さを残してください。

このセクションに必要な工具

3/16インチの六角レンチ スリーブプッシャー
斜ニツパー

図 29. 伸縮式アームハブの取り付け

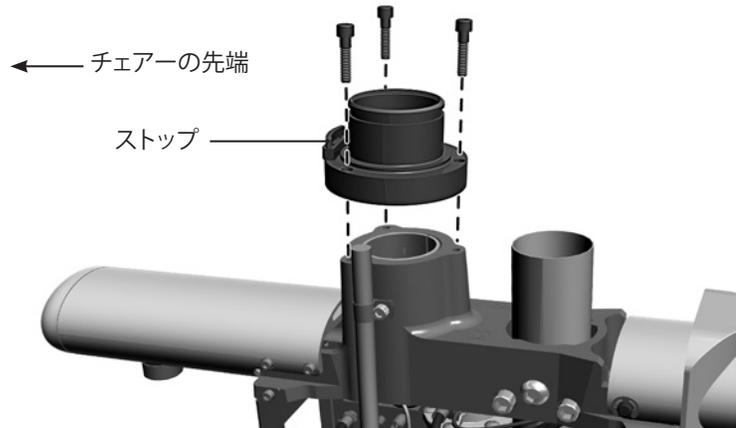


図 30. 伸縮式アームの取り付け

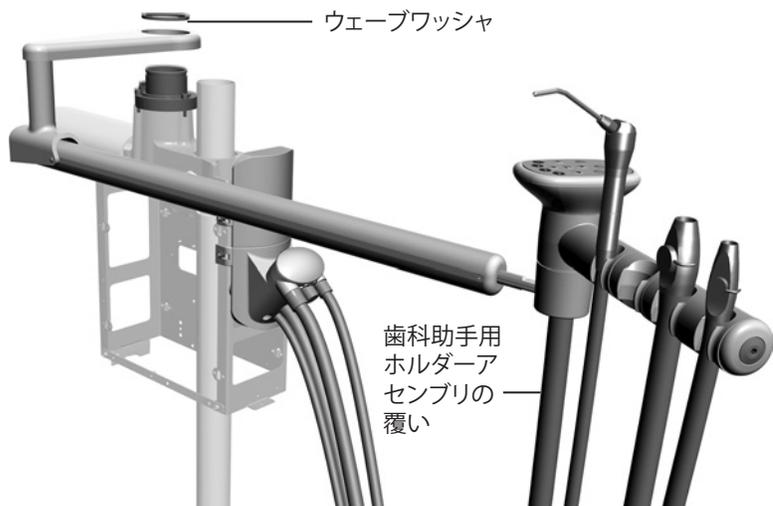
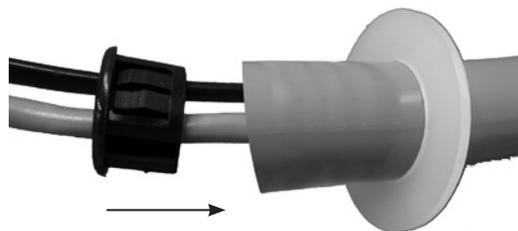
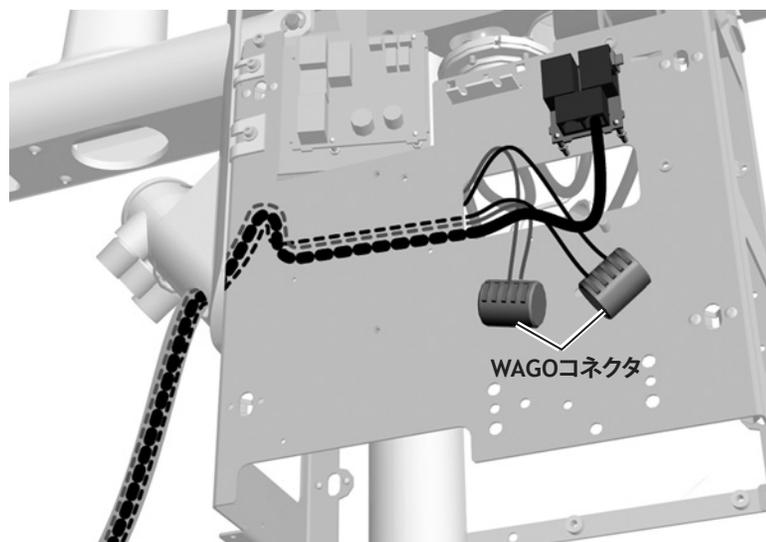


図 31. タッチパッドのチューブの張力緩和装置の取り付け



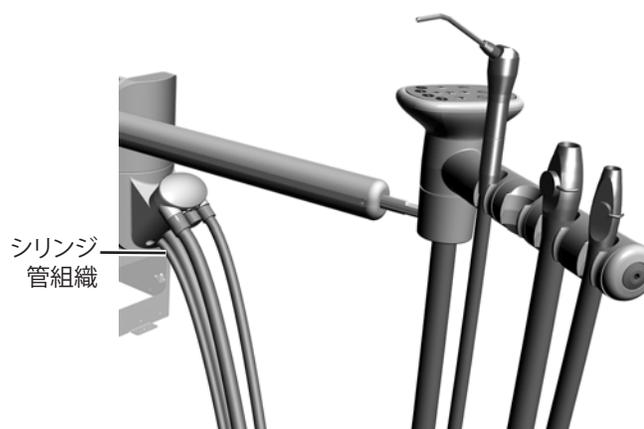
- (3) データ回線と電源ケーブルをサポートセンターに通します。

図 32. データ回線と電源ケーブルの配線



7. シリンジをホルダーに取り付け、バキュームキャニスターの下にあるそのチューブをセンターホールに通します(20ページの図 30を参照)。

図 33. シリンジチューブの配管



8. ケーブル留めとワッシャを使用して、シリンジチューブの張力緩和を作ります。チューブをしっかりと支えるため、ケーブル留めで二重の輪を作ります。



ヒント 張力緩和装置をセットするとき、チューブを他の器具のチューブの緩みに合わせるよう十分な長さを残してください。

図 34. 歯科助手用シリンジの張力緩和装置の取り付け



注 システムに他のモジュールが含まれていない場合は、システム構成のセクションに進んでください:

- ベースマウントシステム - 36ページの「曲線型フロアボックスの取り付け」
- ポスト取り付け型システム - 38ページの「リモートフロアボックスの取り付け」

デリバリーシステムの 取り付け

A-dec300システムは、TraditionalまたはContinentalデリバリーシステムと共に構成することができます。取付手順は両方とも同じです。

デリバリーシステムは、Radius型にすることも、サポートセンターに取り付けることもできます。

Radius型 (332および333) 23
サポートセンター取付型 (354および335) . . 29

図 35. デリバリーシステム



A-dec 332 Radius型のTraditionalデリバリーシステム



サポートセンターに取り付けられた
A-dec 335 Continentalデリバリーシステム

Radius型デリバリーシステム (332および333) の取り付け

固定アームの取り付け

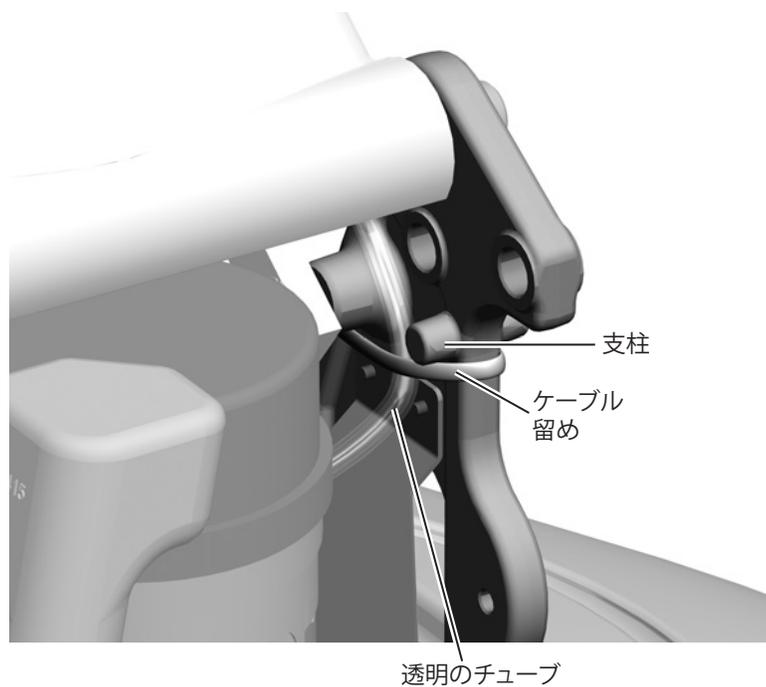
1. チェアを上昇できる限界まで上昇させます。
2. 電源を切ります。

3. リフトシリンダからモーターポンプへの透明な油圧配管を固定しているケーブル留めを切り落とします。
4. チューブを押して、チェアタワーの支柱の背後に回します。

このセクションに必要な工具

六角レンチセット	斜ニッパー
スリーブプッシャー	可動レンチ
巻尺	

図 36. チェアタワーの準備



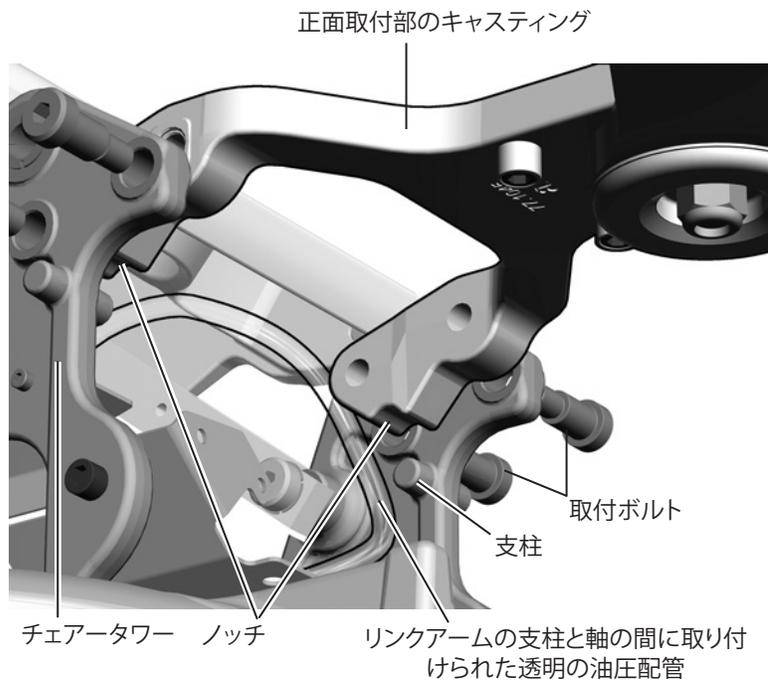
5. チェアタワーの支柱の上にある正面取付部のキャストにノッチを取り付けます。



注意 挟んで傷が付かないよう、すべてのチューブとワイヤを必ず支柱から離してください。

6. 固定アームを適切な位置で保ちながら、一方の側に前部ボルトを取り付けてから後部ボルトを取り付け、指で締めます。
7. もう一方の側にボルトを取り付けてから、5/16インチの六角レンチを使ってすべてのボルトを固く締めます。

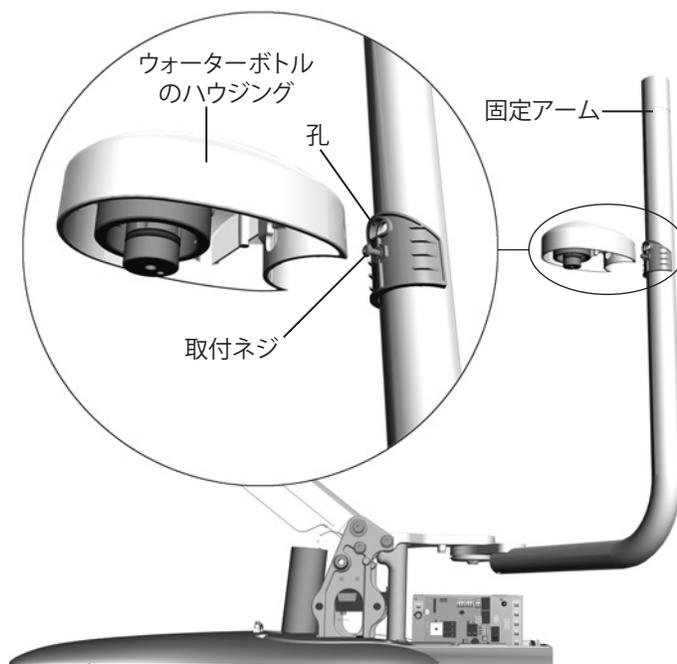
図 37. 固定アームの取り付け



ウォーターボトルの取り付け

1. 1/8インチの六角レンチを使って、固定アームの穴の下にあるネジを緩めます。
2. ウォーターボトルのチューブを穴の中に通し、アームを通して底部に出します。
3. ウォーターボトル収納部を取付ネジに差し込み、アームに固定します。

図 38. ウォーターボトルの取り付け



フレックスアームとコントロールヘッドの取り付け

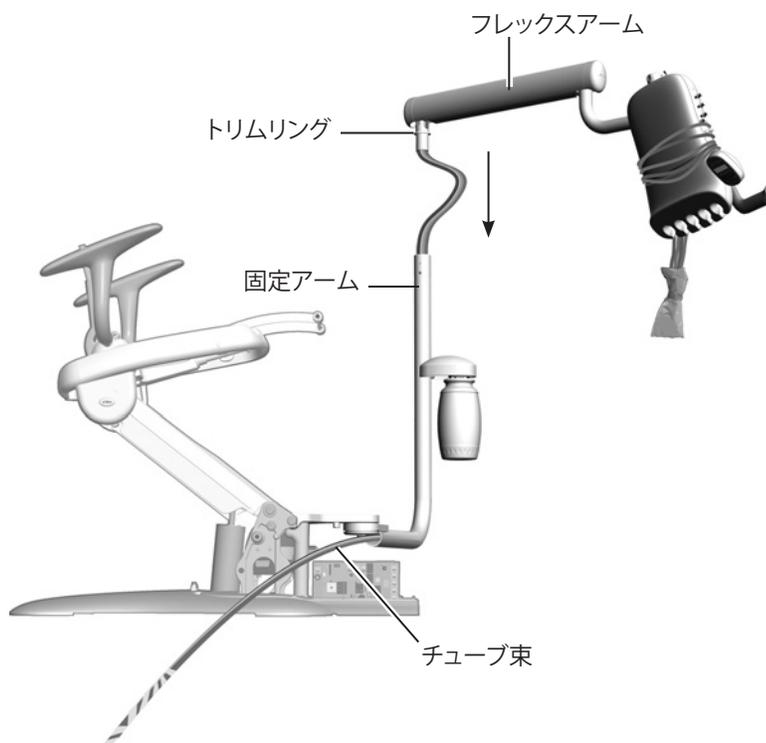
1. トリムリングをデリバリーシステムのチューブ束に固定しているケーブル留めを切り落とします。
2. デリバリーシステムをボックスから取り外して、後ろのコントロールヘッドとよくバランスを取って肩の上に乗せて、片手でチューブ束を配管できるようにします。
3. デリバリーシステムのチューブ束を固定アームの上から下に通します。



ヒント Traditionalデリバリーシステムのハンドピースのチューブを邪魔にならない場所に置くには、フレックスアームを取り付ける前にコントロールヘッドに巻き付けます。

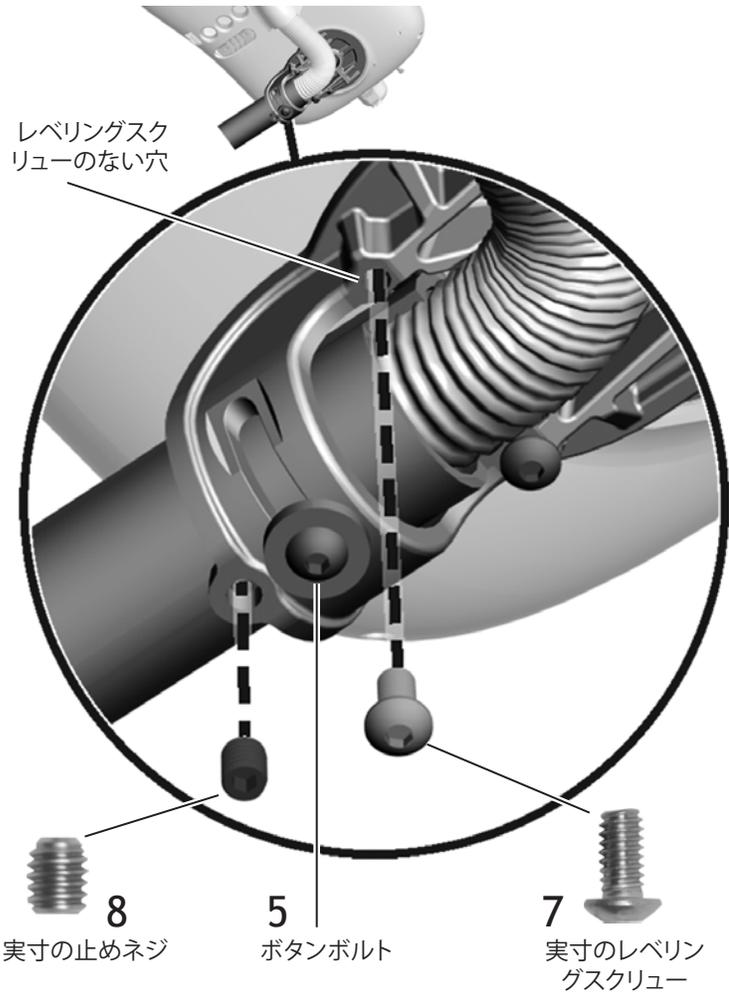
4. フレックスアームを固定アームに差し込んで、奥までしっかりと入れます。

図 39. フレックスアームの取り付け



5. 5/32インチの六角レンチを使って、ボタンボルトを緩めます。
6. コントロールヘッドを回転させて、レベリングスクリューのない穴に位置を合わせます。

図 40. コントロールヘッドの取り付け



7. 5/32インチの六角レンチを使って、1/4-20 x 1/2インチのレベリングスクリューを締めます。
8. 5/32インチの六角レンチを使って、3/8インチの止めネジを取り付けます。
9. ハンドピースのチューブをそれぞれのホルダーに取り付け、コントロールヘッドの側面のそれぞれの穴に調整キーを差し込みます。



注 Continentalデリバリーシステムを取り付ける場合は、ホイップにホイップフックを挿入します。ホイップフックの最上端は、コントロールヘッドの前面に向かい合います。

図 41. ホイップフックと調整キーの差し込み



配管と配線

1. チェアの背面側から、フットコントロールチューブを張力緩和装置の上と電源装置の背後を通します。
2. ウォーターボットのチューブを、固定アームが出ている位置から約90cm(3フィート)測ります。余った部分は切り落とします。
3. 固定アームの背部のウォーターボットのチューブの覆いを取り除きます。



ヒント ユーティリティを接続する際にデリバリーシステムのチューブと区別できるよう、ウォーターボットのチューブの終端に印を付けます。

4. ウォーターボットとデリバリーシステムの両方のチューブ束を、コンボリユートに通します(図43を参照)。

5. ケーブル留めを固定アームの2つの穴に通して輪を作ります。
6. コンボリユートを固定アームの中に約1インチ(2,3センチ)押し込んで、輪の中を通します。
7. ケーブル留めを締めて、コンボリユートを固定します。

図 42. フットコントロールチューブの配管

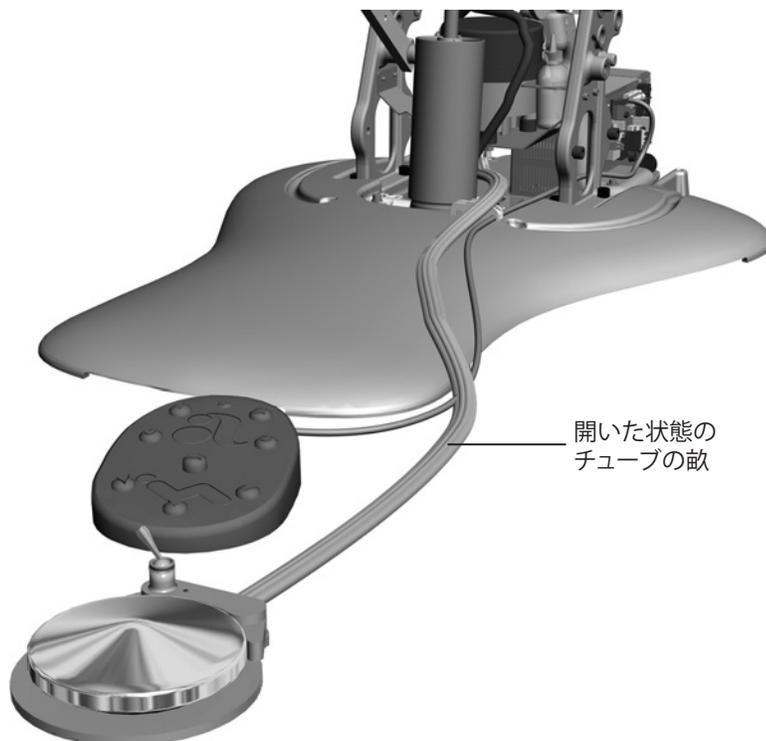
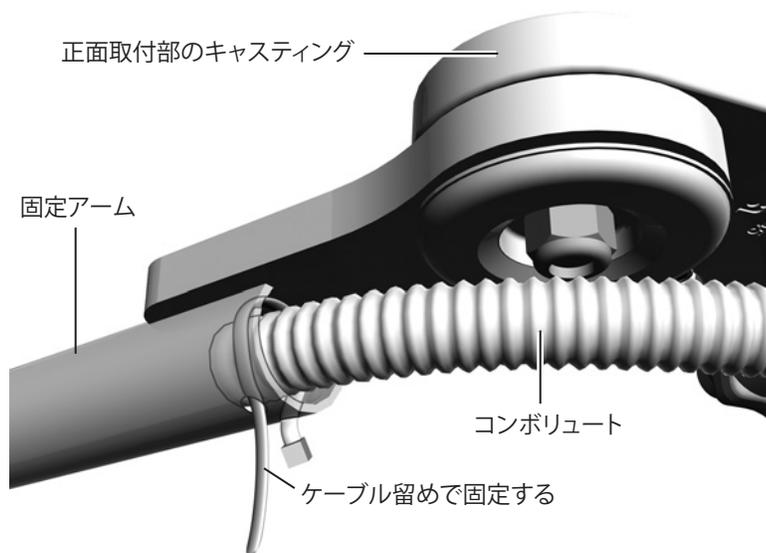


図 43. コンボリユートへのチューブ束の配管



8. ウォーターボトルとデリバリーシステムのチューブの端にあるテープを外します。

9. ウォーターボトルとデリバリーシステムのチューブを、上の正面取付部から(必ず黒色の油圧配管の裏側を通して)、下の電源装置の背部に通します。

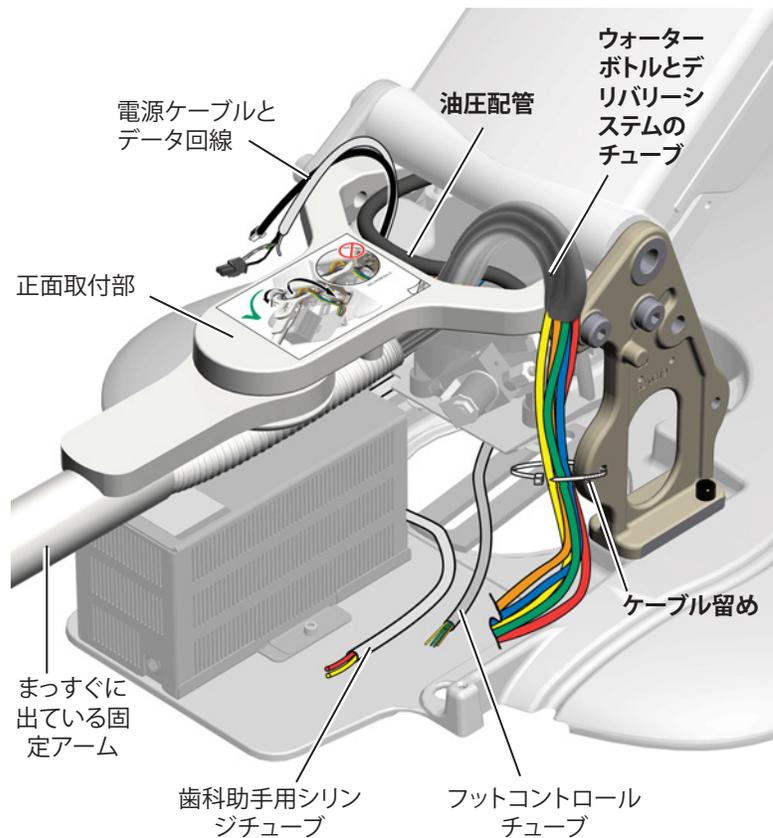


注 配管が不適切な場合は、デリバリーシステムの固定アームの移動が妨げられる可能性があります。

10. デリバリーシステムの電源コード、アース線、およびデータ回線を、上の正面取付部から、下の電源装置のチェアの回路基板に通します。

11. システムに歯科助手用器具が含まれている場合は、リフトシリンダ近くにあるシリンジチューブを電源装置の背部に通します。

図 44. 配管と配線



チューブの配置

1. 固定アームを、チェアの中央からまっすぐ正面取付部に沿うように設置します。
2. チューブをきれいにまとめます。それをチェアタワーにケーブル留めで留めます。



注 システムにトレイホルダーがある場合は、32ページの「トレイホルダー(オプション)の取り付け」を参照してください。ない場合は、36ページの「曲線型フロアボックスの取り付け」に進んでください。

サポートセンターに取り付けられたデリバリーシステムの取り付け(334および335)

部品の取り付け

1. チェアーを下降させます。電源を切ります。
2. デリバリーシステムポストに正しいトリムリングが付属しているかを確認してください。
 - システムにデリバリーシステムが含まれていても、伸縮式アームに装着された歯科助手器具がない場合は、図 45の上のトリムリングを使用します。
 - システムにデリバリーシステムと伸縮式アームに装着された歯科助手器具が含まれている場合は、図 45の下のトリムリングを使用します。

このセクションに必要な工具

六角レンチセット	斜ニッパー
可動レンチ	スリーブプッシャー

図 45. デリバリーシステムポスト用トリムリング

このトリムリングはデリバリーシステムポストに付属して出荷されます。



デリバリーシステムに付属するトリムリング

このトリムリングは、歯科助手用器具ボックスに同梱されて出荷されます。



デリバリーシステムに付属するトリムリングおよび、伸縮式アームに装着された歯科助手用器具

3. デリバリーシステムを梱包箱から出して、片手でチューブ束を配管できるように、よくバランスを取って肩の上に載せます。

チェアの手前部分に向けてサポートセンターのポストホールのデリバリーシステムを挿入します。

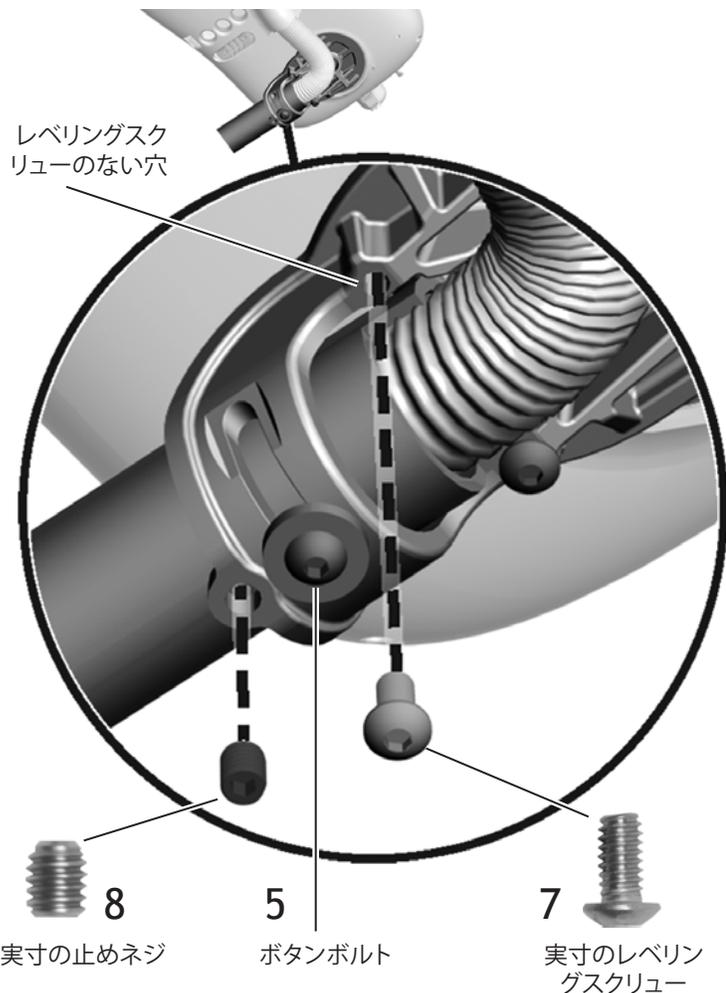
4. チューブ束をサポートセンターへ配置し、次にデリバリーシステムポストをサポートセンターへ完全に着座するまで挿入します。

図 46. デリバリーシステムの運搬



5. 5/32インチの六角レンチを使って、ボタンボルトを緩めます。
6. コントロールヘッドを回転させて、レベリングスクリューのない穴に位置を合わせます。

図 47. コントロールヘッドの取り付け



7. 5/32インチの六角レンチを使って、1/4-20×1/2インチのレベリングスクリューを締めます。
8. 5/32インチの六角レンチを使って、3/8インチの止めネジを取り付けます。

9. ハンドピースのチューブをそれぞれのホルダーに取り付け、コントロールヘッドの側面のそれぞれの穴に調節キーを差し込みます。



注 Continentalデリバリーシステムを取り付ける場合は、ホイップにホイップフックを挿入します。ホイップフックの最上端は、コントロールヘッドの前面に向かい合います。

図 48. ホイップフックと調整キーの差し込み



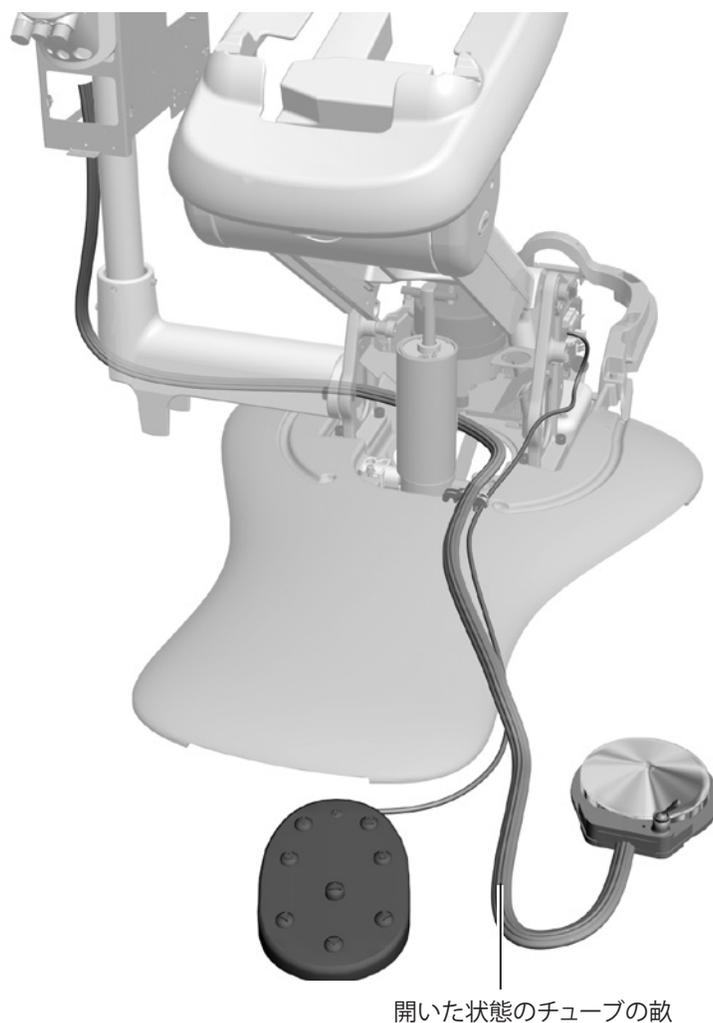
フットコントロールチューブの配管

1. チェアを上昇できる限界まで上昇させます。
2. チェアの背面から、フットコントロールをチェアベースマウントに通し、サポートセンターの中で上に通します。



注 ポスト取付型システムをお持ちの場合は、フットコントロールのチューブを、コンポリュートを支えるサポートセンター底部のブラケットの穴に通します。

図 49. フットコントロールチューブの配管



注 システムにトレイホルダーがある場合は、次のページの「トレイホルダー(オプション)の取り付け」を参照してください。ない場合は、システム構成に該当するセクションに進んでください:

- ベースマウントシステム - 36ページの「曲線型フロアボックスの取り付け」
- ポスト取り付け型システム - 38ページの「リモートフロアボックスの取り付け」

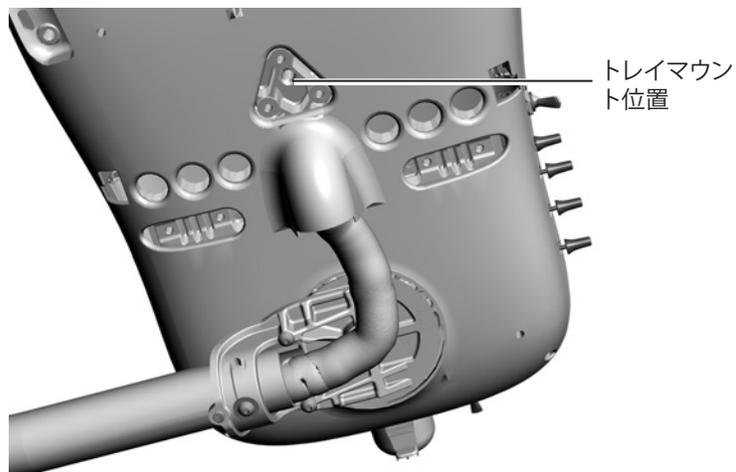
トレイホルダー (オプション) の取り付け

トレイホルダーを取り付けるには、デリバリーシステムのタイプを選択し、必要な手順を実行します。

Continentalデリバリーシステム

5/32インチの六角レンチと3本の10-32 x 3/4ネジを使って、コントロールヘッド底部の中央にマウントアームを取り付けます。

図 50. Continentalコントロールヘッド上のトレイマウントの位置



Traditionalデリバリーシステム

! 注 大型トレイホルダーのマウントアームへの取り付け方法は小型トレイホルダーと異なります。正しい向きについては、図 51と図 52を参照してください。

1. 1/8インチの六角レンチと10-32x1/2インチのネジを使って、トレイホルダーの底部をマウントアームに取り付けます。

! 注意 ネジを締めすぎないようにしてください。締めすぎると、トレイの表面が損傷したり、マウントが壊れたりする恐れがあります。

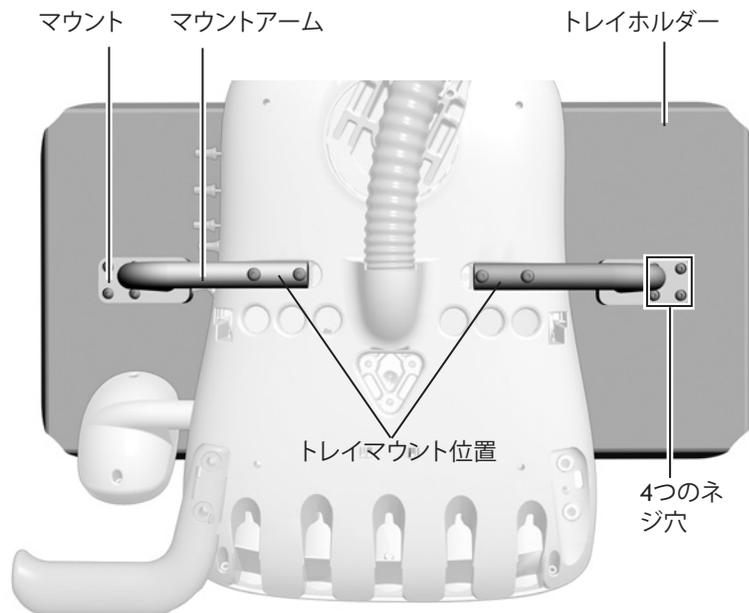
2. 1/8インチの六角レンチと2本の10-32x1インチのボタンボルトを使って、コントロールヘッド底部の側面にマウントアームを取り付けます。

💡 ヒント トレイホルダーはコントロールヘッドのどちら側にも取り付けられますが、より良いキーへのアクセスを得るため調整キーの反対側の側面に取り付けると便利な場合があります。

! 注 システムに他のモジュールが含まれていない場合は、システム構成のセクションに進んでください：

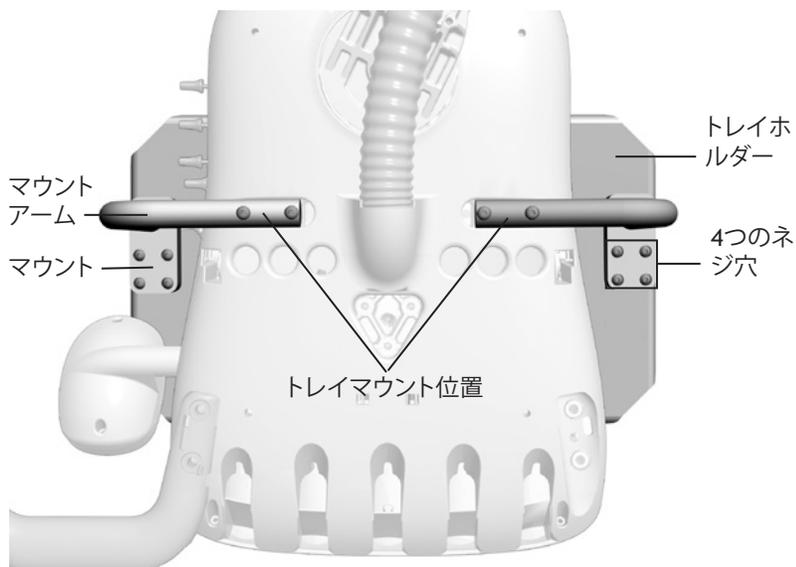
- ベースマウントシステム - 36ページの「曲線型フロアボックスの取り付け」
- ポスト取り付け型システム - 38ページの「リモートフロアボックスの取り付け」

図 51. 大型トレイホルダーの取り付け



大型のトレイホルダーを取り付ける場合は、コントロールヘッドの側面から離れたマウントの4つのネジ穴に合わせてください。

図 52. 小型トレイホルダーの取り付け



小型のトレイホルダーを取り付ける場合は、コントロールヘッドの前面方向にあるマウントの4つのネジ穴に合わせてください。

歯科ライトの取り付け

A-dec 371またはA-dec 300用571歯科ライトの部品の取り付け手順は、取り付けるデンタルチェアのタイプに関わらず同じ手順です。ライトケーブルの配置および接続は、取り付けるシステムによって変わります。

歯科ライト部品の取り付け

1. トリムリングをサポートセンターポストの上部までスライドさせてから、サポートセンターポストに間柱を差し込みます。

間柱に差し込まれた穴がチェアの方を向くようにします。

A-dec 382歯科ライトを取り付ける場合は、間柱に差し込まれた穴がトウボードと同じ方向を向くようにします。



注 支柱をきちんと奥まで差し込んでも、白塗りの部分は完全にはつながりません。サポートセンターカバーの背後に隙間ができます。

2. ゴム製マレットで間柱の頭頂部を軽く叩きます。あまり強く叩きすぎると取り外すのが難しくなります。
3. 間柱内にプラスチックベアリングを挿入します。
4. ライトポスト上にトリムカバーを取り付けます。
5. ライトケーブルを間柱内に通します。

ライトポストを間柱に差し込んで、しっかりと押し込み、ベアリングと間柱の上にトリムカバーを滑り落とします。

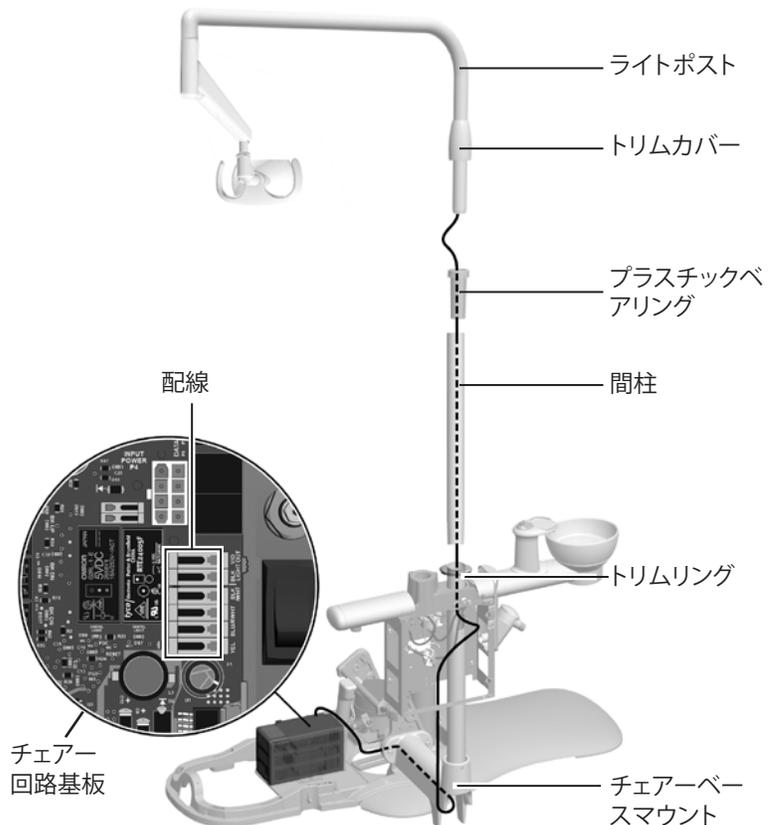
このセクションに必要な工具

ゴム製マレット

図 53. A-dec 371 歯科ライト



図 54. 歯科ライトの取り付け



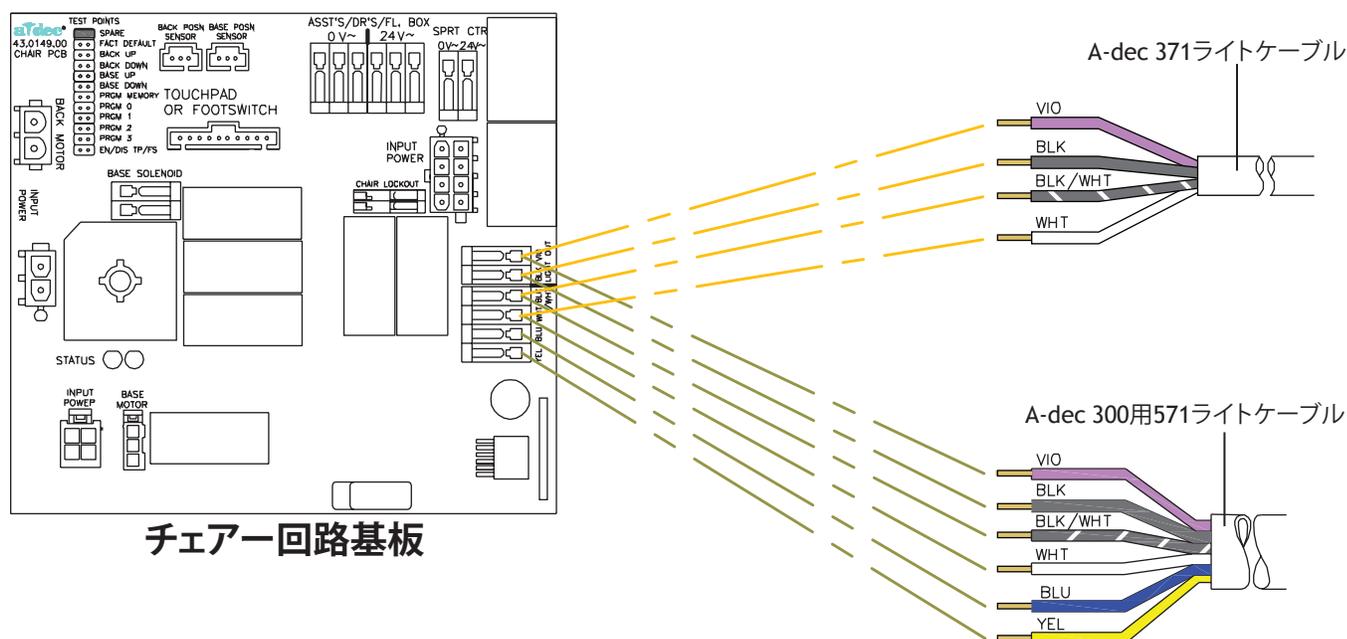
歯科ライトのケーブルの配線と接続



注意 回路基板上の電装品は、静電気の影響を受けやすいので、取扱いに安全上の注意が必要です。

1. 歯科ライト部品が取り付けられている状態で、サポートセンター底部とチェアベースマウントを經由しての、チェア下部のユーティリティ部分にあるチェアの回路基板へのライトケーブルの配線を完了してください(前のページの図 54を参照)。
2. 電源を切ります。
3. そのシステムに該当するタイプのライト用歯科ライトワイヤをチェアの回路基板上のそれぞれの接続部に取り付けます。
 - **A-dec 371**には、端子板J5に接続する黒色と紫色のワイヤに加えて、端子板J6に接続する黒色/白色と白色のワイヤが付属しています。
 - **A-dec 300用571**には、端子板J5に接続する黒色と紫色のワイヤに加えて、端子板J6に接続する黒色/白色、白色、青色、および黄色のワイヤが付属しています。

図 55. 歯科ライトのワイヤの接続



注 ポスト取付型システムをお持ちの場合、チェアにA-dec 371またはA-dec 300用571ライトを取り付ける方法については、キットに付属の以下の説明書を参照してください:

- A-dec 511デンタルチェア - 部品番号86.0119.00
- A-dec Cascade, Decade, Performer、またはPriorityデンタルチェア - 部品番号86.0118.00

曲線型フロアボックスの取り付け

曲線型フロアボックスのフレームの取り付け

1. 曲線型フロアボックスのフレームをユーティリティの近くに置きます。フレームの背面は、114 mm(4.5インチ)より高い物からは少なくとも76 mm(3インチ)離してください。図 56のグレーの縞模様の部分には、絶対に何も入り込ませないようにしてください。



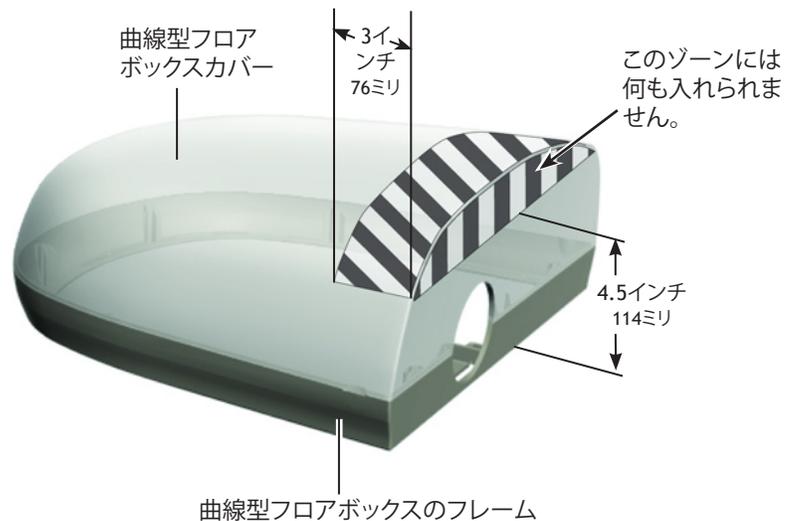
注意 前述の適切なスペースがない場合は、電源装置カバーを取り付けることができません。

2. フレームを床に取り付けます。
- フローリングの場合は、プラスドライバーと1-1/4インチのサイズ#10のネジを使用します。
 - コンクリートの床の場合は、1/4インチのメーソンリードドリルビットを使用して、ネジがフレームを通れる穴を2つ作ります。それらの穴にプラスチックアンカーを差し込んでから、プラスドライバーと1-1/4インチのサイズ#10のネジを使用します。

このセクションに必要な工具

巻尺	1/4インチのメーソンリードドリルビット
プラスドライバー	スリーブプッシャー
斜ニッパー	プライヤー

図 56. 曲線型フロアボックスのカバーとフレーム



コンボリユートチューブの取り付け

1. チェアへの電源を抜きます。
2. 電源装置カバーのフレームと曲線型フロアボックスカバーのフレームの間の距離を測り、コンボリユートをその長さに切り取ります。

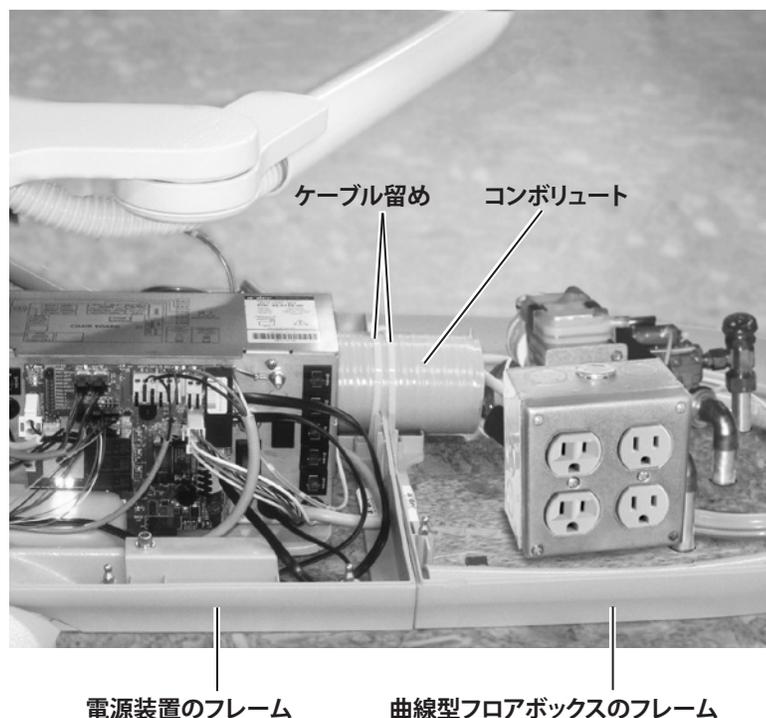


ヒント コンボリユートは、フレームに固定できるように、各フレームから2、3インチ以上伸びます。

3. コンボリユートを電源装置のフレームのケーブル留めに通して、ケーブル留めの5 cm(2インチ)を越えるまで通します。
4. プライヤーを使ってケーブル留めを締め、コンボリユートをしっかり固定します。余分なケーブル留めを切り落とします。
5. コンボリユートを曲線型フロアボックスのフレームのケーブル留めに通して、ケーブル留めの5 cm(2インチ)を越えるまで通します。
6. プライヤーを使ってケーブル留めを締め、コンボリユートをしっかり固定します。余分なケーブル留めを切り落とします。
7. チューブ、電源コード、およびバキュームラインをコンボリユートに通します。

これでシステムを接続できる状態になりました。詳細な手順については、39ページの「ユーティリティの接続」を参照してください。

図 57. コンボリユートの取り付けとユーティリティの配線



リモートフロアボックスの取り付け

1. リモートフロアボックスから保護材を取り除いてから、フロアボックスをユーティリティの上に設置します。
2. フロアボックスからサポートセンターの一番下までの長さを測り、その長さに合わせてコンボリユートを切り取ります。
3. プラスドライバーと6本のサイズ#10のネジを使って、床にフロアボックスを固定します。

これでシステムを接続できる状態になりました。詳細な手順については、次のページの「ユーティリティの接続」を参照してください。

このセクションに必要な工具

斜ニッパー	プラスドライバー
5/64インチの六角レンチ	スリーブプッシャー

図 58. リモートフロアボックス



ユーティリティの接続

システム構成に合った手順を参照してください。

Radius型のフロアボックスのユーティリティ	39
Radius型のモジュール	41
Radius型の歯科助手用器具 (Radius型のみ)	45
サポートセンターの電源とデータ	46
サポートセンターのフロアボックスのユーティリティ	55
サポートセンターのモジュール	57

Radius型のフロアボックスのユーティリティ

Radius型のモジュールは、曲線型フロアボックスのユーティリティに接続します。図 60に示されている空気や水の接続を行うには、キットに含まれているアンビリカルを使用します。

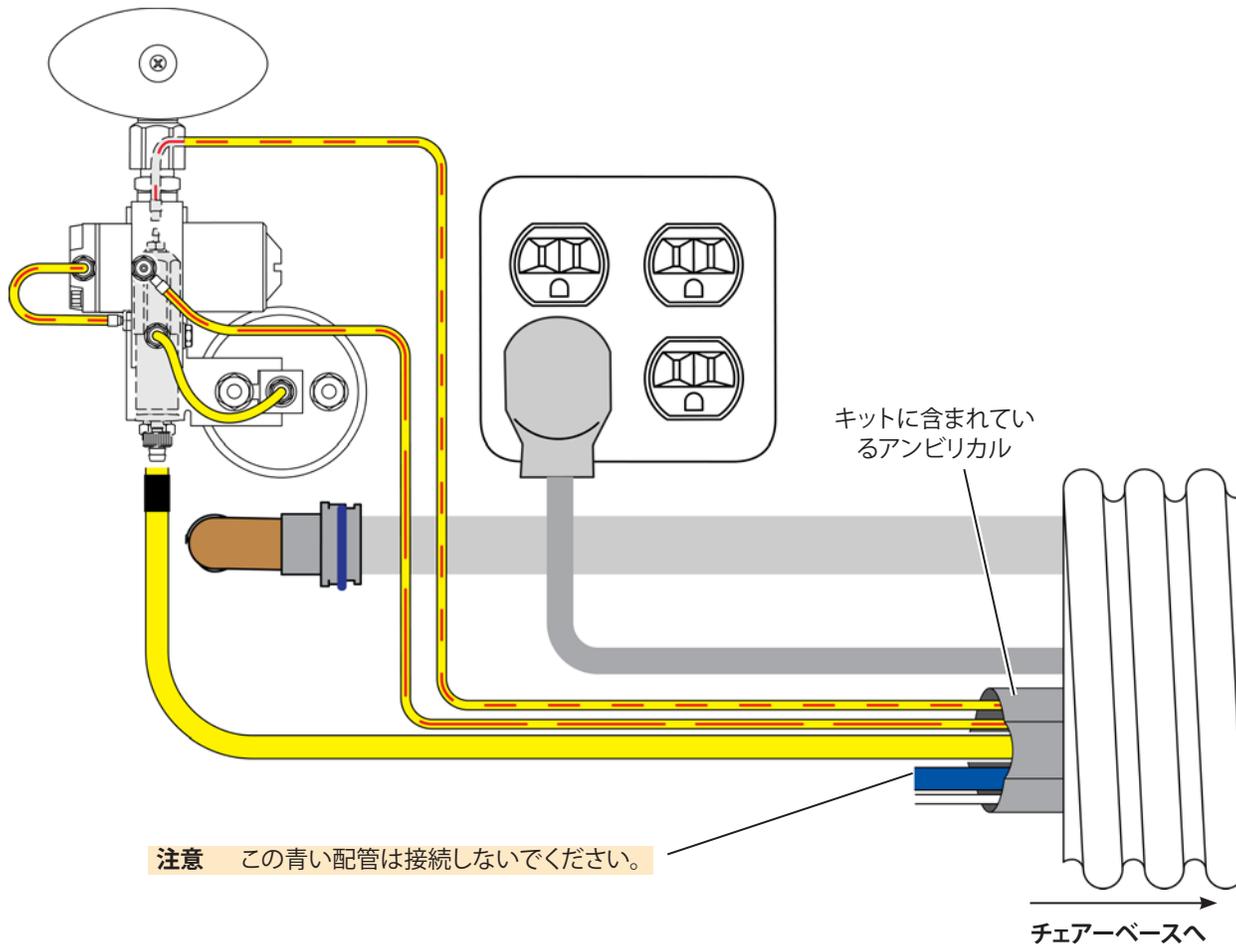


注意 キットに含まれるアンビリカルには青色のチューブがあります。青色のチューブは接続しないでください。

図 59. 曲線型フロアボックスが設置されたRadius型のモジュール



図 60. Radius型のモジュールのフロアボックスのチューブの接続



Radius型のモジュール

電源とデータの接続



注意 回路基板上の電装品は、静電気の影響を受けやすいので、取扱いに安全上の注意が必要です。



注 この手順は、歯科助手用器具とデリバリーシステムの両方の手順です。

1. 電源を切ります。
2. 調整レンチを使って、デリバリーシステムのアース線を電源装置の支柱に取り付けます。
3. アース線を電源に、黒のワイヤをOVACに、グレーのワイヤをチェアの基板端子板J2の24 VACに接続します。
4. 黒の二段階式コネクタを、電源の黒の二段階式24 VAC分離リードに接続します。
5. データ回線をいずれかのデータポートに接続します。



注 311電源装置の最上部にチェアの回路基板のための電気接続図が表示されています。

6. ワイヤを束にしてケーブル留めします。



注 電源ケーブルとデータ回線は、電源装置の電源インジケータライトとレンズの間に入らないようにしてください。

図 61. 電線とデータ回線の接続

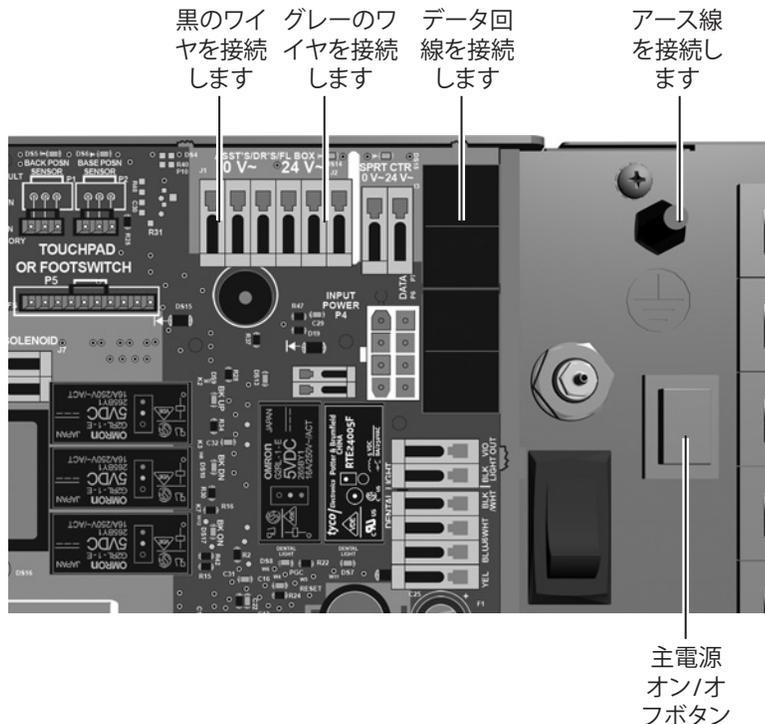
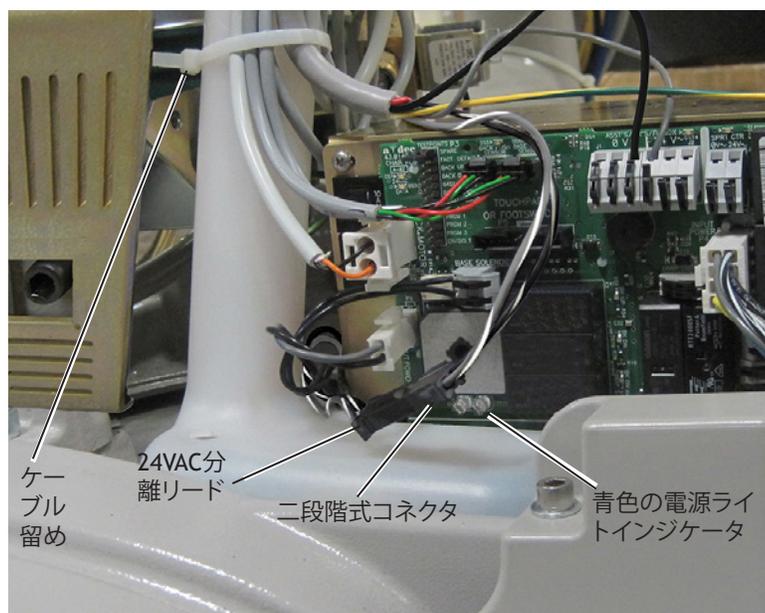


図 62. 適切に束ねられたワイヤ



チューブの接続

図 61に示されている空気や水の接続を行うには、キットに含まれているアンビリカルを使用します。

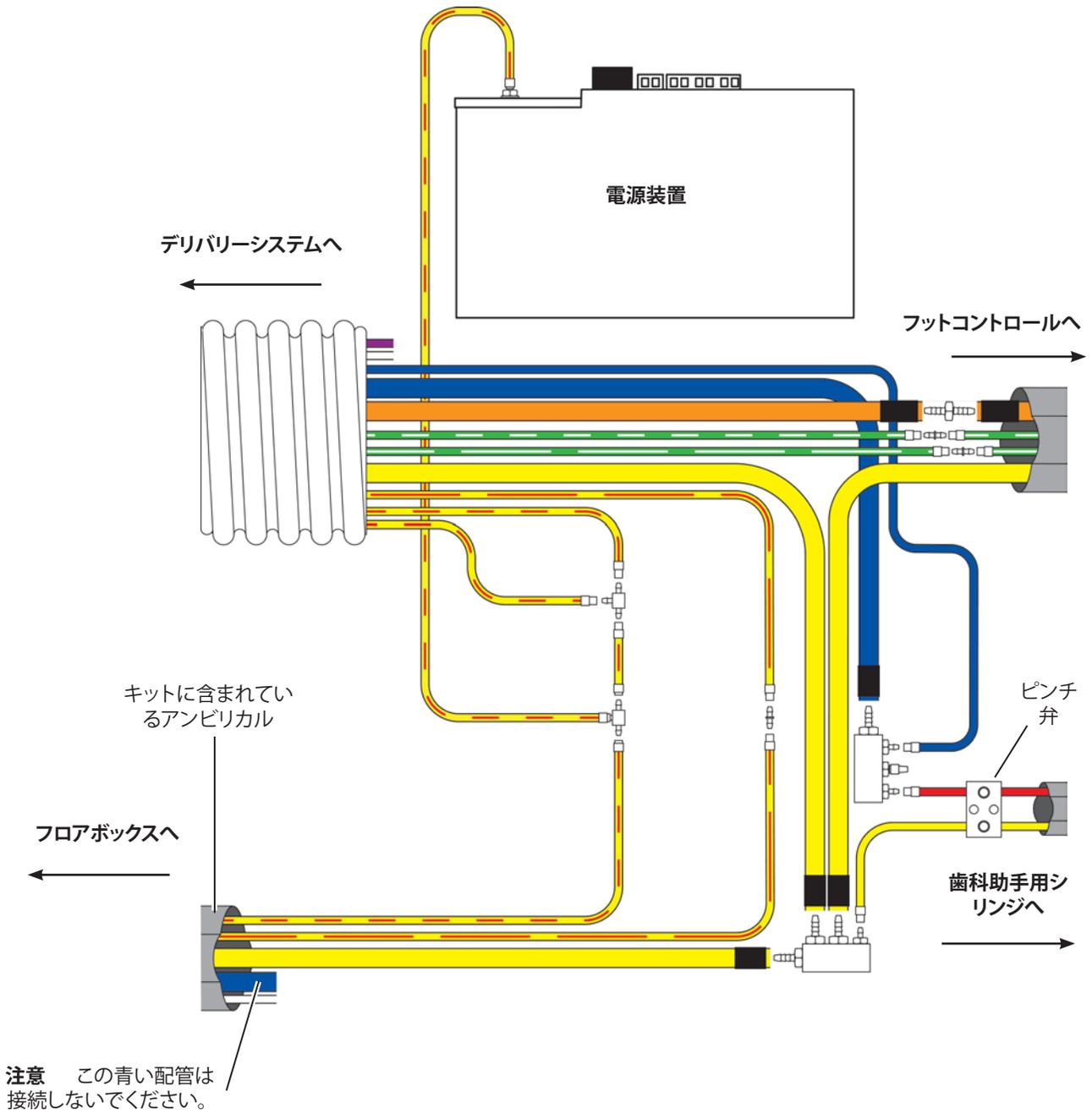


注意 キットに含まれるアンビリカルには青色のチューブがあります。青色のチューブは接続しないでください。



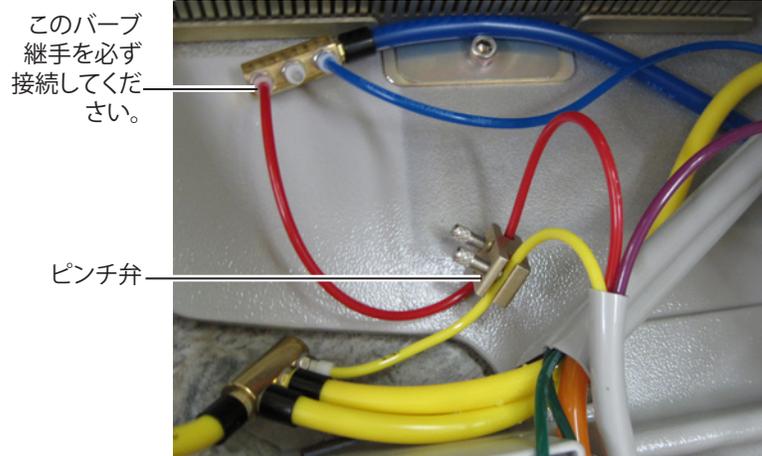
注 水マニホールドを取り付けるときは、必ず、マニホールド内で水が淀むのを避けるために、端にバープ継手を取り付けてください(44ページの図 64を参照)。

図 63. Radius型のモジュールのユーティリティの接続



7. システムに歯科助手用器具がある場合は、ピンチバルブをシリンジの黄色と赤色のチューブに取り付けます。

図 64. ピンチバルブの取り付け

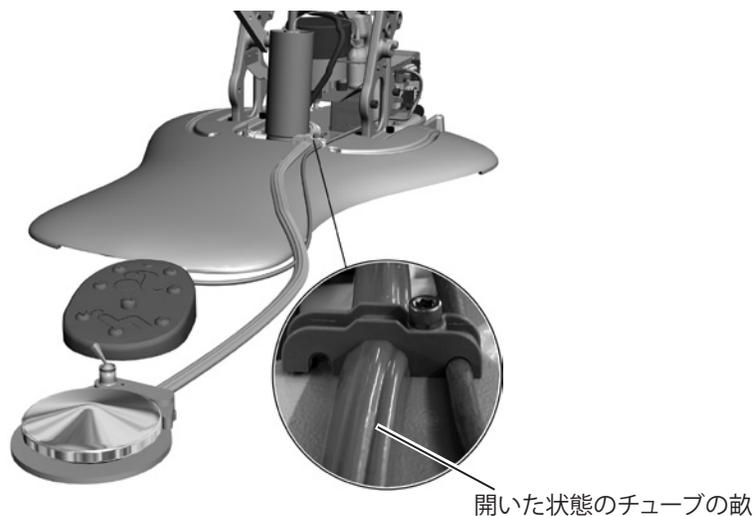


8. 3/16インチの六角レンチを使って、チェアベースへのフットコントロールのチューブを張力緩和装置に固定します。

図 65. フットコントロールチューブの固定



注 適切な位置出しのため、フットコントロールのチューブの畝を張力緩和装置内の溝に合わせて仰向けにしてください。



9. 正面取付部の上部にあるスティッカーを、注意して取り外します。

図 66. 配線スティッカーの取り外し



Radius型の歯科助手用器具 (Radius型のみ)

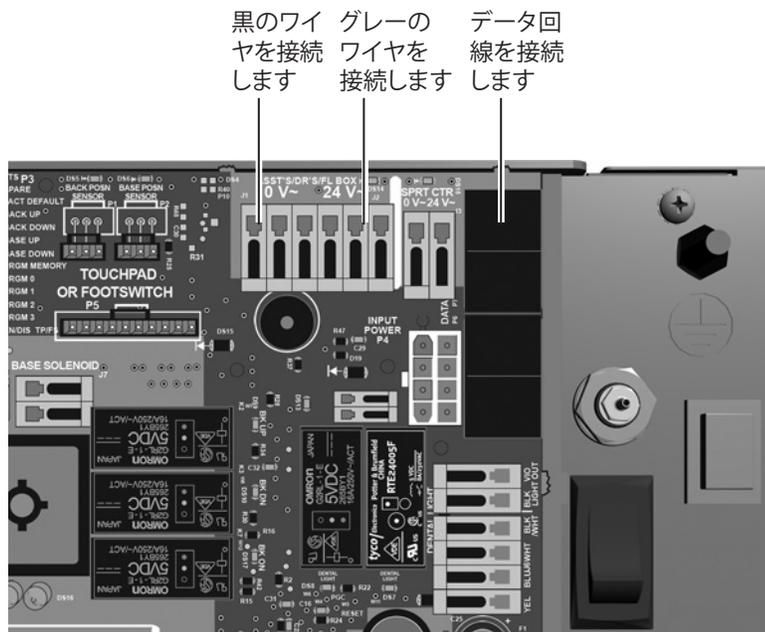
電源とデータの接続



注意 回路基板上の電装品は、静電気の影響を受けやすいので、取扱いに安全上の注意が必要です。

1. 電源を切ります。
2. データ回線をチェアの回路基板に接続します。黒のワイヤを0 VACに、グレーのワイヤを24 VACに接続します。
3. データ回線をいずれかのデータポートに接続します。

図 67. 電線とデータ回線の接続



チューブの接続

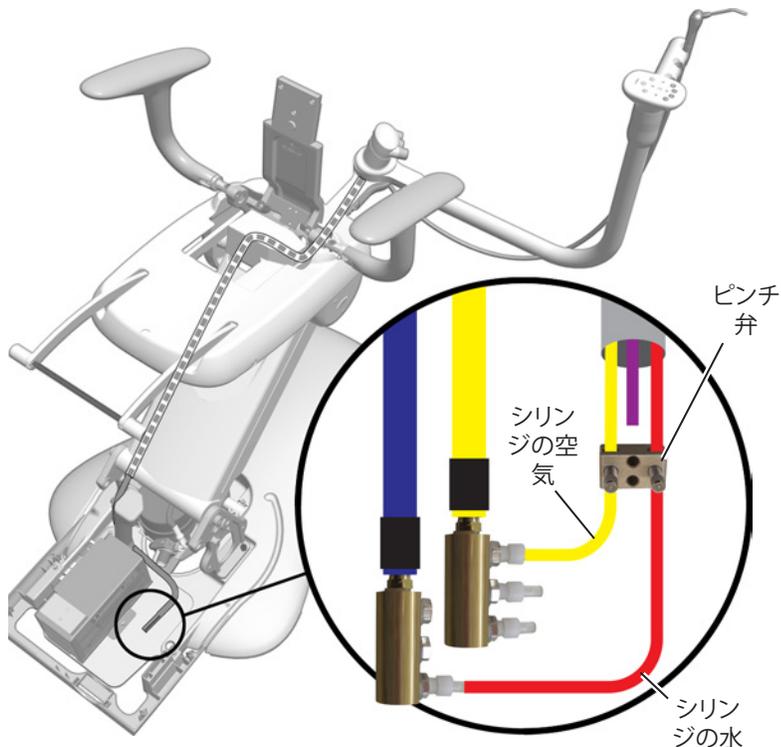
1. 図 68のようにユーティリティを接続します：
 - 空気の接続を行うには、キットに含まれているアンビカルを使用します。
 - 水マニホールドをリモートウォーターボトルに接続します。



注 水マニホールドを取り付けるときは、必ず、マニホールド内で水が淀むのを避けるために、端にバープ継手を取り付けてください。

2. シリンジチューブのピンチバルブを取り付けます。
3. ユーティリティの残りの接続については、36ページの「曲線型フロアボックスの取り付け」と、リモートウォーターボトルに付属の説明書を参照してください。

図 68. シリンジチューブの配管と接続



サポートセンターの電源とデータ



注意 回路基板上の電装品は、静電気の影響を受けやすいので、取扱いに安全上の注意が必要です。

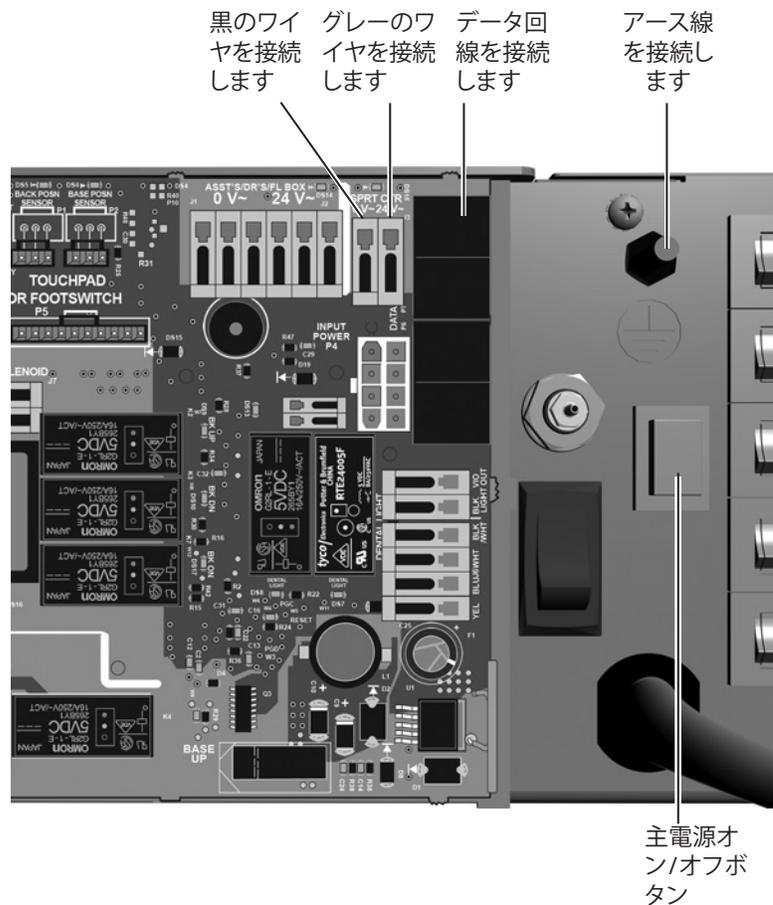
ベースマウントシステム

1. 電源を切ります。
2. 調整レンチを使用して、アース線を接続します。
3. 電源ケーブルをチェアの回路基板端子板J3に接続します。黒のワイヤを0 VACに、グレーのワイヤを24 VACに接続します。
4. データ回線をいずれかのデータポートに接続します。



注 311電源装置の最上部にチェアの回路基板のための電気接続図が表示されています。

図 69. 電線とデータ回線の接続



A-dec 511デンタルチェアーのポスト取付型システム

1. 電源ケーブルとデータ回線を、サポートセンターの下部を通します。
2. 電源ケーブルとデータ回線をアダプタアームの底面に通し、リフトアームの下から電源装置まで通します。
3. 電源ケーブルとデータ回線にアンビリカルスパイラルチューブを巻き付けます。
4. 2つのケーブル留めを使って、ケーブルをアダプタアームに固定します。
5. 電源を切ります。
6. プラスドライバーを使って、アース線を電源の上部にあるネジに接続します。
7. 電源ワイヤをチェアーの回路基板の端子板 J2に接続します。黒のワイヤを0 VACに接続し、グレーのワイヤを24 VACに接続します。
8. 黒の二段階式コネクタを、電源の黒の二段階式24 VAC分離リードに接続します。
9. チェアーの回路基板上的データポートにデータ回線を接続します。

図 70. ケーブルの配線

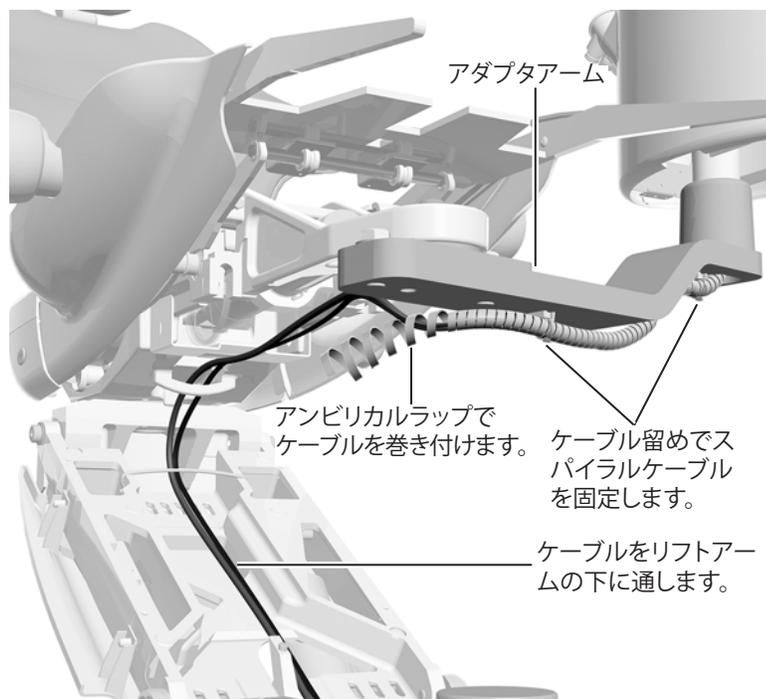
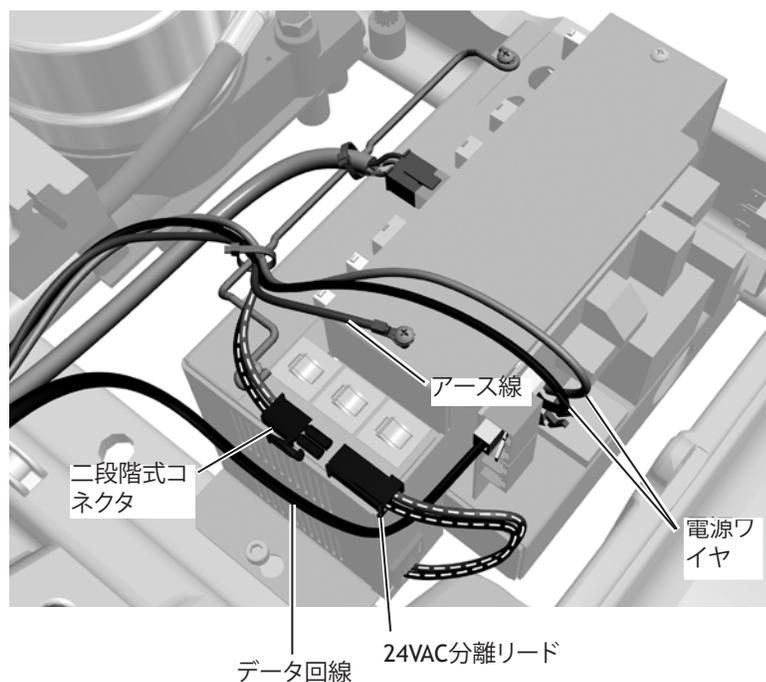
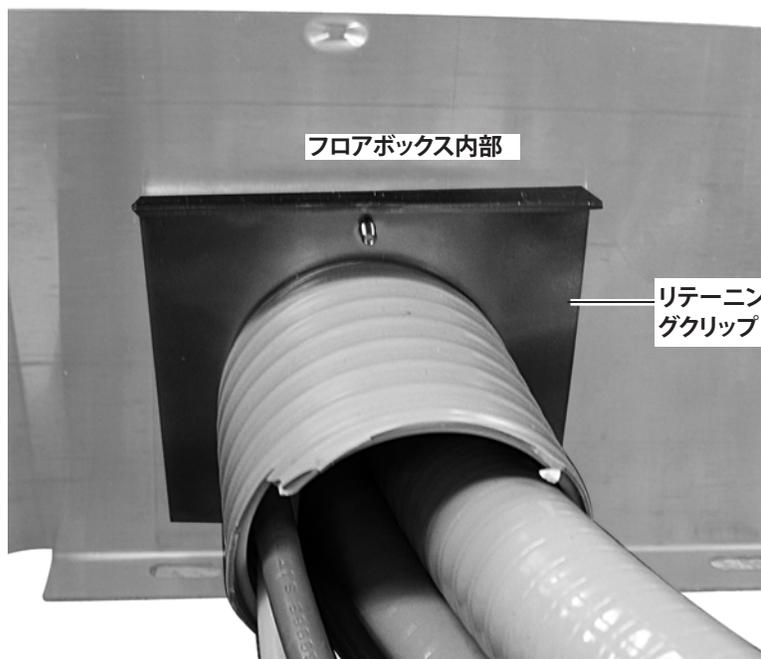


図 71. A-dec 511の電源とデータの接続



10. サポートセンターのチューブをコンボリユートに通します。
11. サポートセンターフレームの底部内のブラケットを通して、コンボリユートが確実に固定するまで数インチ押し上げます。
12. マスタートグルを電源電動スイッチに接続します。
13. アンビリカルをフロアボックスの中に通します。
14. 5/64インチの六角レンチを使って、フロアボックスに固定クリップを取り付け、コンボリユートを固定します。
15. フロアボックスの空いている穴にプラグを差し込みます。

図 72. リモートフロアボックス内への固定クリップの取り付け



A-dec 411デンタルチェアのポスト取付型システム

1. 電源ケーブルとデータ回線を、サポートセンターの下部を通します。
2. 電源ケーブルとデータ回線をアダプタアームの底面に通し、下部カバーの開口部を通して、リフトアームの下から電源装置が装着されている位置まで通します。
3. 電源ケーブルとデータ回線をアンビリカル・スパイラルチューブで巻き付けます。システムに歯科ライトがある場合は、歯科ライトのケーブルも巻き付けます。
4. 3つのケーブル留めを使って、スパイラルケーブルをアダプタアームとプラスチックカバーに固定します。
5. 電源を切ります。
6. 3/8インチのコンビネーションレンチを使って、アース線を取り付けます。
7. 黒のワイヤをチェアの回路基板のサポートセンター (SPRT CTR) の0 VAC接続に接続します。
8. グレーのワイヤをチェアの回路基板のサポートセンター (SPRT CTR) の24 VAC接続に接続します。
9. チェアの回路基板上のデータポートにデータ回線を接続します。
10. 黒の二段階式コネクタを黒の24 VAC絶縁リードに接続します。
11. システムモジュールのすべての電気接続が完了したら、電源装置の縁の下側にケーブルを固定します。
12. サポートセンターのチューブをコンボリユートに通します。
13. サポートセンターフレームの底部内のブラケットを通して、コンボリユートが確実に固定するまで数インチ押し上げます。
14. マスタートグルを電源電動スイッチに接続します。

図 73. ケーブルの配線

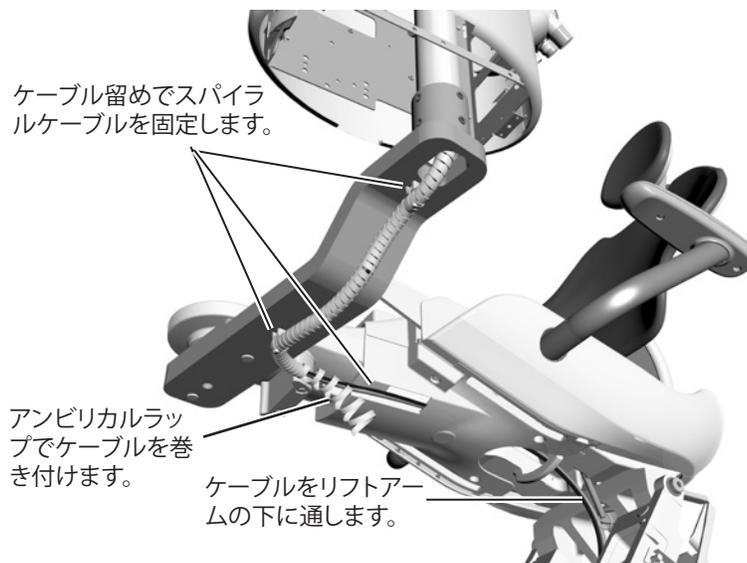
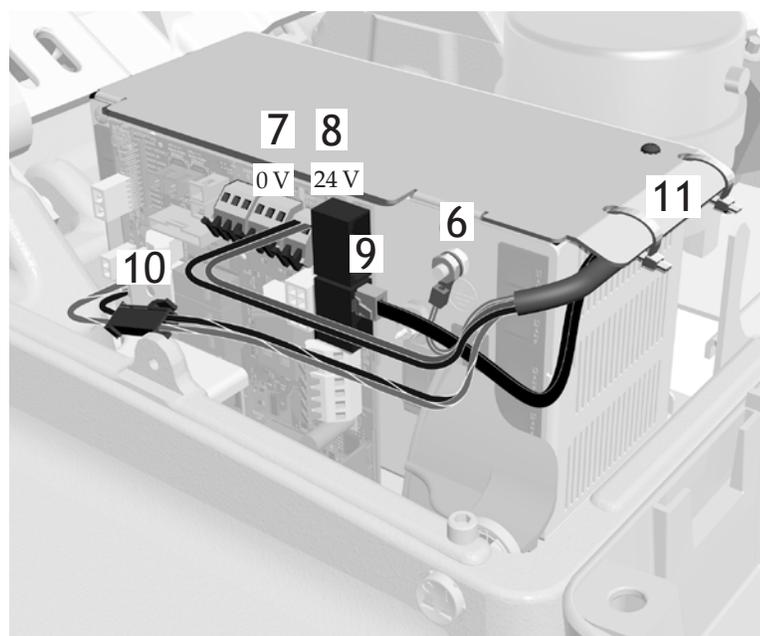
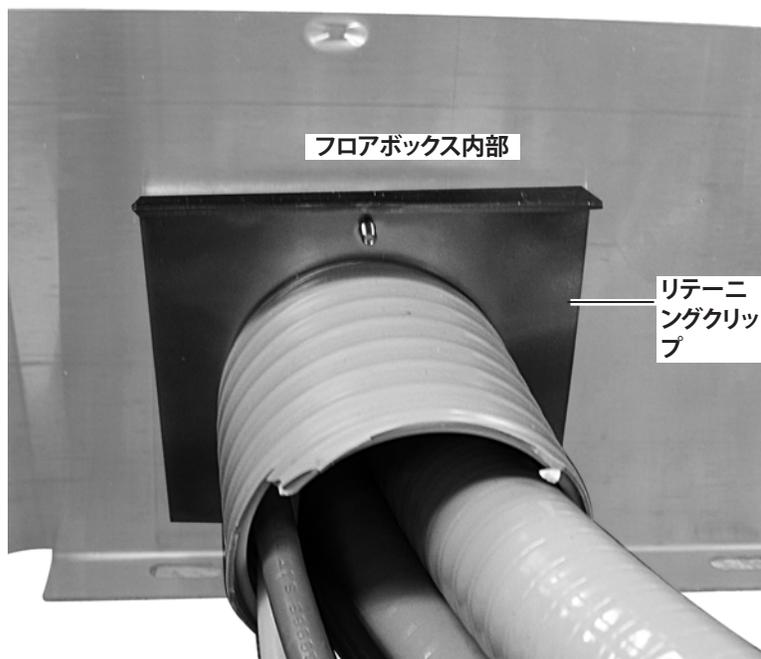


図 74. A-dec 411の電源とデータの接続



15. アンビリカルをフロアボックスの中に通します。
16. 5/64インチの六角レンチを使って、フロアボックスに固定クリップを取り付け、コンボリユートを固定します。
17. フロアボックスの空いている穴にプラグを差し込みます。

図 75. リモートフロアボックス内への固定クリップの取り付け



A-dec Cascade、Decade、または Performerデンタルチェアのポスト 取付型システム

チェアの回路基板のシステムのタイプに該当する手順に従ってください。

データポートの付いていないチェアの回路基板



注 A-dec 300タッチパッドは、このチェアの回路基板を使用した場合、自動歯科ライトおよびチェアの機構部分を操作できません。

1. チューブ束およびワイヤをサポートセンターの底部からコンボリユートを通して配置します。
2. サポートセンターフレームの底部内のブラケットを通して、コンボリユートが確実に固定するまで数インチ押し上げます。
3. アンビリカルをフロアボックスの中に通します。
4. 5/64インチの六角レンチを使って、フロアボックスに固定クリップを取り付け、コンボリユートを固定します。

5. 電源を切ります。
6. フロアボックス内で、プラスドライバーを使ってアース線を電源の上部に接続します。
7. 電源コードを電源に接続します。黒のワイヤを0 VACに接続し、グレーのワイヤを24 VACに接続します。
8. 黒の二段階式コネクタを、電源の黒の二段階式24 VAC分離リードに接続します。
9. フロアボックスの空いている穴にプラグを差し込みます。

図 76. データポートの付いていないチェアの回路基板



図 77. リモートフロアボックス内への固定クリップの取り付け

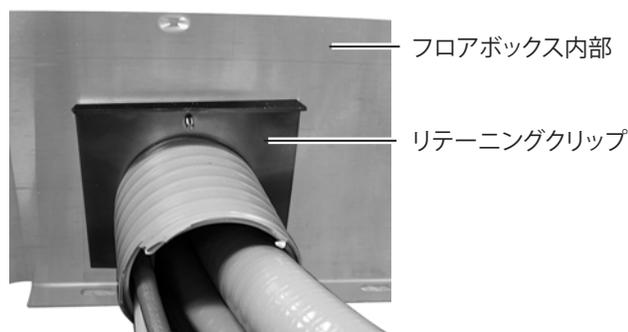
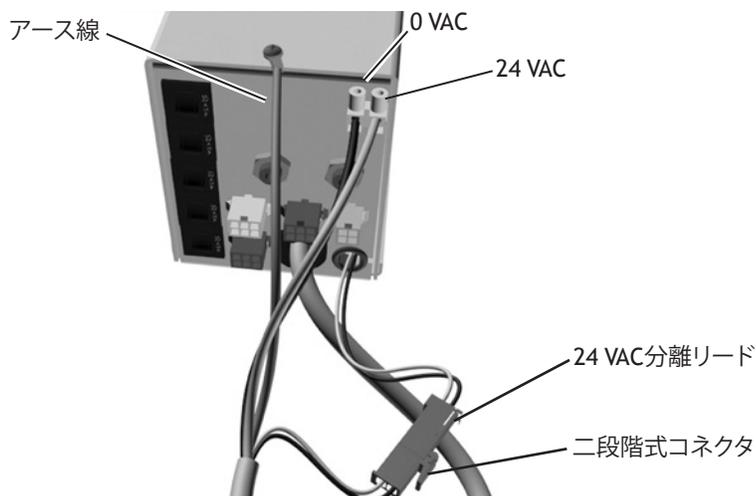


図 78. 電源装置の接続



データポート付きチェアの回路基板



注 A-dec 300 タッチパッドは、このチェアの回路基板を使用した場合、自動歯科ライトおよびチェアの機構部分を操作することができます。

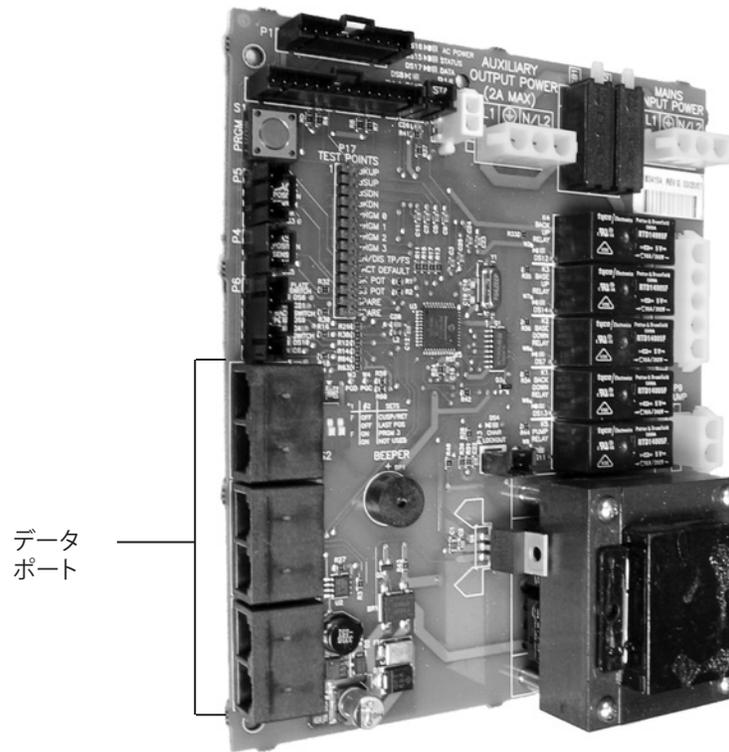
1. フロアボックスキットから予備のデータ回線を取り出し、サポートセンターポート基板上のデータポートに接続します。
2. データラインをサポートセンターマウントの下部をチェアを通してチェアの回路基板に配置します。



注 ケーブル留めと接着剤付きマウントは、Performerポスト取付型チェアアダプタ(部品番号 77.0922.00)に付属しています。それらを使用して、チェアアダプタの下にデータ回線を固定します。

3. チェアの回路基板上のデータポートにデータ回線を接続します。
4. チューブ束およびワイヤをサポートセンターの底部からコンボリユートを通して配置します。
5. サポートセンターフレームの底部内のブラケットを通して、コンボリユートが確実に固定するまで数インチ押し上げます。

図 79. データポート付きチェアの回路基板



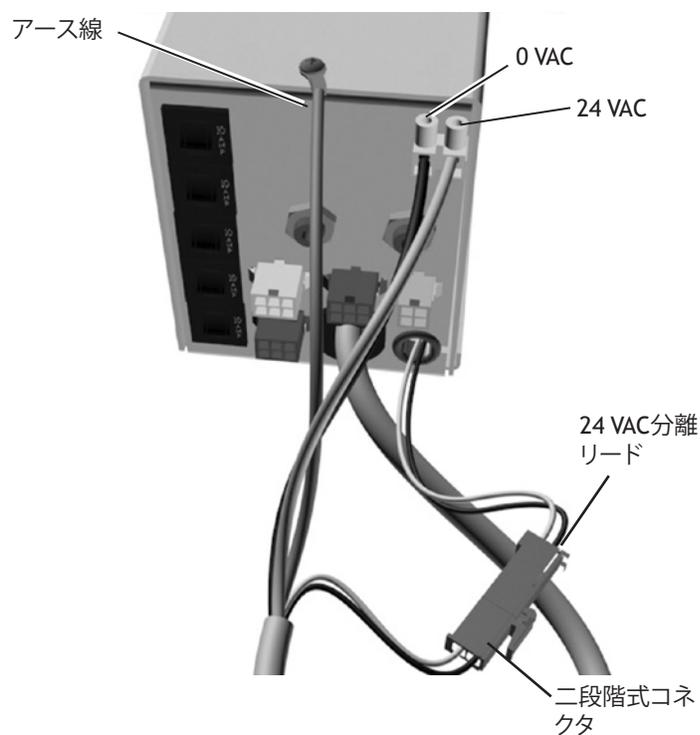
6. アンビリカルをフロアボックスの中に通します。
7. 5/64インチの六角レンチを使って、フロアボックスに固定クリップを取り付け、コンボリユートを固定します。

図 80. リモートフロアボックス内への固定クリップの取り付け



8. 電源を切ります。
9. フロアボックス内で、プラスドライバーを使ってアース線を電源の上部に接続します。
10. 電源コードを電源に接続します。黒のワイヤを0 VACに接続し、グレーのワイヤを24 VACに接続します。
11. 黒の二段階式コネクタを、電源の黒の二段階式24 VAC分離リードに接続します。
12. フロアボックスの空いている穴にプラグを差し込みます。

図 81. 電源装置の接続



A-dec Priorityデンタルチェアへのポスト取付型システム

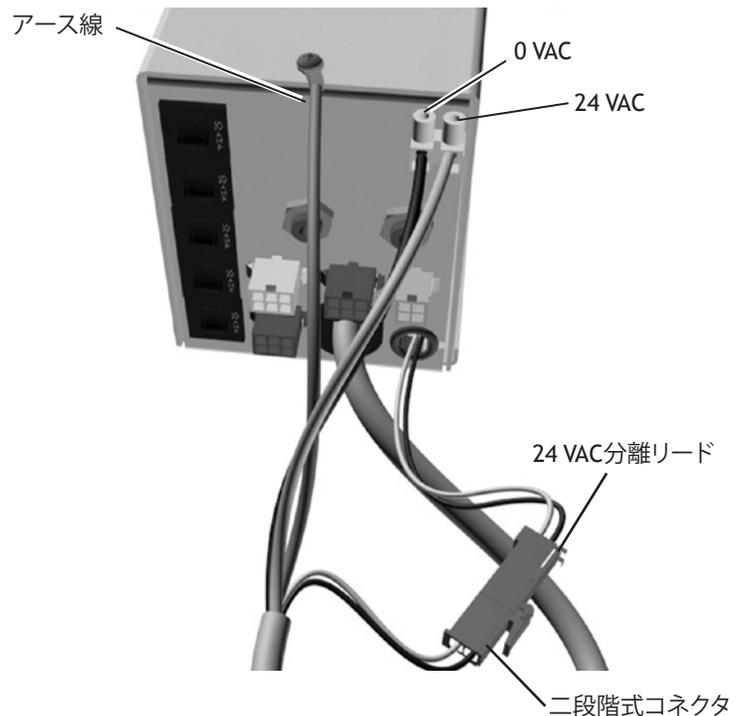
1. サポートセンターのチューブ束、電源ケーブル、およびデータ回線をコンボリユートに通します。
2. サポートセンターフレームの底部内のブラケットを通して、コンボリユートが確実に固定するまで数インチ押し上げます。
3. アンビリカルをフロアボックスの中に通します。
4. 5/64インチの六角レンチを使って、フロアボックスに固定クリップを取り付け、コンボリユートを固定します。

図 82. リモートフロアボックス内への固定クリップの取り付け



5. フロアボックス内で、データ回線を接続します。
6. 電源を切ります。
7. 電源コードを電源に接続します。黒のワイヤを0 VACに接続し、グレーのワイヤを24 VACに接続します。
8. 黒の二段階式コネクタを、電源の黒の二段階式24 VAC分離リードに接続します。
9. フロアボックスの空いている穴にプラグを差し込みます。

図 83. 電源装置の接続



サポートセンターのフロアボックスのユーティリティ

以下の手順は、ベースマウントシステムとポスト取付型システムの両方の手順です。

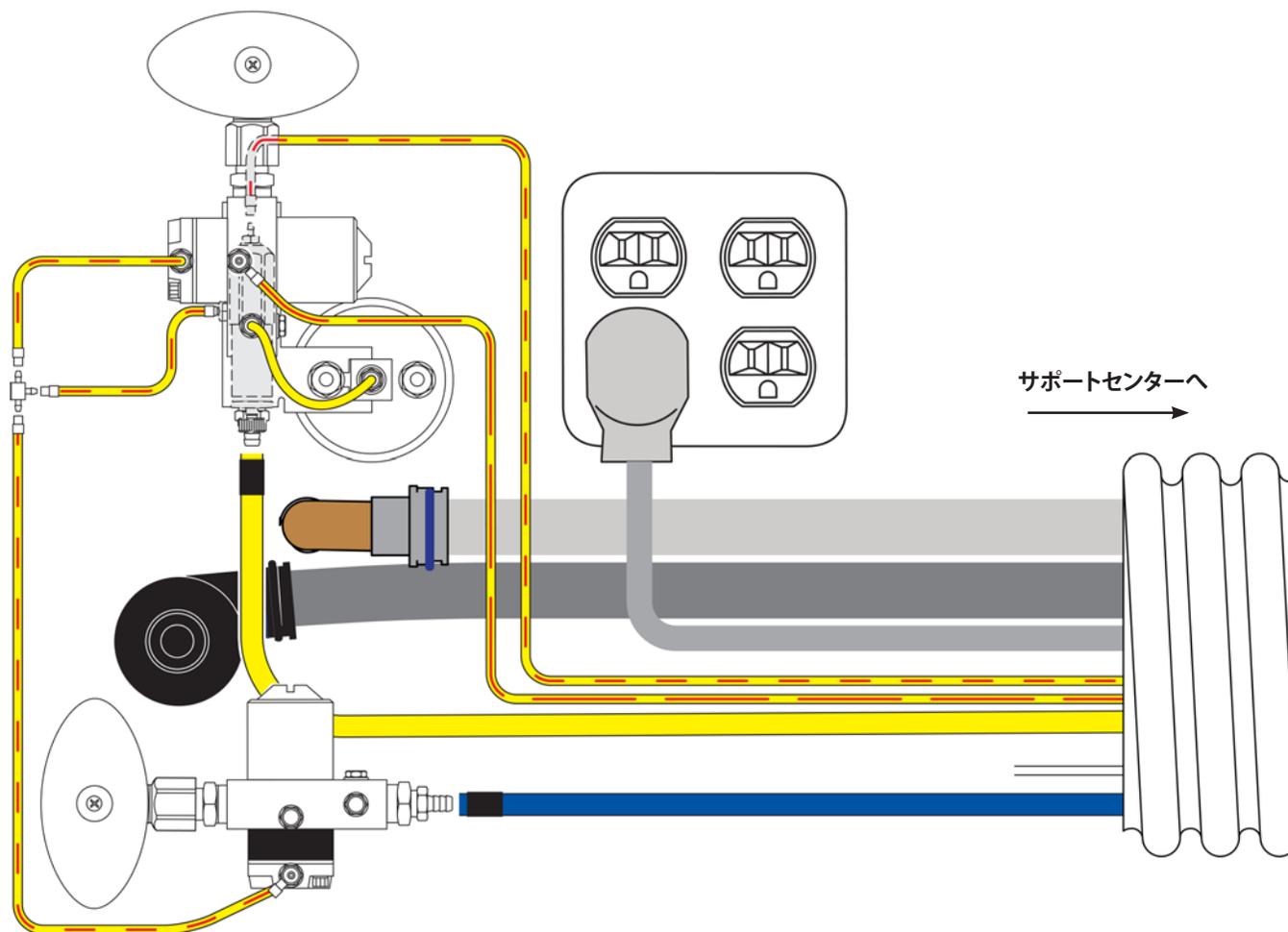
サポートセンターのチューブはいくつかの場所に接続できます。システムのユーティリティが取り付けられている場所に当てはまるセクションを参照してください。

- 曲線型フロアボックス - 下の図 84を参照してください。
- 一体型フロアボックスとリモートフロアボックス - 56ページの図 85を参照してください。

注 サポートセンターのカバー内部の全体的なフローチャートが示されています。

曲線型フロアボックス

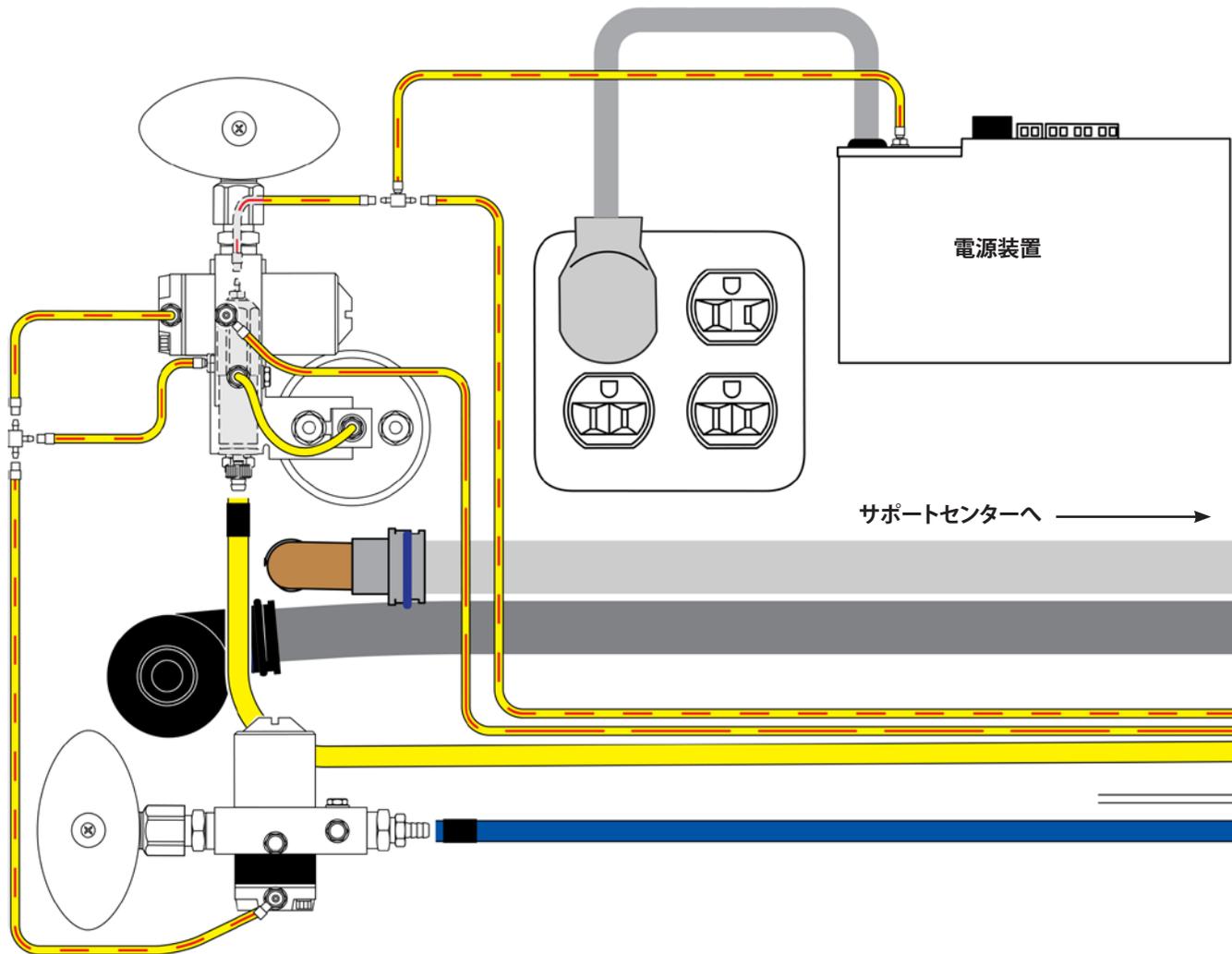
図 84. 曲線型フロアボックスのサポートセンターのユーティリティの接続



一体型フロアボックスとリモートフロアボックス

一体型フロアボックスとリモートフロアボックスのサポートセンターのユーティリティは、同じ方法で接続します。

図 85. 一体型フロアボックスとリモートフロアボックスのサポートセンターのユーティリティの接続



サポートセンターのモジュール

電源とデータの接続



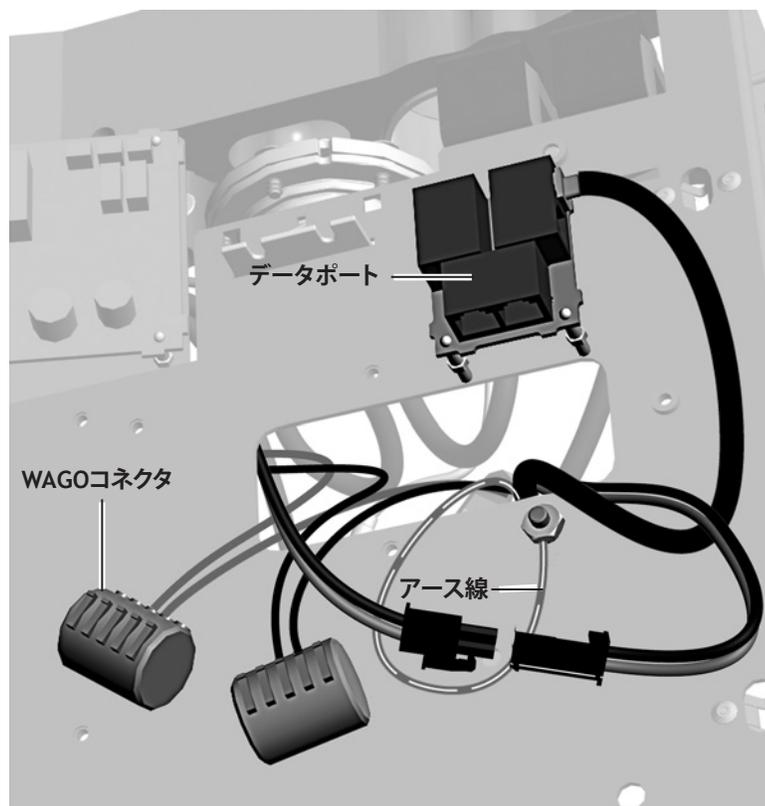
注意 回路基板上の電装品は、静電気の影響を受けやすいので、取扱いに安全上の注意が必要です。



注 この手順は、歯科助手用器具とデリバリーシステムの両方の手順です。

1. 電源を切ります。
2. 調整レンチを使って、サポートセンターのフレームの窓の下にあるポストにデリバリーシステムのアース線を取り付けます。
3. グレーのワイヤをグレーのワイヤ(24 VAC)、黒のワイヤを黒のワイヤ(0 VAC)と合わせて、電源ケーブルをWAGOコネクタに取り付けます。
4. すべてのアース線を接地スタッドに接続し、デリバリーシステムの黒の二段階式コネクタを、サポートセンターのアンビリカル製の黒の二段階式コネクタに接続します。
5. データ回線をいずれかのデータポートに接続します。

図 86. デリバリーシステムの電線とデータ回線の接続



チューブの接続

1. ユーティリティの接続については、お使いのシステム構成の図を参照してください：
 - スピットンなしのシステム - 58ページの図 87
 - スピットン付きのシステム - 59ページの図 88



注 接続する際は、必ずチューブがサポートセンターフレームの下部を通るようにして、サポートセンターフレームの内部ですべての接続を行ってください。

図 87. サポートセンターのモジュールのユーティリティの接続 - スピットンなし

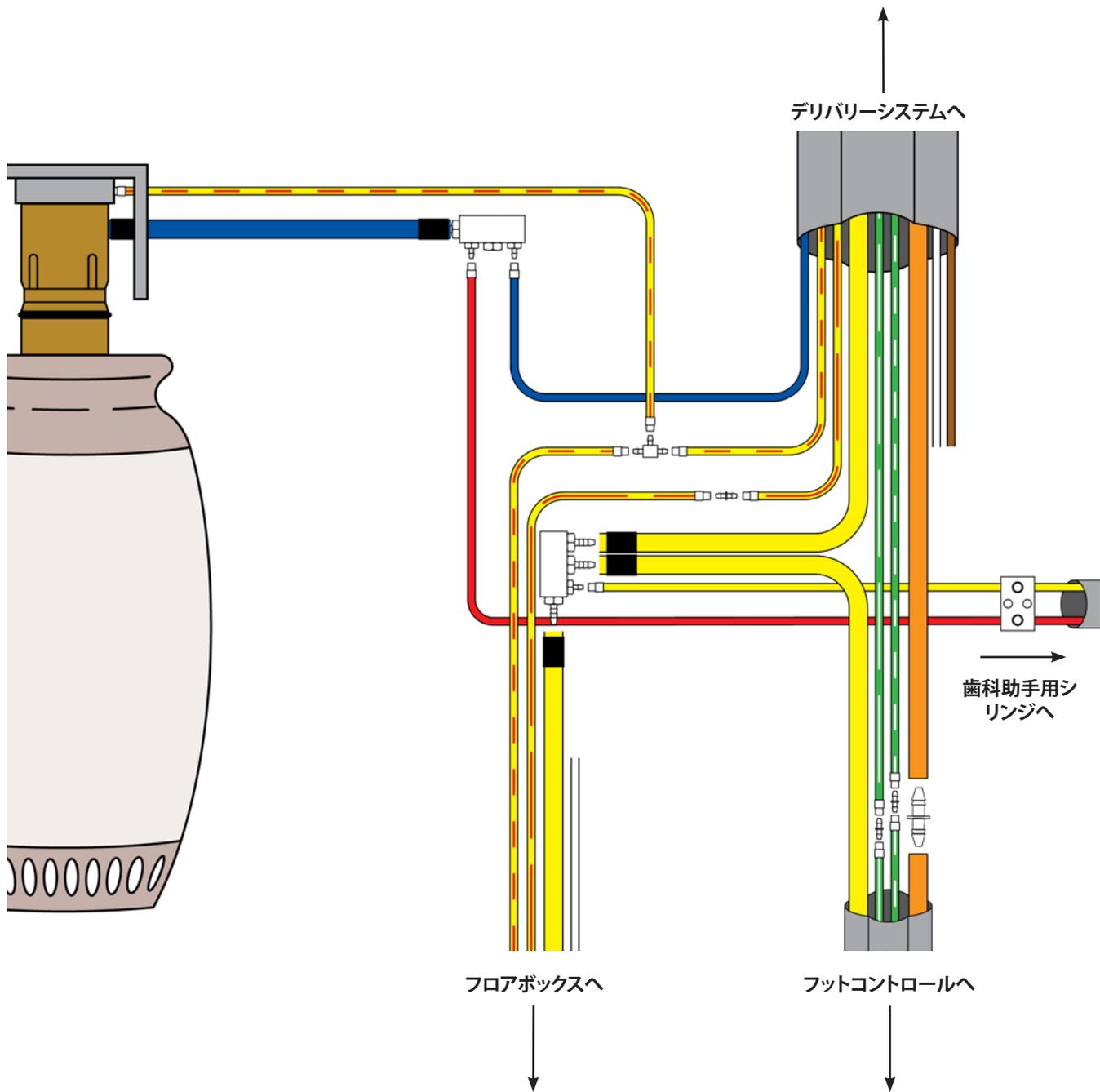
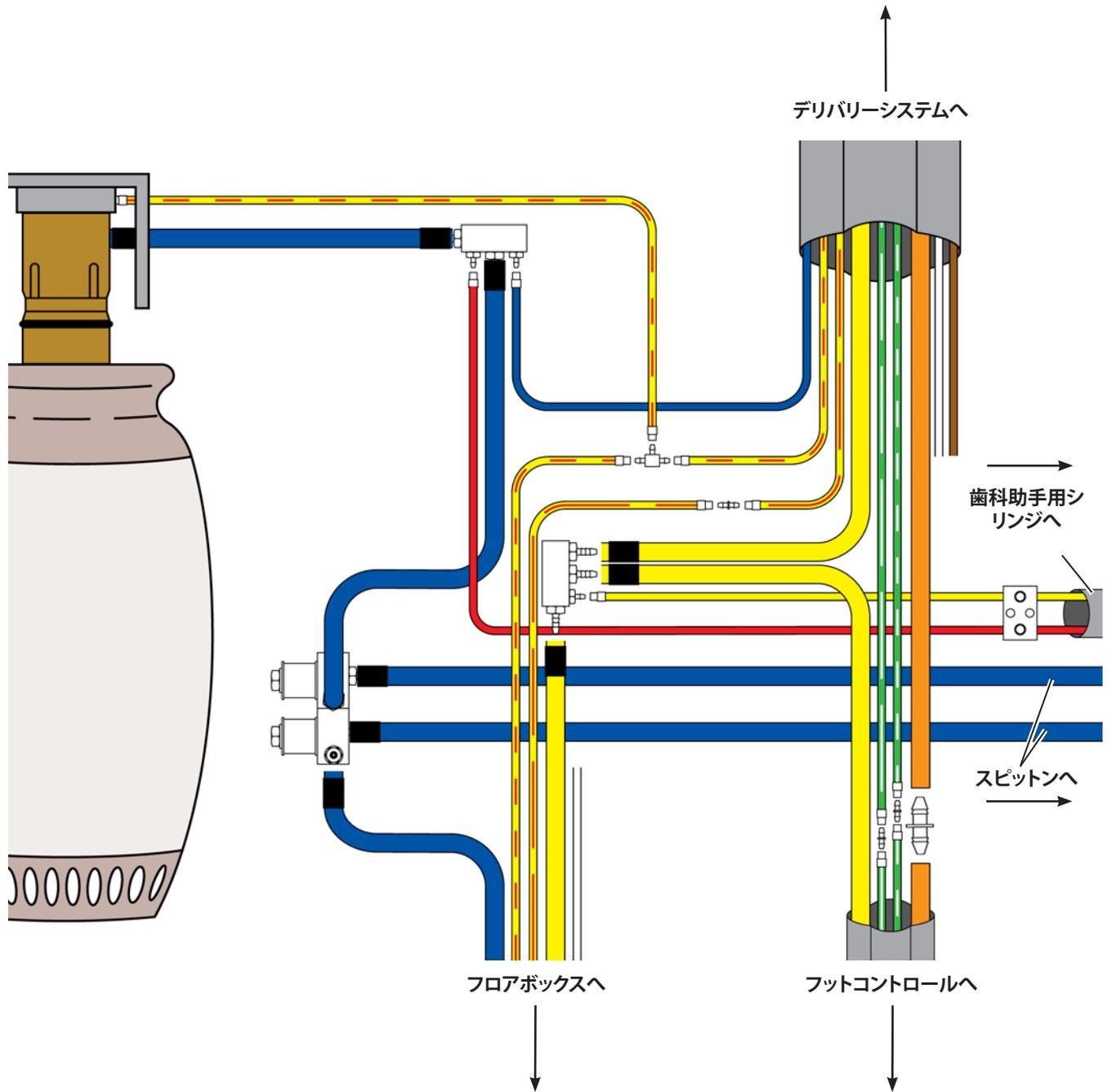
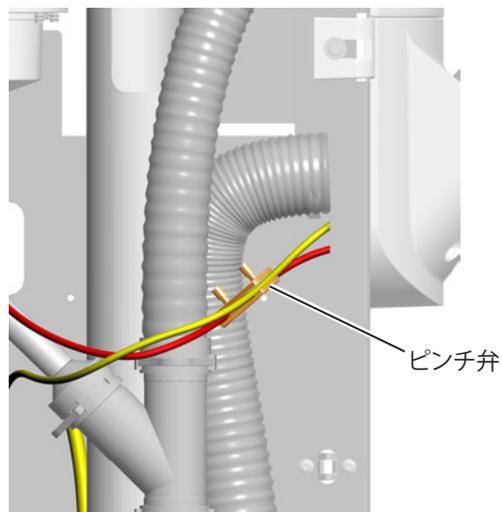


図 88. サポートセンターのモジュールのユーティリティの接続 - スピットンなし



- システムに歯科助手用器具がある場合は、ピンチバルブをシリンジの黄色と赤色のチューブに取り付けます。

図 89. ピンチバルブの取り付け



- 3/16インチの六角レンチを使って、チェアベースへのフットコントロールのチューブを張力緩和装置に固定します。

図 90. フットコントロールチューブの固定



注 適切な位置出しのため、フットコントロールのチューブの畝を張力緩和装置内の溝に合わせて仰向けにしてください。

スピットンの取り付け

システムにスピットンが付属している場合は、そのコンポーネントを取り付けます。

コップ給水用吐水口を取り付けます

コップ給水用吐水口を取り付けるには、まっすぐ下方に押し込みます。



注意 コップ給水用吐水口を取り付けるとき、回転させないでください。破損する恐れがあります。

ボウル洗浄吐水口を取り付け

ボウル洗浄吐水口を取り付けるには、まっすぐ下方に押し込みます。

スピットンボウルとボウルろ過器の取り付け

1. 斜ニッパーを使用してケーブル留めを切り、ポジショニングガイドを取り外します。



注 ポジショニングガイドとフォームプラグは、スピットンボウルサポート内に残しておきます。スピットンボウルとアームレスト間のクリアランスが適切かどうかを確認するため後刻それらが必要になります。詳細は、96ページの「スピットンボウルとアームレスト間のクリアランス適正度確認」を参照してください。

2. スピットンボウルを高い側を患者から遠くにセットして専用ホルダーに取り付けます。
3. ボウルスクリーンをボウルの底部に取り付けます。

このセクションに必要な工具

斜ニッパー

図 91. スピットン付きA-dec 361サポートセンター

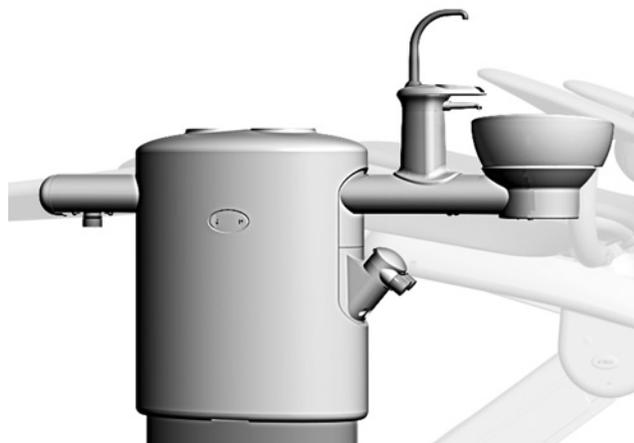


図 92. スピットンの部品



張地の取り付け

Adec 311デンタルチェアーの張地には、シート、背もたれ、および患者別調整可能なネックサポートまたは可動ヘッドレストのいずれかが含まれます。

このセクションに必要な工具

7/64インチの六角レンチ

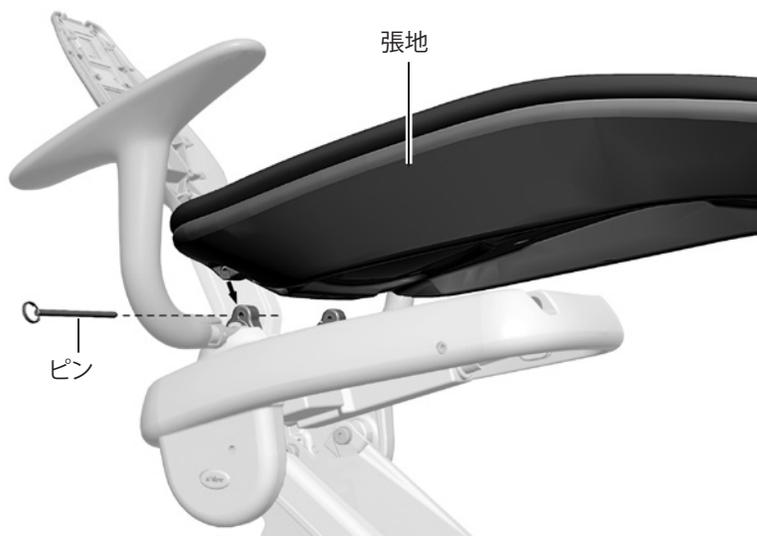
図 93. 調整可能ネックサポート付きA-dec 311薄型ラインバック



シート張地の取り付け

1. チェアーを上昇させ、チェアーの背板をチェアーのフレームの穴まで下降させます。
2. アームレストを後方へ動かします。
3. 座席のクッションのピンを、座席のクッション部分をチェアーのフレームに正しく収められるよう十分引き抜きます。
4. 座席クッションを所定の位置に取り付け、チェアーフレームの穴とピン用の穴の位置がぴったり合うよう調整します。
5. 座席のクッションとチェアーのフレームを貫いてピンのリングがシートに接するまでピンを押し戻します。

図 94. シート張地の取り付け



背もたれ張地の取り付け

! 注 背板張地の取り付けは、どちらのスタイルの背板でも同じです。

1. 背もたれを元に戻し、チェアを下げます。
2. 背もたれ張地のキーホールをチェアの背もたれ上の固定支柱の上に位置出します。
3. 背もたれ張地を所定の位置に滑り込ませ、背もたれ張地がチェアの背もたれにはめ込まれるまで押し下げます。

図 95. 背もたれ張地の取り付け

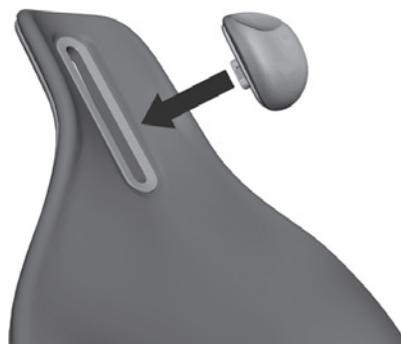


ネックサポートまたはヘッドレストの取り付け

患者別調整可能なネックサポートの取り付け

ネックサポートの補強部をネックサポートトラックにはめ込みます。ネックサポートは必ずネックサポートの補強部に示されている向きに装着してください。

図 96. 患者別調整可能なネックサポートの取り付け



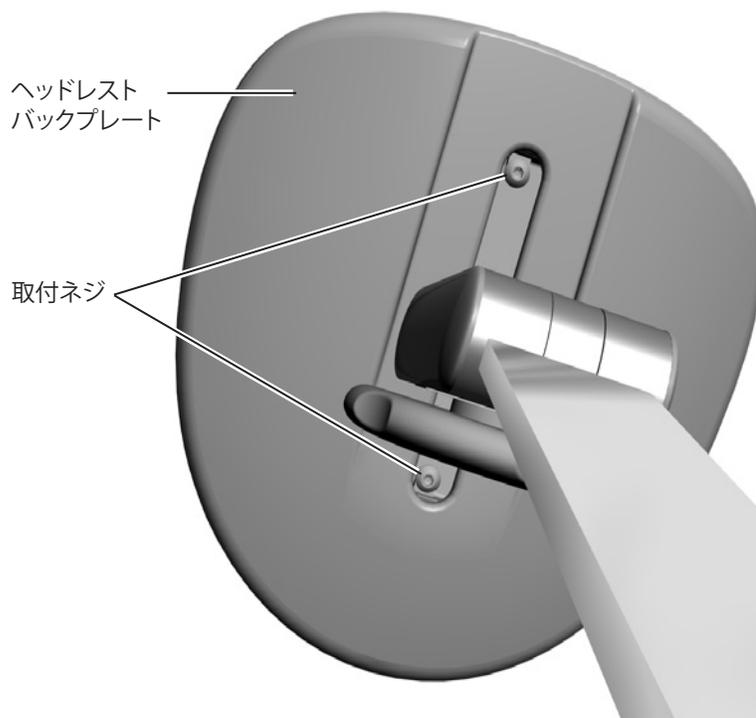
上



可動ヘッドレストの取り付け

1. 1/8インチの六角レンチを使って、ヘッドレスト張地から取付ネジを取り外します。
2. ヘッドレスト張地の穴をヘッドレストバックプレートの穴に合わせます。
3. 取付ネジを差し込んで、締め込みます。

図 97. 可動ヘッドレストの張地の取り付け



4. グライドバーを背板張地の最上部にあるスロットに差し込み、所定の位置へ押し込みます。

図 98. 可動ヘッドレストの取り付け



システムの準備と調整

ベースマウントシステムのチューブ束の固定

1. チューブ束の周りにケーブル留めを緩く巻いて、ケーブル留めをチェアベースマウントの下にスライドさせます。
2. ユーティリティ部分から、チューブ束を引っ張ってたるみを取ります。
3. マウントの下部でケーブル留めを締め込み、マウントの中にチューブ束を押し込んで外から見えないようにします。
4. マウントのコーナー周りでケーブル留めを使用してワイヤとチューブを固定し、マウントの下部には何も垂れ下がらないようにします。
5. ケーブル留めを使用してチューブ束をサポートセンターポストに固定し、下部カバーを押し付けることのないよう処理します。

ウォーターボトルの取り付け

ウォーターボトルの取り付け手順は、取り付け場所に関係なく同じ手順です。

1. ICX説明書に従って、ICX錠剤(部品番号(P/N)90.1065.00)をウォーターボトルに取り付けます。



警告 ICX錠剤が皮膚に直接触れないようにしてください。詳細については、ICXタブレットに付属の手順を参照してください。

2. ボトルに水を満たします。
3. レセプタクルのOリングにA-decシリコン潤滑油を塗ります。



注意 Oリングを損傷しないために、A-decシリコン潤滑油のみを使用してください。

4. ウォーターボトルをウォーターボトル容器受けに押し上げ、右に回転します。

このセクションに必要な工具

1/2インチのコンビネーションレンチ 電圧計
六角レンチセット プラスドライバー

図 99. チューブ束の固定

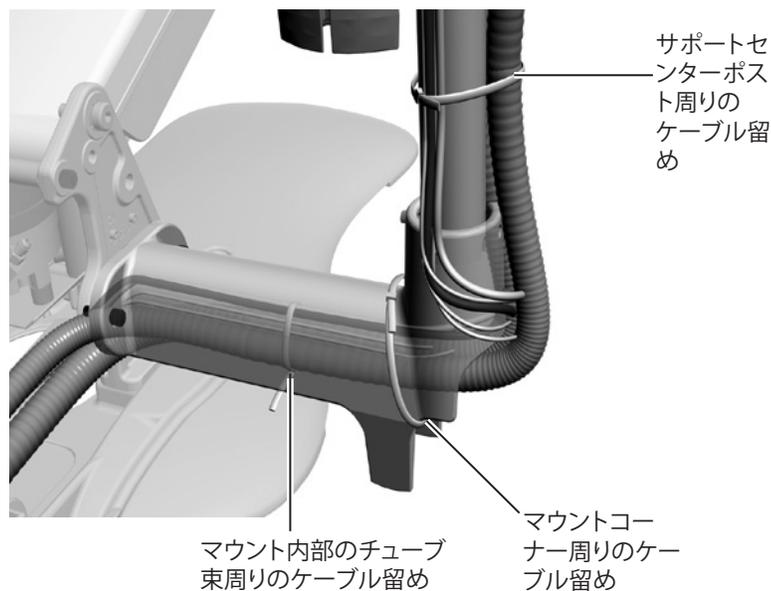
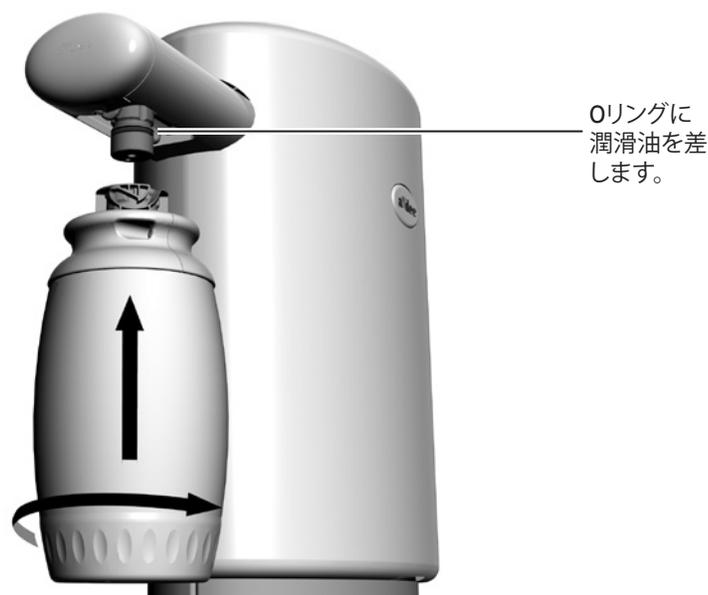


図 100. ウォーターボトルの取り付け



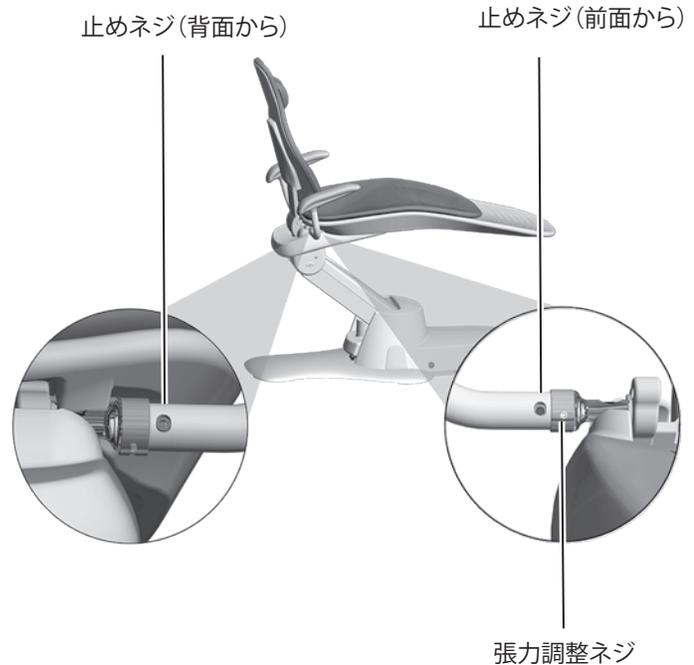
調整

アームレストの固定解除(オプション)

デンタルチェアが出荷されるときは、アームレストはまっすぐ立てた位置に固定されています。アームレストは固定解除できるため、必要な場合は前後に回転させることができます。アームレストを固定解除するには:

1. 3/16インチの六角レンチを使って、アームレストの背面から止めネジを取り外します。
2. 止めネジをアームレストの前面に取り付けます。
3. 1/8インチの六角レンチを使って、アームレストの前面にある張力調整ネジを締めます。

図 101. アームレストの位置の調整

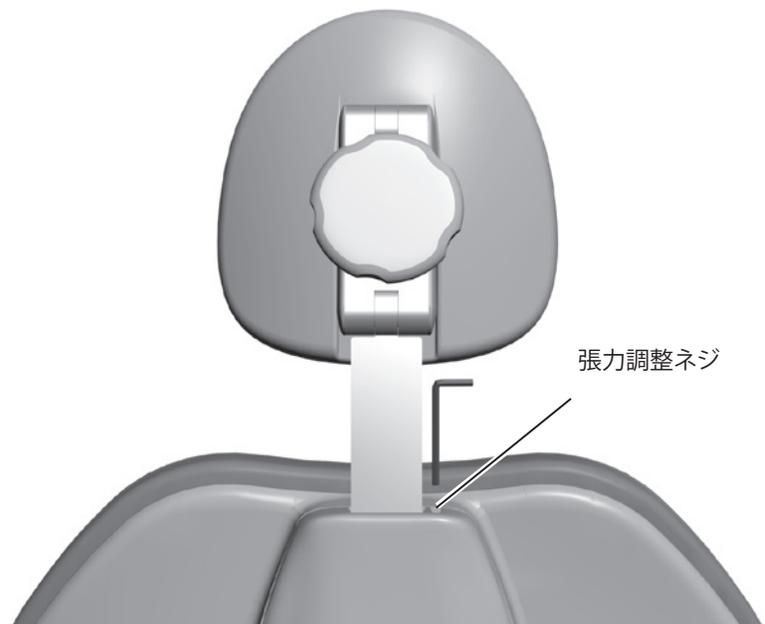


可動ヘッドレストのガイドバーの張力の調整

可動ヘッドレストは、動かすのが難しい場合や、ガイドバーの張力量のために下方にずれる場合があります。

張力を調節するには、1/8インチの六角レンチを使用して、張力調整ネジを時計回りに回して張力を増すか、反時計回りに回して張力を減らします。

図 102. 可動ヘッドレストのガイドバーの張力の調整



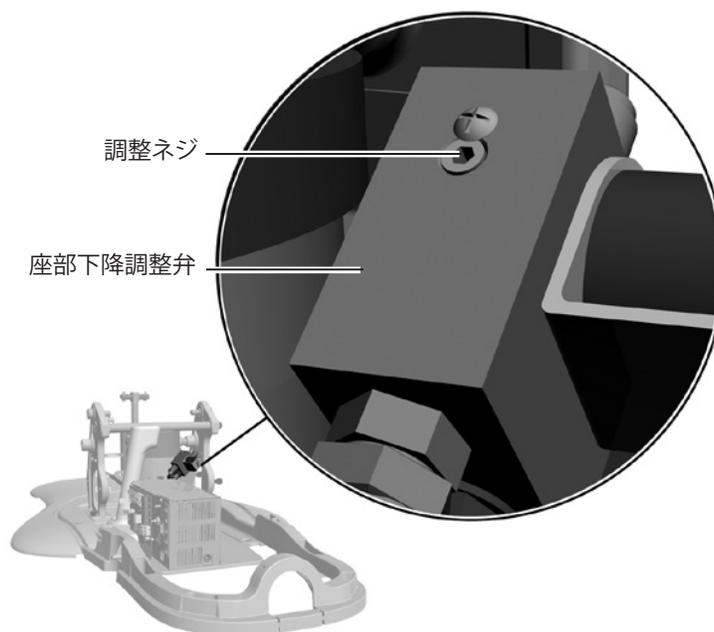
チェアへの下降スピードの調整

チェアを下降させるときのスピードを調整するには、チェアを上昇させ、3/32インチの六角レンチを使用して、座部下降調整弁を調整します。ネジを時計回りに回すと遅くなり、反時計回りに回すと速くなります。



ヒント できるだけ正確に下降スピードを推定するには、調整を行うときに実際に人をチェアに座らせてください。

図 103. 座部下降調整弁を調整します。



デリバリーシステムのバネ式フレックスアームの調整

コントロールヘッドが上下にずれてしまう場合は、以下の手順に従って、バネ式フレックスアームを調整します。



注 フレックスアームを調整したら、通常使用時のポジションでバランスをテストします。

1. 電源を切ります。
2. コントロールヘッドを通常使用で取り付けるには、ハンドピースを取り付け、トレイホルダー上の機器を装備してトレイを取り付けます。
3. 1/8インチの六角レンチを使って、エンドキャップを固定しているネジを緩めます。



ヒント コントロールヘッドを下げるとボタンボルトを操作しやすくなります。

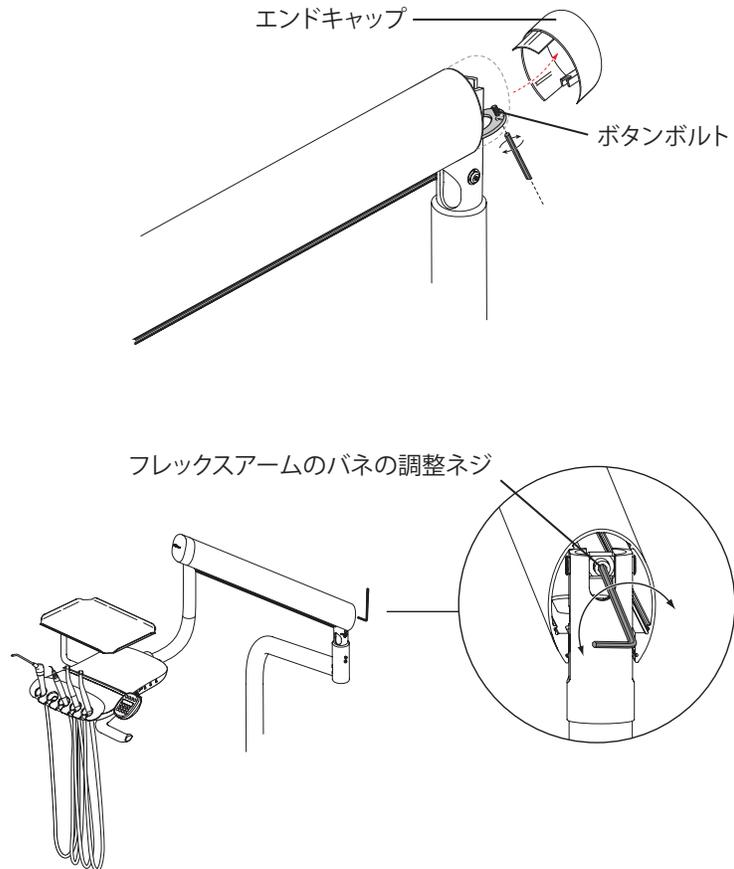
4. フレックスアームのエンドキャップを外します。
5. 3/16インチの六角レンチを使って、コントロールヘッドが通常使用の位置に留まるように、フレックスアームのバネの調整ネジを調整します。



ヒント コントロールヘッドを一番高い位置まで上げるとバネを調整しやすくなります。

- コントロールヘッドがずり上がる場合は、ネジを反時計回りに回します。
- コントロールヘッドがずり落ちる場合は、ネジを時計回りに回します。

図 104. バネ式フレックスアームの調整



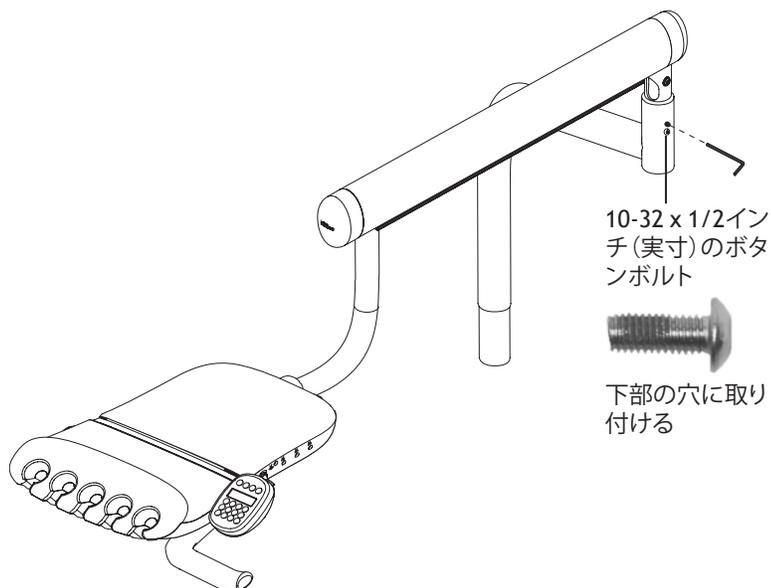
デリバリーシステムのフレックスアーム 回転張力の調整

フレックスアームの回転張力を調整する前に、システムを水平に調整する必要があります。フレックスアームの回転の調整については、81ページの「デリバリーシステムのフレックスアーム回転張力の調整」を参照してください。

デリバリーシステムのフレックスアーム 回転停止ネジの取り付け

1/8インチの六角レンチを使って、10-32 x 1/2インチのボタネジをデリバリーシステムのナックルの一番下の穴に取り付けます。ボルトを下までしっかりと締めます。

図 105. フレックスアーム回転止めネジの取り付け

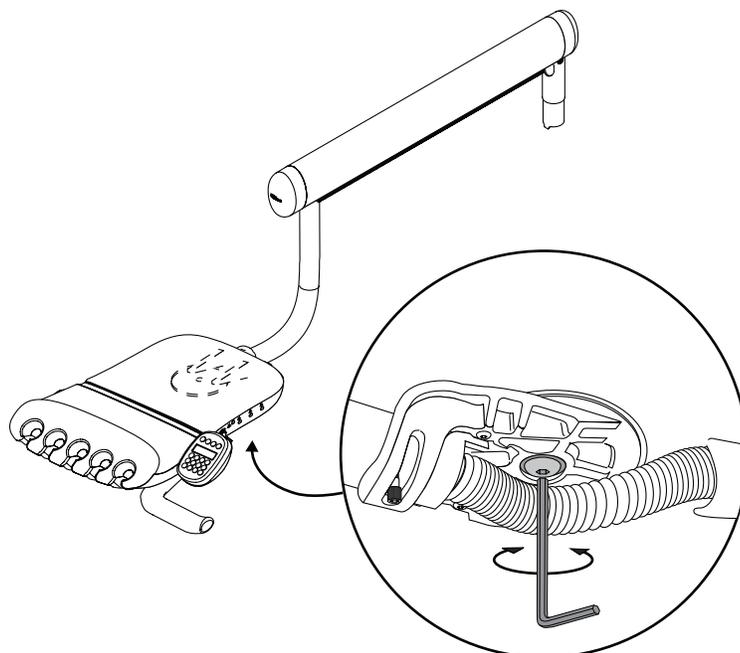


コントロールヘッドの回転張力の調整

コントロールヘッドが回転しにくかったり緩すぎたりする場合は、コントロールヘッドの下部のネジを締めたり、緩めたりして回転張力を調整してください。

ネジの調整には5/32インチの六角レンチを使用します。ネジを時計回りに回すと張力が増加し、反時計回りに回すと張力が減少します。

図 106. コントロールヘッド回転張力の調整

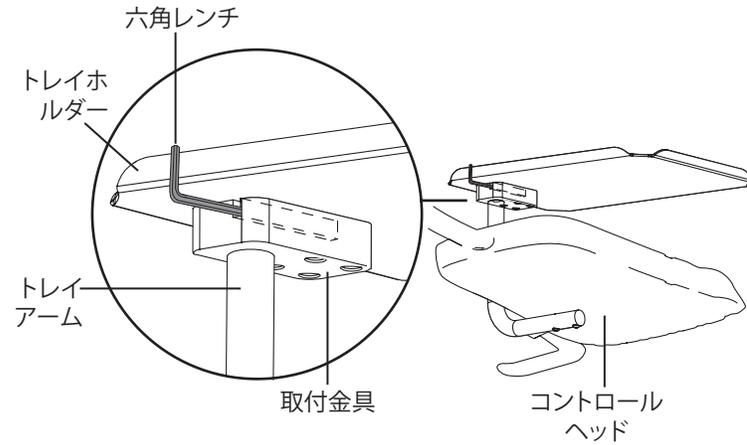


トレイ回転張力の調整

トレイホルダーが回転しにくかったり緩すぎたりする場合は、トレイの回転張力を調整します。

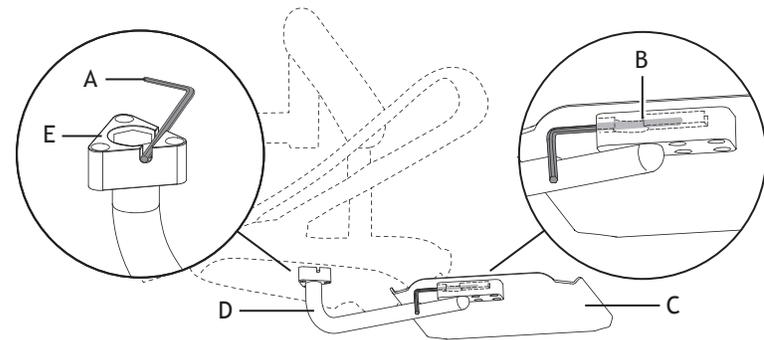
1. 取付金具に1/8インチの六角レンチを差し込みます。必要に応じて、レンチが取付金具の奥まで入るようにホルダーまたはアームを回転させます。
2. 取付金具に六角レンチを入れたままで、張力を増すにはトレイを時計回りに回転させ、張力を減らすにはトレイを反時計回りに回転させます。

図 107. Traditionalコントロールヘッドのトレイホルダーの調整



Continentalスタイルの場合には、コントロールヘッドの下とトレイホルダーの下の2箇所での調節が必要となる場合があります。

図 108. Continentalコントロールヘッドのトレイホルダーの調整



- (A) 六角レンチ、(B) トレイホルダー取付金具、(C) トレイホルダー、
(D) トレイアーム、(E) コントロールヘッド取付金具

ハンドピースの調節

推奨する工具

7/64インチの六角レンチ

手順1. 水冷却の流量の調整

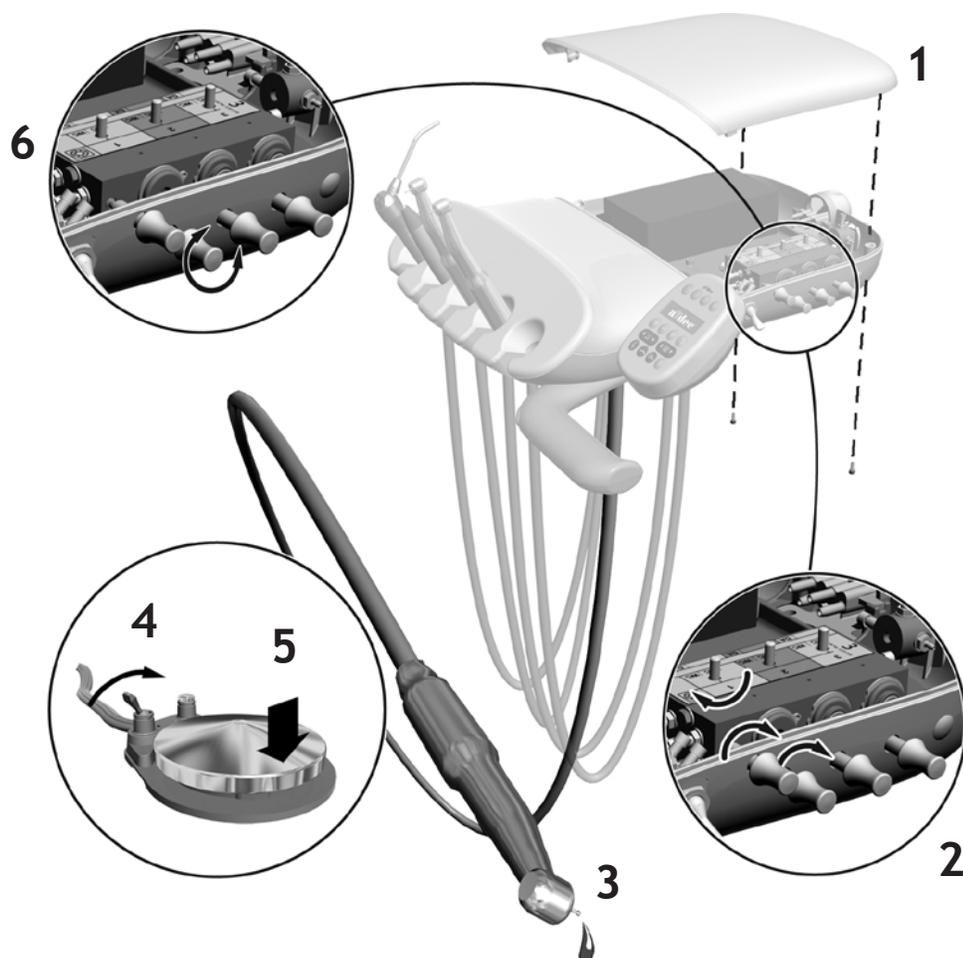
A-dec 300デリバリーシステムには、ハンドピースごとに水冷却の流量コントロールがあります。

1. 背面カバーを取り外します。
2. 空気冷却、水冷却、および空気送出のコントロールを時計回りにいっぱいに回します。



注意 空気と水の調整キーでは、流量が完全に止まることはありません。

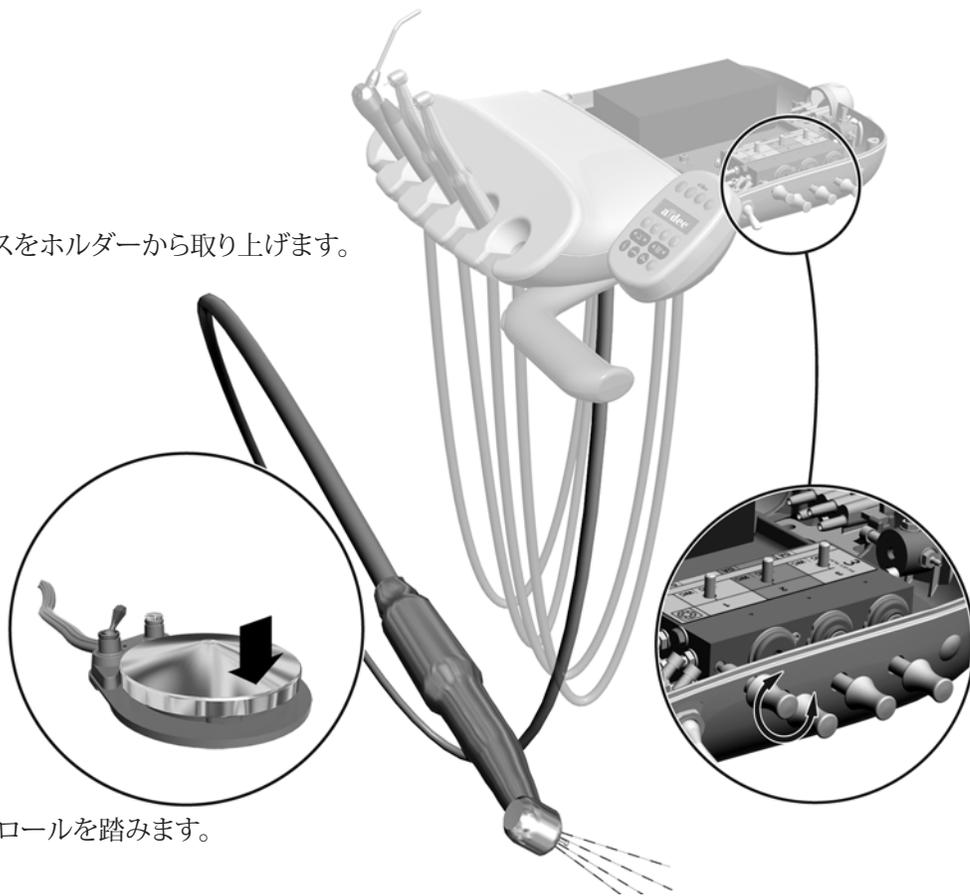
3. ハンドピースをホルダーから取り上げます。
4. トグルスイッチを水の方に切り替えます。
5. フットコントロールを踏みます。
6. 水が2秒に1滴出るように水冷却の流量を調整します。



手順 2. 空気冷却の流量の調整

空気冷却の流量コントロールでは、すべてのハンドピースへの空気冷却流量を調整できます。

1 ハンドピースをホルダーから取り上げます。



2 フットコントロールを踏みます。

3 スプレーが細かい霧状になるように空気冷却の流量を調整します。
流量を増やすには、キーを反時計回りに回します。
流量を減らすには、キーを時計回りに回します。



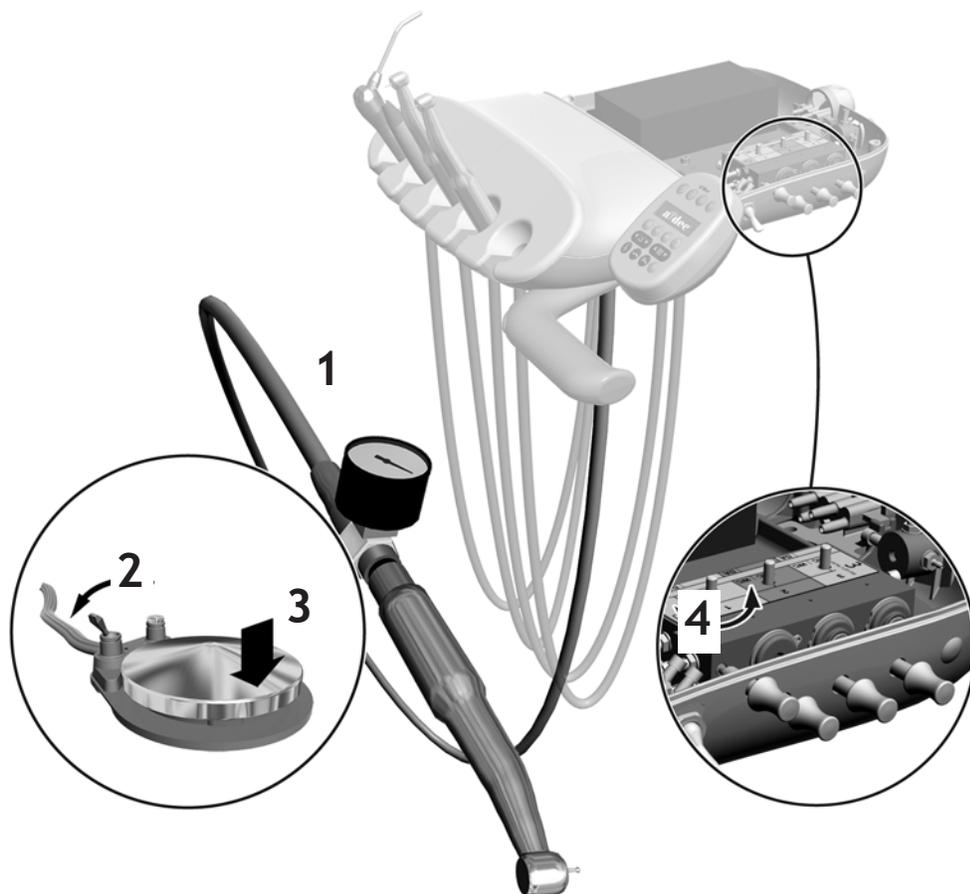
注意 流量がそれ以上増えなくなった時点で空気冷却調整キーを左方向に回し続けしないでください。STEMが完全に駄目になってしまう場合があります。

手順3. 空気送出圧の調整

! 注 空気送出を正確に測定するには、ハンドピース管に接続した空気圧ゲージを使用してください。バー1つが14.5 psiに相当します。

1. ハンドピースをホルダーから取り上げます。
2. トグルスイッチをドライの方に切り替えます。
3. フットコントロールを踏みます。
4. ハンドピースを作動させた状態で、ハンドピースのメーカーの仕様に合うようにハンドピースの空気送出圧を調整します。空気送出圧の仕様については、ハンドピースの説明書を参照してください。

圧力を調整するには、ステムを回します。時計回りに回すと、圧力が強まります。



口腔内光源電圧の調整

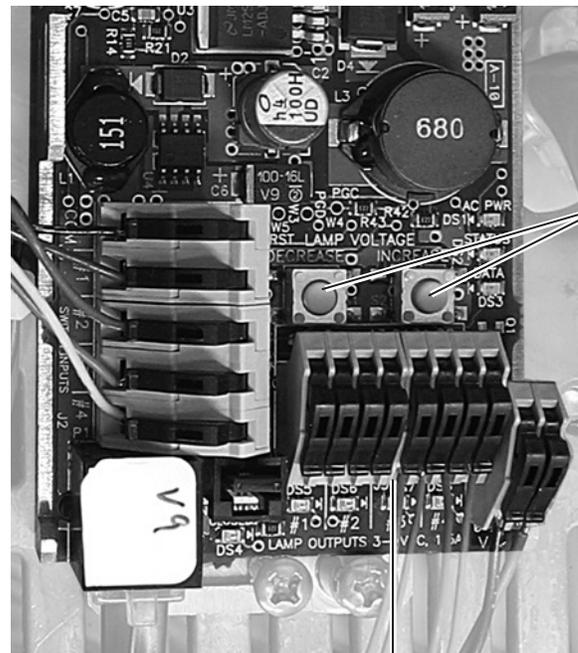
推奨する工具

- 7/64インチの六角レンチ
- 電圧計

口腔内光源を調整するには、以下の手順を完了してください。

1. 7/64インチの六角レンチを使用して、コントロールヘッドの背面カバーを外します。
2. DC電圧に電圧計をセットし、計測するハンドピースのIOLS出力端子に探針を取り付けます。
3. ハンドピースをホルダーから持ち上げ、ライトをオンにします。
4. 端子の背後にあるボタンを使用して、以下の表に従って電圧を調整します。

図 109. 口腔内光源電圧の調整



ボタンを使用して電圧を調整します

IOLS出力端子



注 以下の表に示す値は、26 AWG電線、750mA負荷、および推奨電圧バルブDC 3.2Vの光ファイバーの場合のみ有効です。26 AWG電線とその他の定格で電力が供給される光ファイバーについては、方程式 $T = (Z \times 0.006 \times Y) + X$ で計算してください。各項は以下を示します。

T = 端子板電圧 (VDC)

X = 所望電圧ランプ (VDC)

Y = 定格ランプ/負荷電流 (アンペア)

Z = 端子板からランプまでの26 AWG電線長 (インチ)

26 AWG以外のワイヤゲージを使用する機器については、A-decカスタマーサービスまでお問い合わせください。

A-dec | W&H, Bien Air, その他のバルブ (定格3.2V) の長さおよび電圧の表

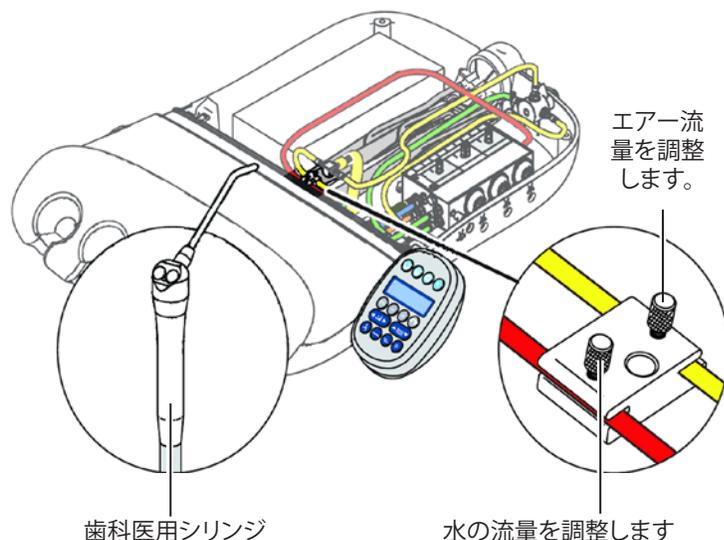
A-decチューブにおけるワイヤの長さ		推奨電圧バルブ3.2Vになる端子板での電圧	A-decチューブにおけるワイヤの長さ		推奨電圧バルブ3.2Vになる端子板での電圧
(インチ)	(cm)	VDC +/- .02	(インチ)	(cm)	VDC +/- .02
48	122	3.40	108	274	3.69
54	137	3.43	114	290	3.72
60	152	3.46	120	305	3.75
66	168	3.49	126	320	3.78
72	183	3.52	132	335	3.81
78	198	3.55	138	351	3.84
84	213	3.58	144	366	3.87
90	229	3.61	150	381	3.90
96	244	3.64	156	396	3.93
102	259	3.67			

シリンジの調整

シリンジ用の水とエアの流量を調整するには、以下の手順に従います。

1. ピンチバルブを操作します：
 - 医師用シリンジの場合は、7/64インチの六角レンチを使って、コントロールヘッドの背面カバーを外します。
 - 患者用シリンジの場合は、サポートセンターを操作します。
2. シリンジ上の水ボタンを押します。
3. ピンチ弁のスクリューを締め込むか緩めて、水の流量を調整します。
4. シリンジの両方のボタンを押します。
5. ピンチ弁のスクリューを締め込むか緩めて、微細なミストになるまで空気の流量を調整します。

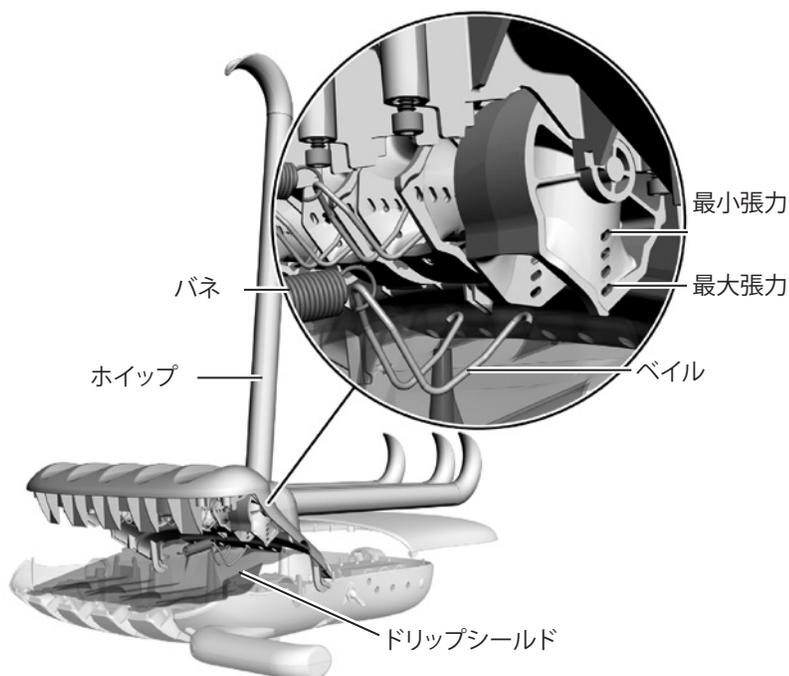
図 110. シリンジ流量の調整



Continentalホイップ張力の調整

1. 7/64インチの六角レンチを使用して、コントロールヘッドの背面カバーを外します。
2. 7/64インチの六角レンチを使用して、コントロールヘッドの前面カバーを支えながら2本のネジを緩め、カバーを上を持ち上げます。
3. ドリップシールドの上部にある2つのタブを引き出して、シールドを引き下ろします。
4. フロントカバーおよびベイルからスプリングを取り外します。
5. ホイップを前方に引きます。
6. コントロールヘッドからベイルを取り外すには、ベイルを保持しているフレームの穴からその終端がはずれるまでベイルの横腹を圧迫します。
7. 必要なホイップ張力を得られる穴にベイルの先端を挿入してから、バネを戻します。最も深い穴は最小張力用です。
8. 調整するホイップごとに手順4～7を繰り返します。
9. ドリップシールドとコントロールヘッドカバーを元の位置に戻します。

図 111. Continentalホイップ張力の調整



歯科ライトフレックスアームの釣合いの調整

歯科ライトが上下にずれるときは、以下の手順に従ってフレックスアームの釣合いを調整してください。

1. プラスドライバーを使用してエンドキャップを取り外します。
2. 5/16インチの六角レンチを使用して、カバーを固定している2本のネジを取り外します。
3. カバーを取り外します。
4. 1/2インチのコンビネーションレンチを使用して、スプリングの先端にあるナットを調整します。

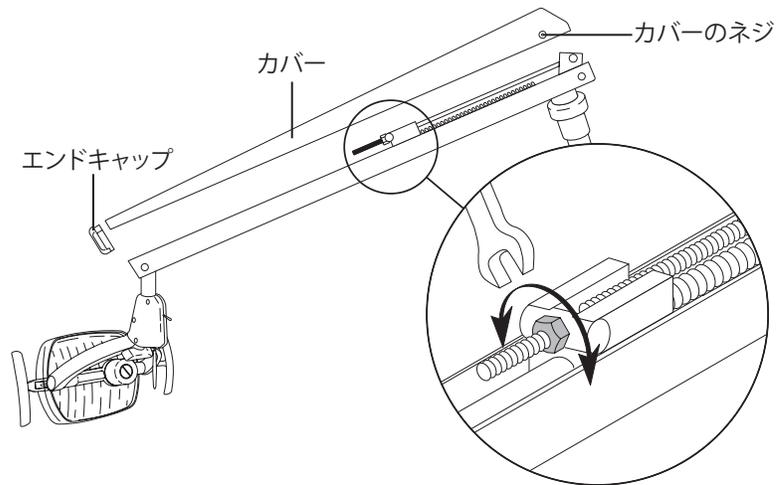
歯科ライトがずり上がる場合は、ナットを反時計回りに回します。歯科ライトがずり落ちる場合は、ナットを時計回りに回します。

5. フレックスアームの上に背面カバーを戻します(まだ取り付けません)。この状態でずれないかどうかを確認します。
6. ずれがなくなるまで、手順3～4を繰り返します。



注 フレックスアームが上下方向に移動するのを制限するには、オプションで動作停止制限キット(部品番号 90.1044.00)を設置する必要があります。

図 112. 歯科ライトフレックスアームの釣合いの調整

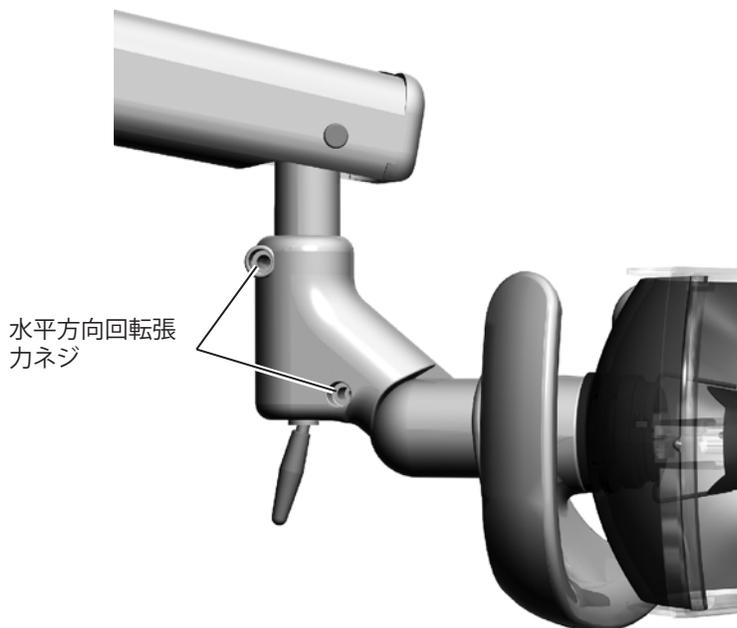


A-dec 371 歯科ライトの旋回の張力と垂直ドリフトの調整

ライトヘッドの位置が調整しにくい場合、簡単に動いてしまう場合、または所定の位置からずれてしまう場合は、以下の手順に従って水平方向と垂直方向の張力を調整します。

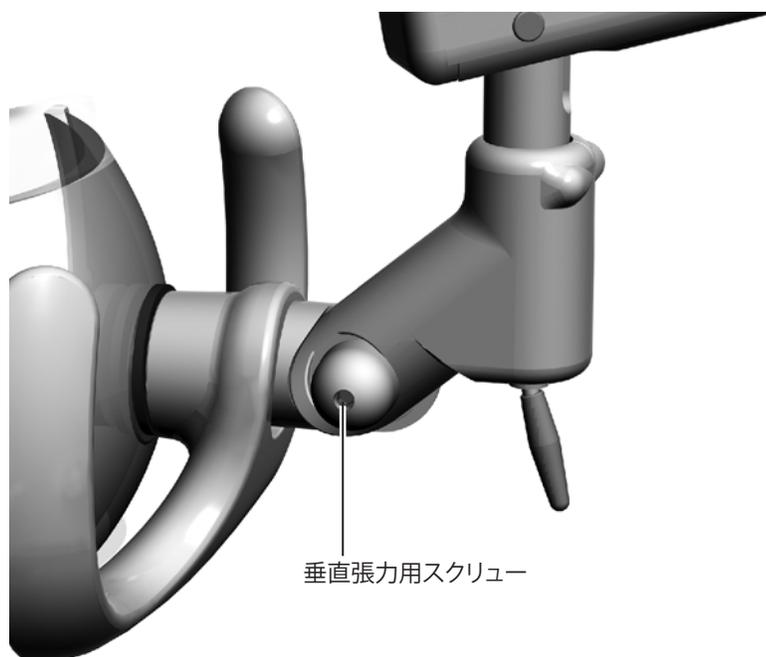
- 水平方向の回転には、5/32インチの六角レンチを使用して、スイッチハウジングの上部にあるネジを調整します。
ネジを時計回りに回すと張力が増し、反時計回りに回すと張力が減ります。

図 113. 水平方向の回転の調整



- 垂直方向の回転には、3/16インチの六角レンチを使って張力を調整してください。
ネジを時計回りに回すと張力が増し、反時計回りに回すと張力が減ります。

図 114. 垂直回転の調整



スピットンボウル洗浄流量の設定の調整

サポートセンター内部に設置されたボウル洗浄流量を調整するには、以下の手順を実行します。

1. カバーの下端部を引き出して、上部サポートセンターカバーを取り外します。
2. スピットンボウル洗浄をオンにして、ピンチ弁を締めるか緩めるかして流量を調整します。
3. ボウル洗浄吐水口を回転して、流量パターンを調整し最も良い洗浄動作を確保してください。
4. タッチパッドボタンを使って、コップ給水とボウル洗浄の流水の長さを設定します(詳細については83ページの「コップ給水およびボウル洗浄」を参照)。

図 115. ボウル洗浄流量のピンチ弁位置

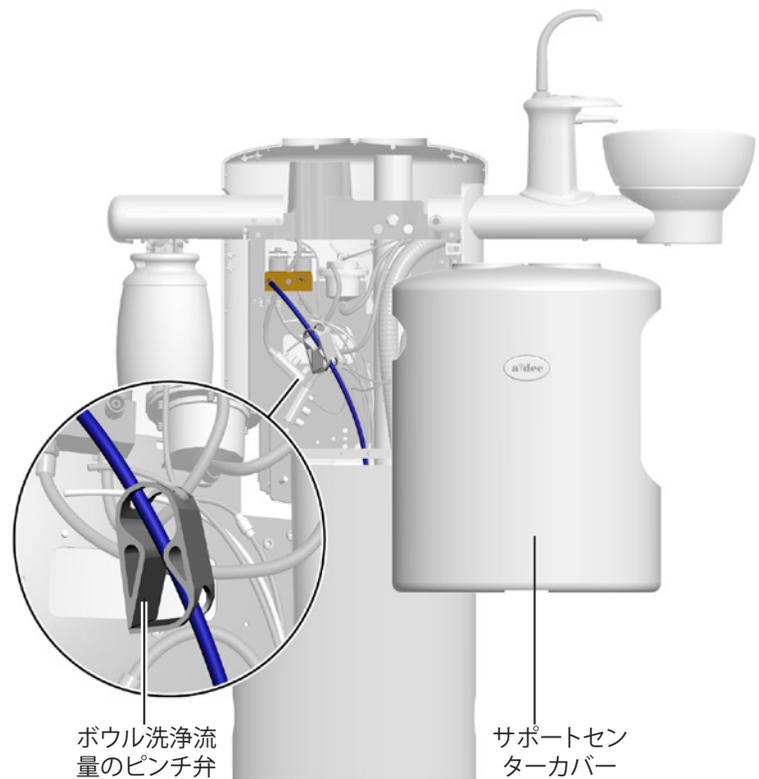
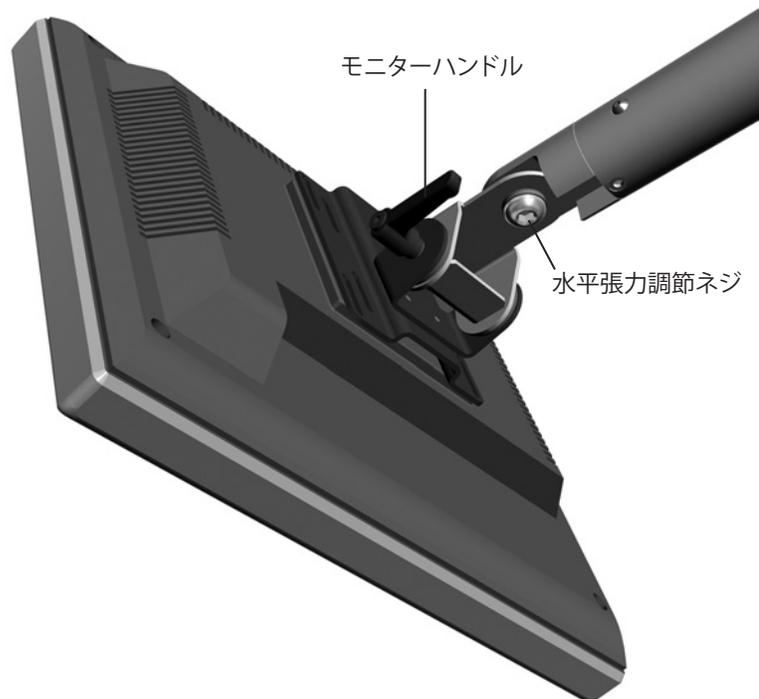


図 116. モニターマウントの傾斜とドリフトの調整

モニターの傾斜とドリフトの調整

モニターの傾斜を変更したい場合、またはモニターが所定の位置からずれる傾向がある場合は、以下の手順に従って調整します。

- モニターの傾斜の調整は、モニターハンドルを左に回し、モニターの角度を調整します。次にハンドルを右に回して所定の位置にロックします。
- 水平方向のモニターのずれを調整するには、5/16インチの六角レンチを使用して、水平方向の張力調整ネジを締めたり緩めたりします。



システムの水平調整

システムが水平になるように調整するには、以下のセクションの手順を実行します。システムを水平にすることで、モジュールがずれたり器具がトレイ周りで回転したりしないようになります。

注 システムを手際よく水平にするには、表示された順序に従って以下のセクションを完了することが肝要です。

1. サポートセンターの水平調整

1. 医師の通常の作業位置にコントロールヘッドと歯科ライトを動かします。
2. 磁気水準器をデリバリーシステムの固定アームのナックルに垂直に置きます。水準器をチェアベースマウントの反対側にある一対のレベリングスクリューと合わせます。



ヒント 必要に応じて、所定の位置に水準器を保持するため短いテープを一本使います。

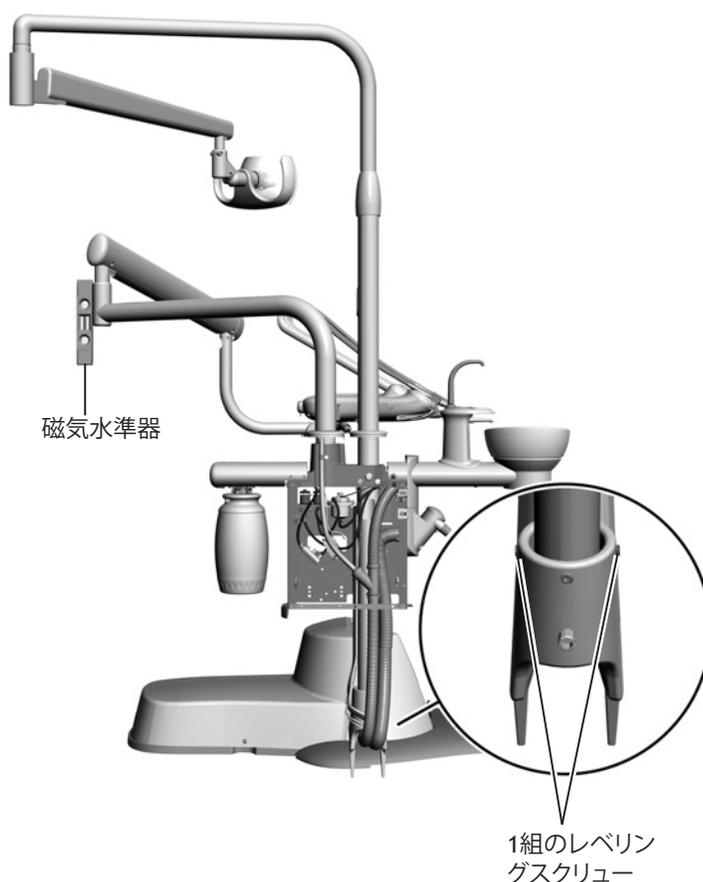
3. 3/16インチの六角レンチを使用して、水準器のアラインメントを一対のネジから他の一対のネジに動かす間に4本のレベリングスクリューを調整します。
4. システムが平行になった時点で、レベリングスクリューをしっかり締め込みます。

このセクションに必要な工具

磁気水準器

六角レンチセット

図 117. サポートセンターの水平調整



2. デリバリーシステムの水平調整

1. コントロールヘッドを医師の通常の作業位置にセットした状態で、フレックスアームと直線上に並ぶように動かします。
2. システムがトレイホルダーを装備している場合や、トレイホルダーがコントロールヘッド上部にある場合は、トレイホルダーの上に水準器を置きます。
3. 5/32インチの六角レンチを使用して、コントロールヘッドを支えながらボタンボルトを緩めます。
4. コントロールヘッドを平行にするため以下の調整を行ってください。調整を行うときは、水準器を調整用のネジに合わせます(図 118を参照)。
 - 5/32インチの六角レンチを使用して、コントロールヘッドを側端から側端で水平にします。
 - 5/32インチの六角レンチを使用して、コントロールヘッドを前方から後方に水平にします。
5. ボタンボルトを締めて、コントロールヘッドを適切な位置に取り付けます。

図 119. 水平調整可能な状態のデリバリーシステム

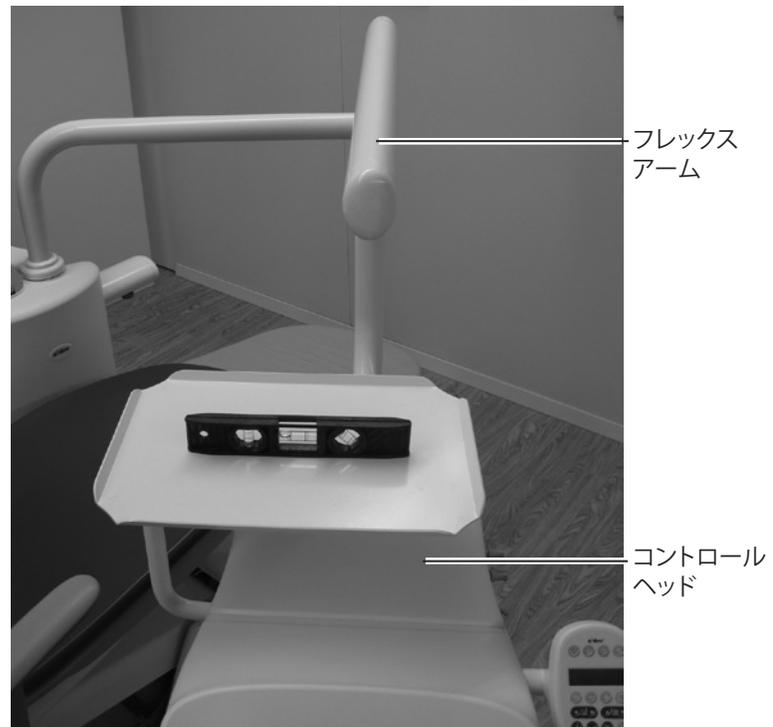
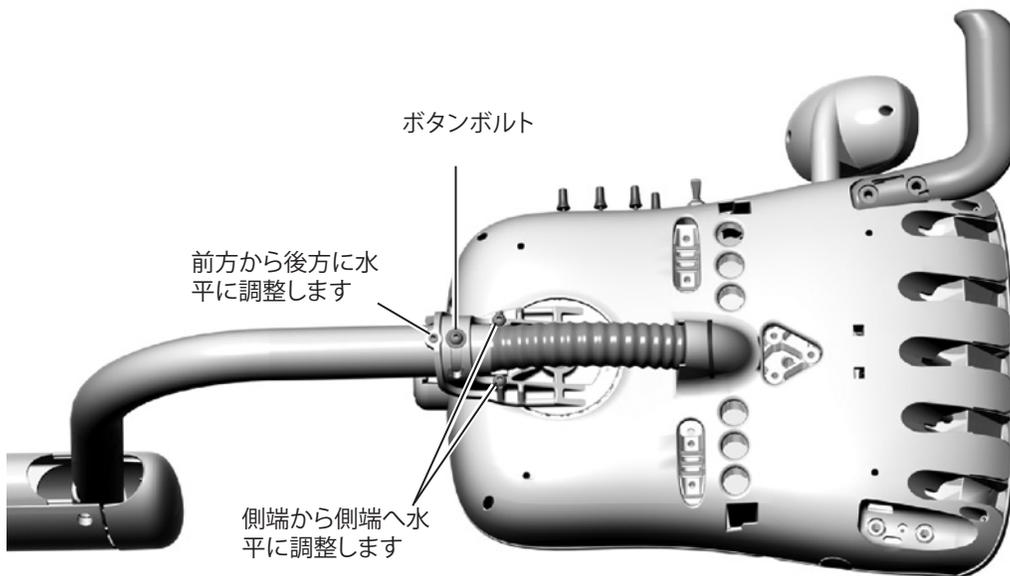


図 118. デリバリーシステムの水平調整

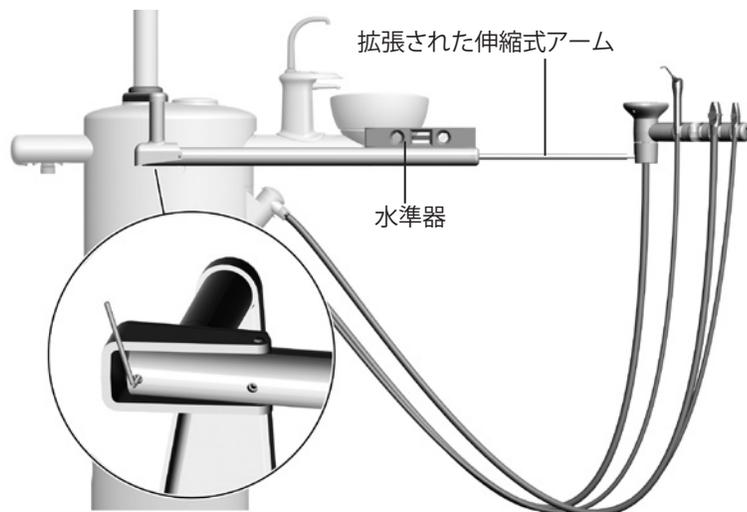


注 システムに伸縮式アームに取り付けられた歯科助手用器具がない場合は、水平調整は完了済みで、81ページの「デリバリーシステムのフレックスアーム回転張力の調整」に進むことができます。

3. 歯科助手用器具の伸縮式アームの水平調整

1. 伸縮式アームを引き伸ばし、チェアに対して平行にします。
2. 水準器を伸縮式アームの頭頂部に置きます。
3. 1/8インチの六角レンチを使用してアームを水平にします。

図 120. 歯科助手用器具の伸縮式アームの水平調整



デリバリーシステムのフレックスアーム回転張力の調整

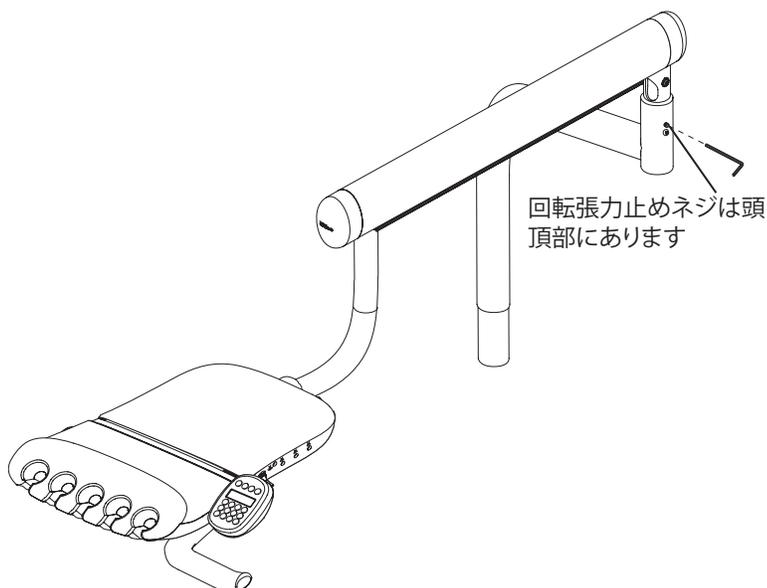


注 この調整を行う前に、システムを水平に調整する作業を完了する必要があります。その他の調整については、65ページの「システムの準備と調整」を参照してください。

デリバリーシステムのアームがずれる場合は、以下の手順に従ってフレックスアームの回転張力を調整します。

1. コントロールヘッドに通常使用時の荷重をかけます。
2. ネジの調整には1/8インチの六角レンチを使用します。止めネジを時計回りに回すと張力が増し、反時計回りに回すと張力が減ります。

図 121. デリバリーシステムのフレックスアーム回転張力の調整



タッチパッドの設定

デンタルチェアとライトの設定

タッチパッドを使用して、システムの一般的に使用される設定をプログラムします。表 1 に、チェアのプリセット位置を示します。

チェアポジションのプログラム

開始/終了、位置1および位置2ボタンをプログラムするには：

1. チェアを目的のポジションにします。
2. **p** を押して放します。プログラムモードになったことを示すビーブ音が鳴ります。
3. プログラムしたいボタンを押します。ボタンがセットされたことを示すビーブ音が3回鳴ります。

X線/洗浄ボタンのカスタマイズ

X線/洗浄ボタンは、X線/洗浄用または他の完全にプログラム可能なプリセットポジション（治療3）用のいずれかとして機能します。機能を変更するには：

1. **p** ボタンと  ボタンを同時に3秒間押したままにします。
 - ビーブ音が1回鳴ったときは、ボタンが治療3に設定されたことを示します。
 - ビーブ音が3回鳴ったときは、X線/洗浄ボタンがX線/洗浄機能として設定されたことを示します。X線/洗浄と前のポジションとが交互に切り替わります。
2. 「チェアポジションのプログラム」の手順に従って、プリセットポジションをプログラムします。



ヒント X線/洗浄ボタンは、完全にプログラム可能なプリセットポジションに機能変更すると、治療ボタン1および2と同様に動作します。

図 122. 標準タッチパッドとデラックスタッチパッド



注 タッチパッド上の記号はA-decが所有権を保有しています。

表 1. チェアのプリセットポジション

ボタン	ポジションの説明
	座る/降りる ：チェアを自動的に座る/降りるポジションにし、歯科ライトを消灯します。
	治療1 ：チェアのベースと背もたれのポジションを自動的に下げ、ライトをオンにします。
	治療2 (標準タッチパッドのみ) ：チェアのベースと背もたれのポジションを自動的に設定し、ライトをオンにします。
	X線/洗浄 ：X線/洗浄ポジションと現在のチェアポジションを自動的に切り替えます。チェアをX線/洗浄ポジションにすると歯科ライトが消灯し、前のポジションに戻すと点灯します。



注 フットスイッチまたはタッチパッドのいずれかのチェアのポジションボタンを押すと、チェアの動きをいつでも止めることができます。

コップ給水およびボウル洗浄

コップ給水機能は、ウォーターボトルからカップへの水量をコントロールします。ボウル洗浄機能はスピットンボウル用洗浄水を供給します。ランタイムを初期設定するためのボタンについては、表 2を参照してください。

コップ給水とボウル洗浄についてのタイミングを変更するには：

1. を押して離します。1回の警告音は、プログラミングモードが準備できたことを知らせます。



注 また、吐水口に隣接したコップ給水、およびボウル洗浄ボタンの両方を押したままにすることでスピットン・プログラミングモードに入ることができます。1回の警告音は、プログラミングモードが準備できたことを知らせます。

2. 希望する時間量を設定するためコップ給水 、またはボウル洗浄  ボタンを押したままにしてください。
3. ボタンを放します。セットアップが完了すると、ビーブ音が3回鳴ります。

表 2. コップ給水およびボウル洗浄のプリセット

ボタン	説明
	<p>コップ給水機能:ウォーターボトルからカップへの水量をコントロールします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • タイミング操作にする場合はコップ給水ボタンを押してください。初期設定は2.5 秒です。 • 手動にするにはコップ給水ボタンを押したままにしてください。
	<p>ボウル洗浄ボタン:スピットンボウルに洗浄水を供給する機能です。</p> <ul style="list-style-type: none"> • タイミング操作にする場合はボウル洗浄ボタンを押してください。洗浄の工場出荷時初期設定は30 秒です。 • 手動にするにはボウル洗浄ボタンを押したままにしてください。 • 2秒以内にボウル洗浄ボタンを2回押すと、動作は継続洗浄モードに切り替わります。洗浄ボタンを1回押すと継続ボウル洗浄を停止します。

歯科ライト

タッチパッドの歯科ライトボタンでは、歯科ライトを点灯または消灯できます。

歯科ライトボタン  を押すと、輝度設定とコンポジット設定とが切り替わります。

ハロゲン歯科ライト:  を押して、高強度と複合、あるいは中度と複合を切り替えます。歯科ライトが複合モードのとき、インジケータライトは点滅します。

LED歯科ライト:  を押して放し、目的の輝度モードを選択します。ライトが光重合防止モードのとき、インジケータライトは点滅します。

歯科ライトを消灯するには、 を1秒間押したままにします。

自動ライト機能

プログラムしたチェアポジションを使用するときは、チェアの背板が治療ポジションに達すると歯科ライトが点灯します。 または  を押すと歯科ライトが自動的に消灯します。

自動ライト機能をオンにするには、 と  を同時に3秒間押したままにします。ピープ音が1回鳴って、自動ライト機能がオフになったことが示されます。

自動ライト機能を再度オンにするには、 と  を同時に3秒間押したままにします。ピープ音が3回鳴って、自動ライト機能がオンになったことが示されます。



ヒント レントゲン/リンスが初期設定位置に変更されると、歯科ライト自動機能が治療ボタン1および2と同様に作動します。

表 3. 歯科ライトボタン

ボタン	説明
	歯科ライトボタン: 輝度設定を切り替えるときに押します。このボタンを押すと歯科ライトが点灯し、押したままにすると消灯します。

電動ハンドピースの動作

ハンドピースは標準モードまたは歯内治療モードでプログラムできます。

- **標準モード:** 電動ハンドピースのトルクは常に100%になります。
- **歯内治療モード:** 歯内治療をサポートするモーター制御器が装備されている場合は、このモードでハンドピースをプログラムできます。歯内治療モードでは、トルクと比率の設定を調整できます。

標準モードでの電動ハンドピースのプログラム

デラックスタッチパッドでは、特定の毎分回転数 (RPM) のメモリー設定をプログラムできます。ハンドピース設定をプログラムするには:

1. ハンドピースをホルダーから取り上げます。
2. タッチパッドスクリーンに標準モードが表示されていない場合は、**e** を押します。
3. RPMを調整するには、マイナス(-)またはプラス(+)ボタンを押します。RPM値はスクリーンに表示されます(図 123を参照)。
4. 設定をメモリーに記憶するには、**p** を押します。ビープ音が1回鳴ります。
5. 目的のメモリー設定(M1~M4)を選択します。メモリー設定を切り替えるには、**m** を押します。
6. 目的のメモリー位置を選択したら、**p** を押します。セットアップが完了すると、ビープ音が3回鳴ります。

正回転/逆回転ボタン

正回転/逆回転ボタンを使用して、電動モーターの回転方向を変更できます。モーターをホルダーに戻すか、システムの電源を切ると、自動的に正回転に戻ります(図 123を参照)。逆回転モードでは、正回転/逆回転インジケータのアイコンが点滅し続けます。

表 4. 電気モーターのプリセット (標準モード)

メモリー設定	プリセット速度
M1	2,000 RPM
M2	10,000 RPM
M3	20,000 RPM
M4	36,000 RPM

図 123. 標準モードのタッチパッドスクリーン



項目	説明
A	正回転/逆回転インジケータ (図は正回転)
B	正回転/逆回転ボタン
C	マイナスボタンとプラスボタン
D	メモリーボタン
E	RPM値

歯内治療モードでの電動ハンドピースのプログラム

歯内治療モードでは、特定のファイルと目的のハンドピース動作に基づいて設定を変更できます。

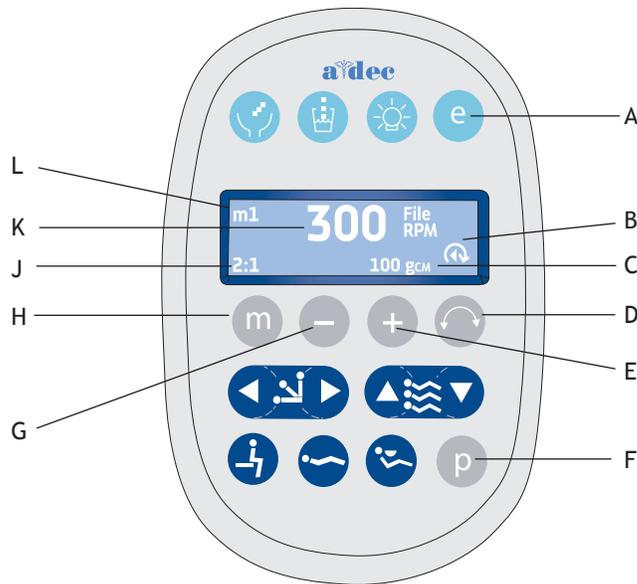


注 特定のファイルに関する回転速度制限やトルク制限については、ファイルのメーカーにお問い合わせください。

歯内治療メモリー設定をプログラムするには:

1. ハンドピースをホルダーから取り上げます。
2. タッチパッドスクリーンに歯内治療モードが表示されていない場合は、**e** を押します。
3. 歯内治療モードの設定を変更するには、マイナス(-)またはプラス(+)ボタンを押します。タッチパッドスクリーンに白い逆再生アイコンが表示されます。
4. タッチパッドスクリーンで設定間を移動するには、チェアーポジションのボタンを押します。
5. 設定を変更するには、マイナス(-)またはプラス(+)ボタンを押します。
6. 速度制限、トルク制限、および比率をメモリーに記憶するには、**p** を押します。ビープ音が1回鳴ります。
7. 目的のメモリー設定(M1~M4)を選択します。メモリー設定を切り替えるには、**m** を押します。
8. 目的のメモリー位置を選択したら、**p** を押します。セットアップが完了すると、ビープ音が3回鳴ります。

図 124. 歯内治療モードのタッチパッドスクリーン



項目	説明	項目	説明
A	歯内治療モードボタン	G	マイナスボタン
B	正回転/逆回転インジケータ (矢印内に自動モードインジケータ)	H	メモリーボタン
C	ファイルのトルク単位インジケータ	J	ハンドピースの比率設定
D	正回転/逆回転ボタン	K	速度制限インジケータ
E	プラスボタン	L	メモリー設定インジケータ
F	プログラムボタン		

表 5に、歯内治療モードでタッチパッドスクリーンに表示されるアイコンの説明を示します。



注意 A-dec | W&Hの歯内治療アタッチメントには、そのボールベアリング設計に基づく特別な機能があります。製品寿命期間中の効率要素が安定していて既知であるため、A-decの歯内治療システムでファイルのトルクを極めて正確に制御できます。他のアタッチメントはすべて、寿命期間中の効率要素が未知であるため、表示されるトルク値はおおよそその値になります。

表 5. 歯内治療モードの設定

アイコン	設定	説明
	速度	ファイルの速度制限の設定値。詳細については、ファイルメーカーにお問い合わせください。
	トルク	ファイルのトルク制限の設定値。詳細については、ファイルメーカーにお問い合わせください。
	トルクユニット	Ncm (ニュートンセンチメートル) と gcm (グラムセンチメートル) とを切り替えます。1つのハンドピースでこの設定を変更すると、すべてのハンドピースの設定が変更されます。 注: 1 Ncm = 102 gcm
	比率	ハンドピースの比率を設定します。詳細については、ハンドピースメーカーにお問い合わせください。
	自動モード	1つのハンドピースでこの設定を変更すると、すべてのハンドピースの設定が変更されます。このアイコンは、正回転/逆回転インジケータ内に表示されます。 Auto stop (自動停止): ファイルの速度がトルク制限に達すると、モーターが停止します。
		自動逆回転 — ファイルがトルク制限に達すると、モーターが停止してから逆回転します。
		自動正回転 — ファイルがトルク制限に達すると、モーターが停止し、3回逆回転してから、正回転に戻ります。 注: モーターがトルク制限を3回超えると、自動的に停止します。

整備技師用タッチパッド設定 オプション

デラックスタッチパッドでは、整備技師がユーザー設定にアクセスして、ハンドピースやタッチパッドの設定を調整できます。

タッチパッドボタンでのナビゲーション

セットアップモードでは、チェアボタンがナビゲーションボタンとして機能します。背板の上昇(▶)ボタンと背板降下(◀)ボタンを使用して、セットアップ画面内を移動します。

ホルダーのセットアップ

各ハンドピースホルダー用にハンドピースを設定する方法を調整することができます。

ハンドピースホルダーを調整するには：

1. デラックスタッチパッドのメインスクリーンで、**m** と **e** を同時に3秒間押したままにしてから、▶を押して開始します。
2. **System Setup** (システムセットアップ) スクリーンで、マイナス (-) またはプラス (+) を押して **Handpieces** (ハンドピース) を選択し (図 125を参照)、▶を押します。
3. **Handpiece Setup** (ハンドピースセットアップ) スクリーンで、**Holder Setup** (ホルダーセットアップ) を選択し (図 126を参照)、▶を押します。
4. 設定するハンドピースをホルダーから取り上げます。

図 125. System Setup (システムセットアップ) : Handpieces (ハンドピース)

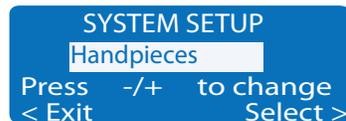


図 126. Handpiece Setup (ハンドピースセットアップ) : Holder Setup (ホルダーセットアップ) の選択



5. **Holder Setup (ホルダーセットアップ)**スクリーンで、マイナス(-)またはプラス(+を押してハンドピースのタイプを選択します(図127を参照)。

ハンドピースのタイプには、Electric(電動)、Scaler(スケーラー)、Vacuum(バキューム)、Other(その他)、およびTurbine(タービン)があります。

6. 電動ハンドピースを設定する場合:

- (1) ▶を押してからマイナス (-) またはプラス (+) を押して、モーター番号を選択します。
- (2) ▶を押してからマイナス(-)またはプラス(+を押して、モーターのタイプを選択します。
- (3) ▶を押してからマイナス(-)またはプラス(+を押して、取り付けられているケーブルの長さを選択します。

7. ▶を押します。

ビーブ音が3回鳴って、ハンドピースのセットアップが完了したことが示されます。

8. ハンドピースをホルダーに戻します。

9. 各ハンドピースについて、手順5~7を繰り返して設定を行います。

10. すべてのハンドピースの設定が完了したら、A-decロゴが表示されるまで◀を押します。

図 127. Holder Setup (ホルダーセットアップ): オプションの選択



図 128. Holder Setup (ホルダーセットアップ): Motor Number (モーター番号)の選択

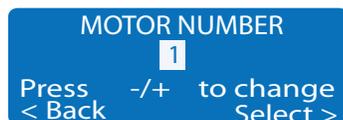


図 129. Holder Setup (ホルダーセットアップ): Motor Type (モーターのタイプ)の選択

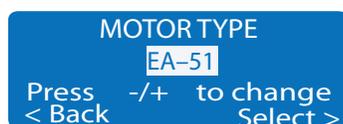


図 130. Holder Setup (ホルダーセットアップ): Wire Length (電線の長さ)の選択



光源のセットアップ

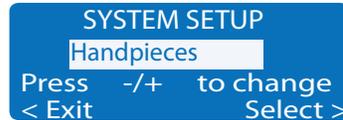
クワッド電圧(QVIOLS)、またはIOLSコントロールが内蔵された電動モーターコントローラが取り付けられている場合は、さまざまな口腔内光源オプションを設定できます。以下のオプションが利用できます:

- **On When Selected (選択時に点灯)**:ホルダーからハンドピースを取り上げたときに口腔内光源を点灯するか消灯したままにするかを指定します。
- **Auto Off Delay (自動消灯の待ち時間)**:フットコントロールを放してから口腔内光源を消灯するまでの時間を指定します。この時間は、空気送出を再度使用するとリセットされます。
- **On in Endo (歯内治療時に点灯)**:歯内治療モードのときに口腔内光源を点灯するか消灯するかを指定します。歯内治療用ハンドピースのほとんどが光ファイバーを装備していないので、光源熱を軽減しバルブの寿命を延ばすためオフを選択することを推奨します。

光源を設定するには:

1. デラックスタッチパッドのメインスクリーンで、**m** と **e** を同時に3秒間押したままにしてから、**▶** を押して開始します。
2. **System Setup** (システムセットアップ) スクリーンで、マイナス(-)またはプラス(+)を押して**Handpieces** (ハンドピース) を選択し (図 131を参照)、**▶** を押します。

図 131. System Setup (システムセットアップ) : Handpieces (ハンドピース)



3. **Handpiece Setup** (ハンドピースセットアップ) スクリーンで、マイナス(-)またはプラス(+)を押して**Intraoral Lt Source** (口腔内光源) を選択し (図 132を参照)、**▶** を押します。
4. 設定するハンドピースをホルダーから取り上げます。

図 132. Handpiece Setup (ハンドピースセットアップ) : Intraoral Lt Source (口腔内光源) の選択



5. **Light Source Setup** (光源セットアップ) スクリーンで、マイナス(-)またはプラス(+)を押して**On When Selected** (選択時に点灯) などのオプションを選択し (図 133を参照)、**▶** を押します。
6. マイナス(-)、プラス(+)、および**▶** を使用してスクリーン内を移動し、ハンドピース設定のオプションを指定します。
セットアップが完了すると、ビーブ音が3回鳴ります。
7. ハンドピースをホルダーに戻します。
8. 各ハンドピースについて、手順4~7を繰り返して設定を行います。
9. すべてのハンドピースの設定が完了したら、A-decロゴが表示されるまで **◀** を押します。

図 133. Light Source Setup (光源セットアップ) : オプションの選択



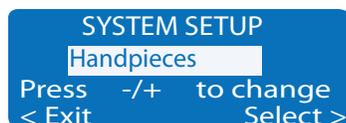
超音波のセットアップ

超音波の色を点灯するか消灯するかを指定します。

超音波を設定するには：

1. デラックスタッチパッドのメインスクリーンで、**m** と **e** を同時に3秒間押したままにしてから、**▶** を押して開始します。
2. **System Setup** (システムセットアップ) スクリーンで、マイナス(-)またはプラス(+)を押して**Handpieces** (ハンドピース) を選択し(図 134を参照)、**▶** を押します。

図 134. System Setup (システムセットアップ) : Handpieces (ハンドピース)



3. **Handpiece Setup** (ハンドピースセットアップ) スクリーンで、マイナス(-)またはプラス(+)を押して**Ultrasonic Setup** (超音波セットアップ) を選択し(図 135を参照)、**u** を押します。
4. マイナス(-)またはプラス(+)を押して**On** (オン)または**Off** (オフ) を選択してから、**▶** を押します。
 セットアップが完了すると、ビーブ音が3回鳴ります。
5. A-decロゴが表示されるまで**◀** を押します。

図 135. Handpiece Setup (ハンドピースセットアップ) : Ultrasonic Setup (超音波セットアップ) の選択



電動オプションの設定

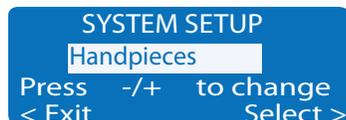
表示情報および電気的機能を変更できます。
以下のオプションが利用できます：

- **Torque Units (トルク単位)**：単位をNcm (ニュートンセンチメートル) またはgcm (グラムセンチメートル) のどちらで表示するかを選択します。
- **Endo Handpiece Auto Mode (歯内治療ハンドピースの自動モード)**：トルク制限に達したときの電動モーターの動作を設定します。
 - **Auto forward (自動正回転)**：ファイルがトルク制限に達すると、モーターが停止し、3回逆回転してから、正回転に戻ります。
 - **Auto reverse (自動逆回転)**：ファイルがトルク制限に達すると、モーターが停止してから逆回転します。
 - **Auto stop (自動停止)**：ファイルの速度がトルク制限に達すると、モーターが停止します。
- **Auto Reverse Beep (自動逆回転のビーブ音)**：モーターがトルクしきい値を超えて自動的に逆回転したときに2回ビーブ音を鳴らします。
- **Torque Warning Beep (トルク警告のビーブ音)**：モーターがトルクしきい値の75%を超えたときにビーブ音を鳴らし続けます。

電動オプションを設定するには:

1. デラックスタッチパッドのメインスクリーンから、**m** および **e** を同時に3秒間押したままにし、次に **▶** を押して開始します。
2. **System Setup** (システムセットアップ) スクリーンで、マイナス(-)またはプラス(+)を押して**Handpieces** (ハンドピース) を選択し (図 136を参照)、**▶** を押します。

図 136. System Setup (システムセットアップ) : Handpieces (ハンドピース)



3. **Handpiece Setup** (ハンドピースセットアップ) スクリーンで、マイナス(-)またはプラス(+)を押して**Electric Setup** (電動セットアップ) を選択し (図 137を参照)、**▶** を押します。

図 137. Handpiece Setup (ハンドピースセットアップ) : Electric Setup (電動セットアップ) の選択



4. **Electric Setup** (電動セットアップ) スクリーンで、マイナス(-)またはプラス(+)を押して**Torque Units** (トルク単位) などのオプションを選択し (図 138を参照)、**▶** を押します。
5. マイナス(-)、プラス(+)、および **▶** を使用してスクリーン内を移動し、設定のオプションを指定します。

図 138. Electric Setup (電動セットアップ) : オプションの選択



セットアップが完了すると、ビーブ音が3回鳴ります。

6. すべての設定が完了したら、A-decロゴが表示されるまで **◀** を押します。

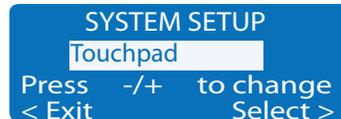
Touchpad Setup (タッチパッドセットアップ)

タッチパッドのセットアップでは、タッチパッドディスプレイのコントラストを変更したり、ヘルプメッセージを表示するかどうかを指定したりできます。

タッチパッドオプションを設定するには：

1. デラックスタッチパッドのメインスクリーンで、**m** と **e** を同時に3秒間押ししたままにしてから、**▶** を押して開始します。
2. **System Setup** (システムセットアップ) スクリーンで、マイナス (-) またはプラス (+) を押して **Touchpad** (タッチパッド) を選択し (図 139 を参照)、**▶** を押して開始します。

図 139. Touchpad Setup (タッチパッドセットアップ)

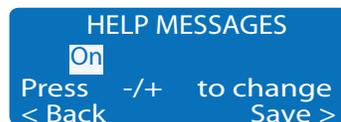


3. **Touchpad Setup** (タッチパッドセットアップ) スクリーンで、マイナス (-) またはプラス (+) を押して **Contrast Adjust** (コントラスト調整) または **Help Messages** (ヘルプメッセージ) を選択します。
 - スクリーンのコントラストを調整するときは、**Contrast Adjust** (コントラスト調整) を選択します。マイナス (-) またはプラス (+) を押してコントラストを調整します (図 140 を参照)。
 - **Help Messages** (ヘルプメッセージ) を選択したときは、マイナス (-) またはプラス (+) を押して **On** (オン) または **Off** (オフ) を選択し、**▶** を押します (図 141 を参照)。セットアップが完了すると、ビーブ音が3回鳴ります。
4. すべての設定が完了したら、A-dec ロゴが表示されるまで **◀** を押します。

図 140. Touchpad Setting (タッチパッド設定) : Contrast Adjust (コントラスト調整)



図 141. Touchpad Setting (タッチパッド設定) : Help Messages (ヘルプメッセージ)



注 タッチパッドのヘルプメッセージのリストについては、www.a-dec.com にある規制情報と仕様を参照してください。

システムのテスト

A-dec 300の設置を完了したら、以下のチェックリストを使用してシステムをテストし、次に顧客とともに確認作業を行います。

デンタルチェアー

- デンタルチェアーが床にしっかりと固定されているか。
- チェアーが正しく機能するか(チェアーの上昇と傾斜、タッチパッドやフットスイッチによるプログラム機能など)。
- ヘッドレストまたはネックサポートが適切に機能するか。
- アームレストは、固定することも、スタッフの好みに基づいて位置を決めることもできます。

デリバリーシステム

- ハンドピースが正しく機能し、医師の意向に沿って設定されているか：
 - 水冷却、空気冷却、およびスプレー
 - ハンドピース管のフラッシュ
 - ハンドピースホルダーのバルブとスイッチ
 - ハンドピース空気送出圧
- バネ式フレックスアームが正しく機能するか。
- デリバリーシステムのフレックスアームブレーキが正しく機能するか。
- コントロールヘッドがトレイに対して水平になっているか。
- 可動アームがずれないか。
- フットコントロールが正しく動作するか。

歯科ライト

- すべての輝度設定が正しく動作するか(371では2つの設定、571では3つの設定)。
- 歯科ライトの交換用電球(部品番号041.709.00)があるか。
- 歯科ライトのフレックスアームとヘッド張力が正しく調整されているか。

歯科助手用器具、スピットン、およびコップ給水

- バキューム/吸引が以下の仕様に従って設定されているか：
 - ウェットバキューム - 10 ± 2インチHg(34 ± 7kPa)、9 scfm(255 sl/min) 最小。
 - ドライ/セミドライバキューム - 4.5 ± 1インチHg(16 ± 3.5 kPa)、12 scfm(340 sl/min) 最小。
- 空気および水シリンジのボタンは滑らかに作動するか。
- HVEおよびSEに装備されたバルブの動作に支障はないか。
- コップ給水のタイミングは適切に設定されているか。
- スピットン流量パターンはボウルを効果的に洗浄し、ボウル排水は正常か。
- スピットンベンチレーションチューブの終端がサポートセンターのフレームの13ミリ(1/2インチ)上に位置しているかどうか。
- スピットンのボウルとアームレストの間に29mm(1-1/8インチ)のクリアランスがあるか。

ユーティリティ

- 空気圧が80 psi(552 kPa)に調整されているか。
- フロアボックスに空気および水の漏れがないか。
- 重力排水が正しく機能するか。
- チューブや接続にねじれがないか、また空気および水の漏れがないか。
- 余分な配管や配線がコイル状に巻かれて可動部品から離れた場所に収められているか。

スピットンボウルと アームレスト間のク リアランス適正度確認

このセクションに必要な工具

5/16インチの六角レンチ



注 Radius型のシステム、スピットンなしのベースマウントシステム、またはポスト取付型システムをお持ちの場合は、このセクションを飛ばして98ページの「カバーの取り付け」に進んでください。

適切なクリアランスの確認

1. スピットンボウルを取り外します。
2. ポジショニングガイドをスピットンボウルサポート上にチェアヘッド方向にタブで取り付け、ガイドセンター内にフォームプラグで固定します。
3. チェアを上昇および下降させて、ポジショニングガイドがアームレストをクリアしているかどうかを確認します。

ポジショニングガイドが、適切にアームレストをクリアしない場合は、次のページの手順をすべて実行して適切なクリアランスを確保してください。

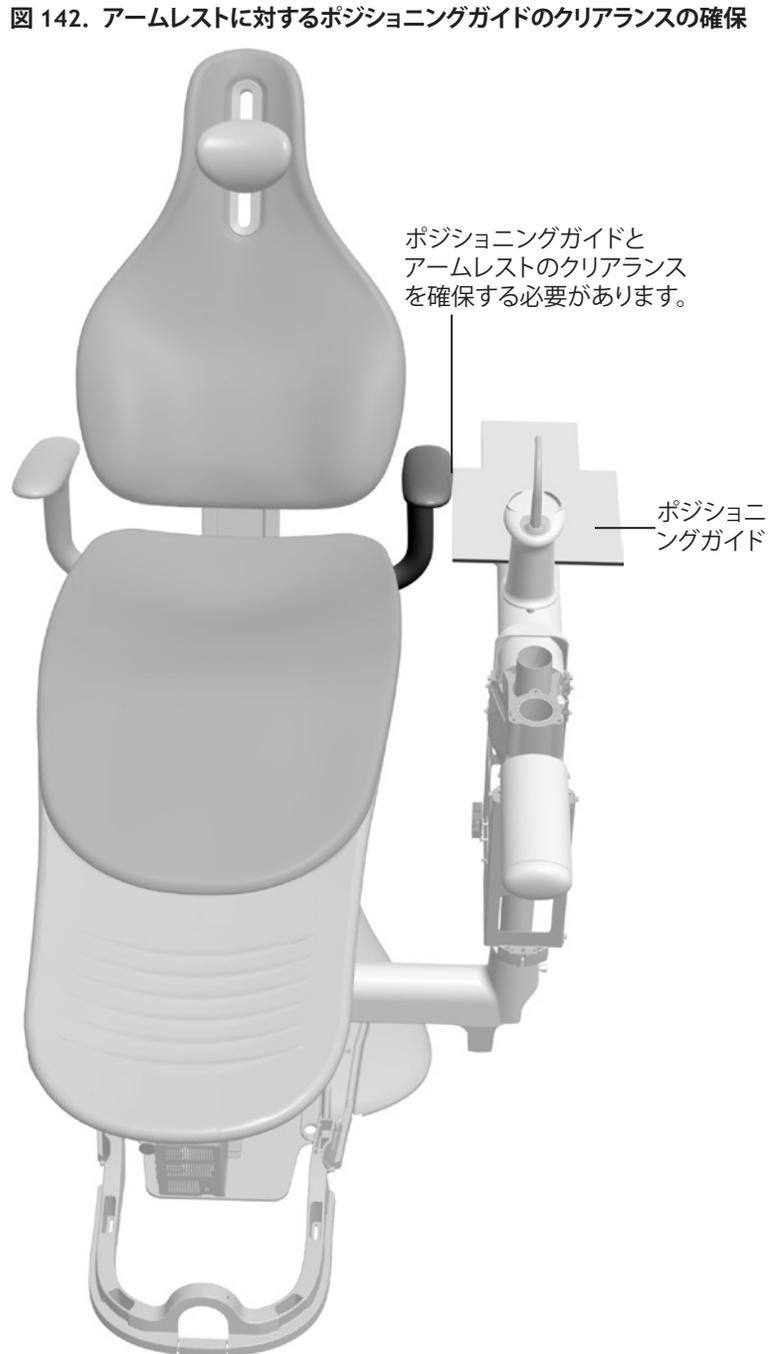
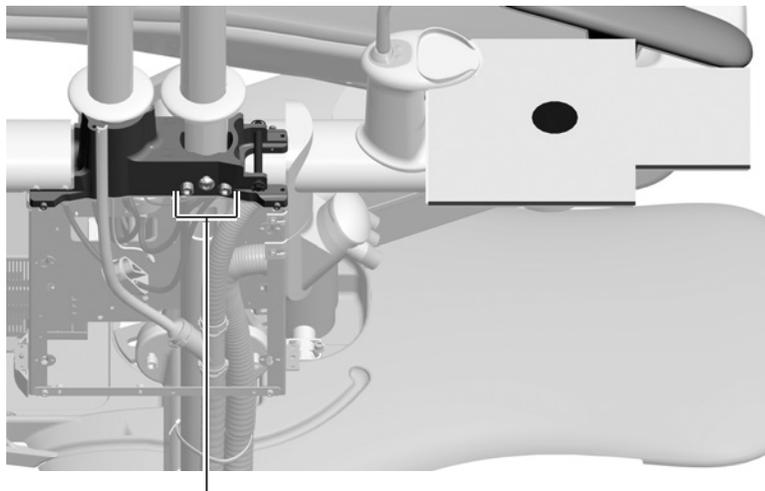


図 142. アームレストに対するポジショニングガイドのクリアランスの確保

スピットンとアームレスト間のクリアランスの調整

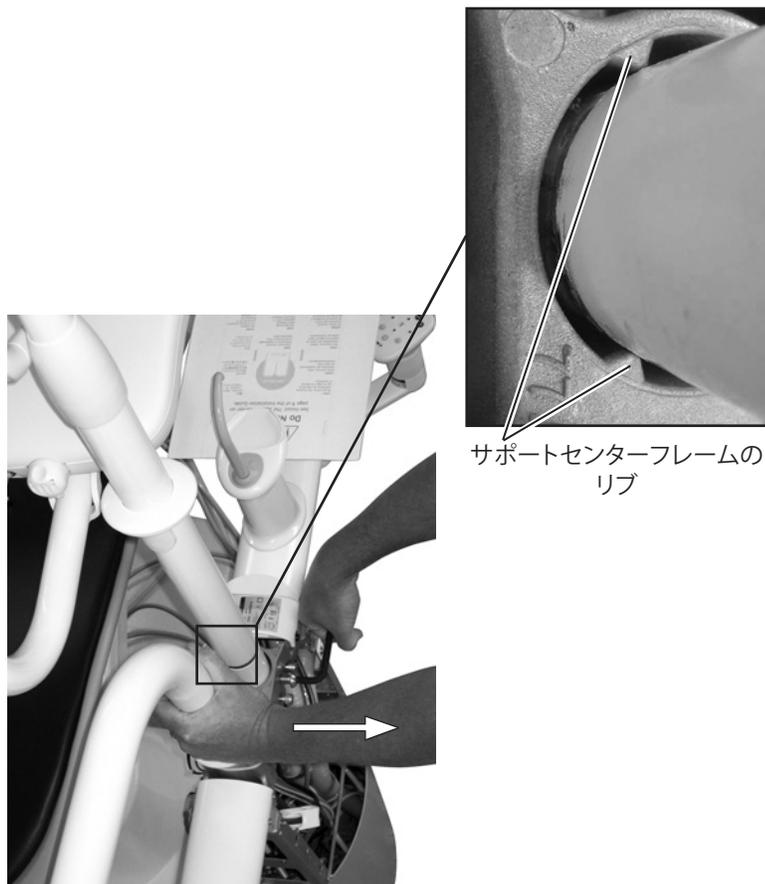
1. ポジショニングガイドが適切な位置にある状態で、5/16インチの六角レンチを使ってボタンボルトとソケットスクリューを緩めます。
2. システムにデリバリーシステムとライトが含まれている場合は、それらをサポートセンターの上に設置します。
3. ポジショニングガイドとアームレストのクリアランスが適切になるまで、サポートセンターを回転させます。
4. システムにデリバリーシステムが含まれている場合は、サポートセンターのフレームのリブがサポートセンターポストにぴったりくっつくまで、ネジの方に固定アームを引っ張ります。
5. 約 17.63 N・m (13 ft-lb) のトルクで、ボタンボルトを締め込みます。
6. 双方のソケットスクリューが完全に固定するまで交互に締め込みます (約 17.63 N・m [13 ft-lb] のトルク)。
7. チェアを上昇および下降させて、ポジショニングガイドがアームレストをクリアしているかどうかを確認します。
8. ガイドとアームレストのクリアランスが適切でない場合は、手順1~8を繰り返します。
9. サポートセンターが水平になっていることを確認します。調整が必要な場合は、79ページの「1. サポートセンターの水平調整」手順を実行します。

図 143. サポートセンターのネジを緩める



ボタンボルトおよびソケットスクリュー (六角穴付きボルト)

図 144. サポートセンターの固定



サポートセンターフレームのリブ

固定アームをネジの方に引っ張ります

カバーの取り付け

A-dec 300には、さまざまな構成用の各種カバーが含まれています。システム構成によっては、設置の際にカバーを修正する必要がある場合があります。



注 カバーを取り付ける前に、必ずシステムを調整しテストしてください。

このセクションに必要な工具

斜ニッパー

プラスドライバー

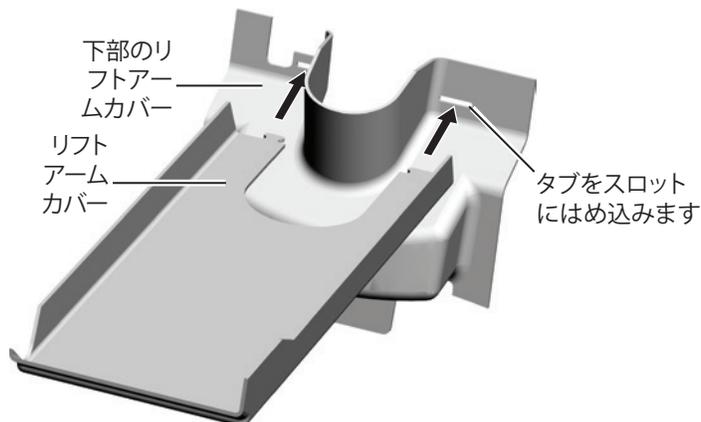
図 145. サポートセンター搭載のA-dec 300



リフトアームのカバーの取り付け

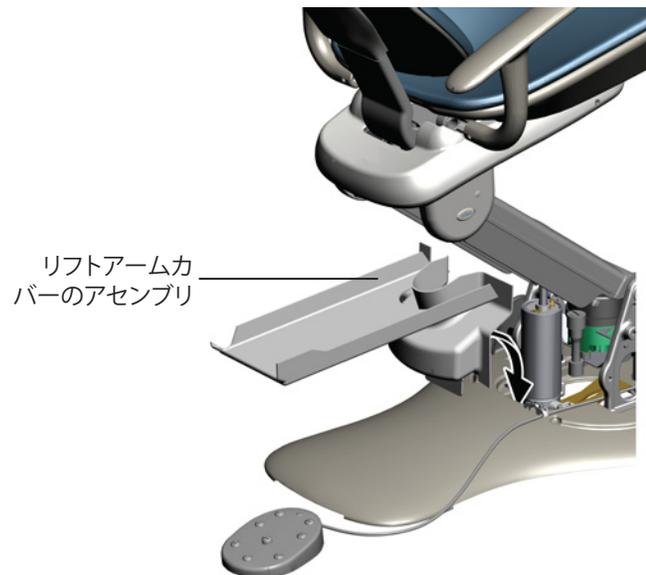
1. チェアのベースを上昇できる限界まで上昇させます。
2. リフトアームカバーのタブを、下側のリフトアームカバーのスロットにしっかりとはめて取り付けます。

図 146. カバーをかみ合わせる



3. リフトアームカバーのアセンブリをチェアのベースに取り付けます。

図 147. リフトアームカバーのアセンブリの取り付け

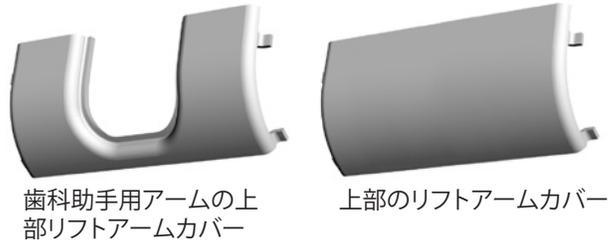


4. デンタルチェアに助手用アームがあるかどうかに応じて、適切な上部リフトアームカバーを選択します。



注 歯科助手用器具で使用する上部リフトアームカバーは、歯科助手用器具と同梱されています。

図 148. 上部のリフトアームカバー

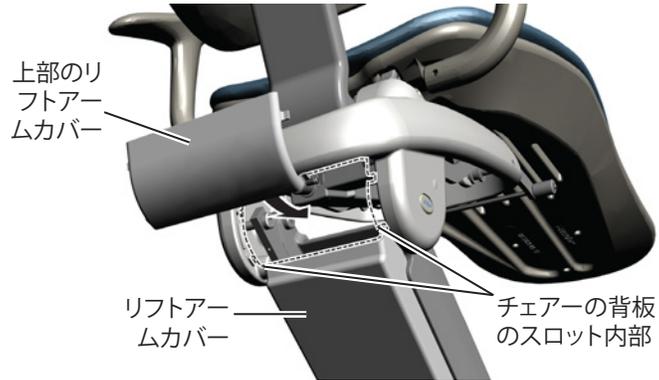


5. リフトアームカバーを持ち上げて、適切な位置で動かないようにします。



注 リフトアームとリンクアームの間の隙間に差し込むときにリフトアームカバーが動かない場合は、標準のドライバーを使ってリフトアームとリンクアームの隙間を広げてください。

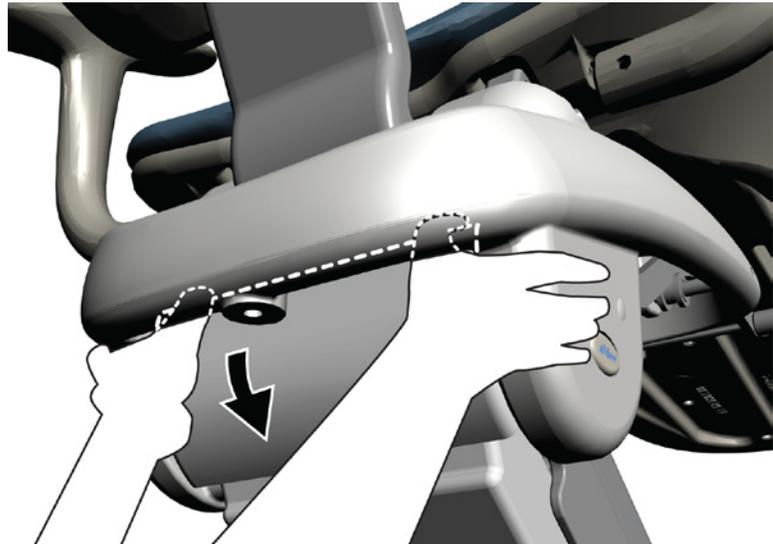
図 149. 上部のリフトアームカバーの取り付け



6. 上部リフトアームのタブを、チェアの背面にある内側のスロットに差し込みます。

7. 親指を上部リフトアームカバーの上端にあて、カバーを外側に向かって下に引っ張り、しっかりとはめ込みます。

図 150. 上部のリフトアームカバーのタブの差し込み



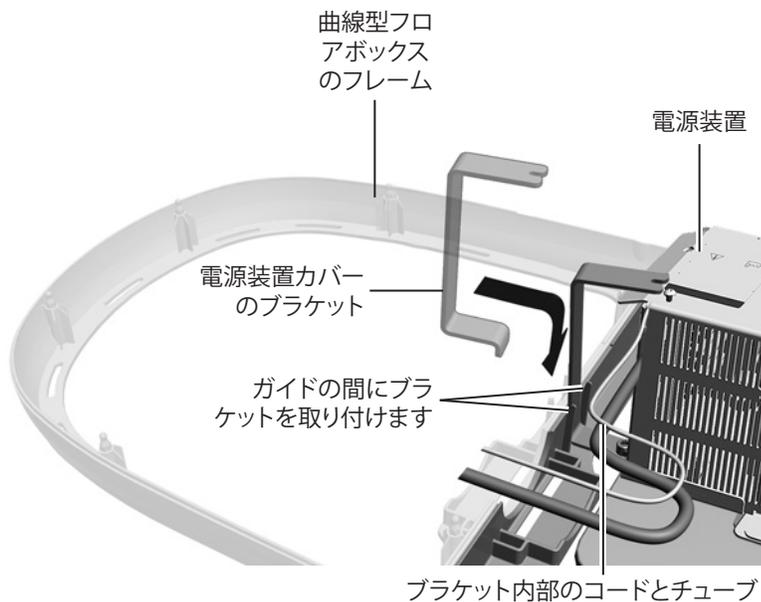
曲線型フロアボックスカバー セットの取り付け

1. プラスドライバーを使って、電源装置の上部にあるネジを緩めます。
2. 図 151 に示されているように、電源装置カバーのブラケットを電源装置に装着します。



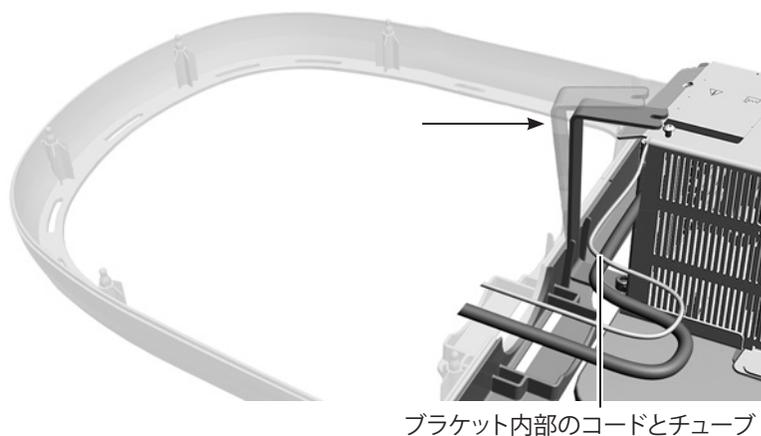
注意 カバーを正しい位置に合わせるには、電源コードとチューブがブラケットの内部にある必要があります。

図 151. 電源装置カバーのブラケットの取り付け



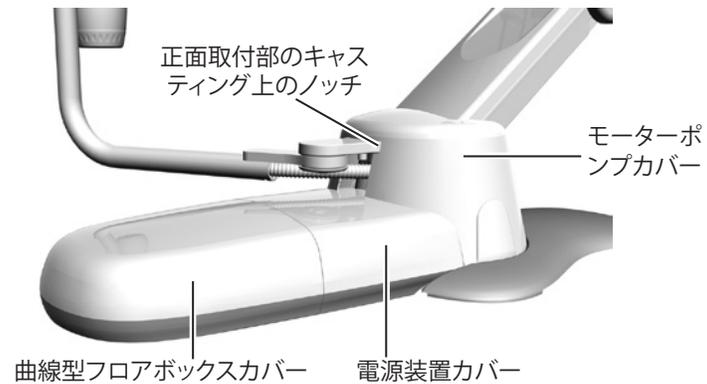
3. スロットをネジ近くのブラケットの中にスライドさせます。
4. ブラケットがしっかり固定されるようネジを締め込みます。

図 152. 電源装置カバーのブラケットの固定



5. 電源装置カバーのフレームのコネクタに合わせて、押し下げます。
6. 曲線型フロアボックスカバーのコネクタの位置に合わせて、押し下げます。

図 153. Radius型のデリバリーシステムがある場合のカバー



7. モーターポンプカバーを、システム構成に応じて修正して取り付けます:

- サポートセンターまたはRadius型のデリバリーシステムがない場合: 修正の必要はありません。カバーをスライドさせてチェアのベースプレートの溝に取り付けます。
- Radius型のデリバリーシステムの場合: 前部にあるプラグを取り外します。カバーを正面取付部のキャスティングの上でスライドさせて、チェアのベースプレートの溝で下にスライドさせます。正面のノッチは正面取付部のキャスティングに回り込ませます。
- サポートセンターがある場合: チェアベースマウントの方を向いているモーターポンプカバーの側面にあるプラグを取り外します。カバーをチェアベースマウントの上で下にスライドさせ、ベースプレートの溝に取り付けます。

図 154. モーターポンプカバーの修正

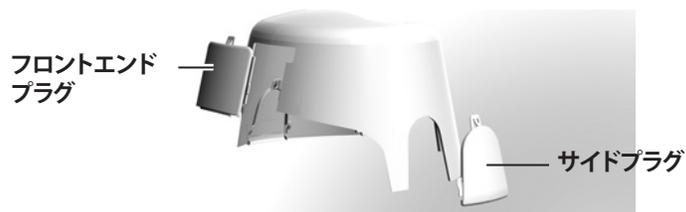
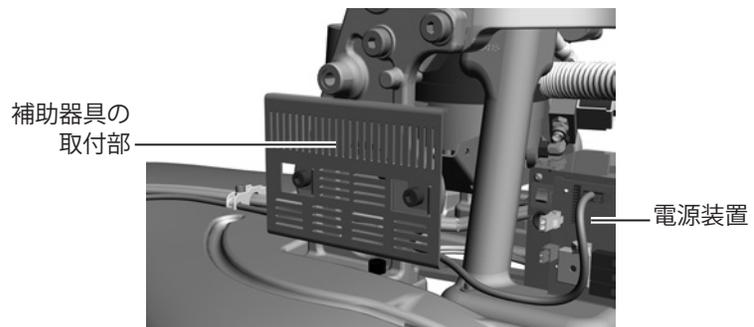


図 155. 付属ブラケットの位置



注 補助器具は、必ずモーターポンプカバーが正しく収まるように配置してください。

一体型フロアボックスカバーの取り付け

1. チェアを上昇させます。
2. システム構成に従って一体型フロアボックスカバーを修正します：
 - デンタルチェアのみ：修正の必要はありません。
 - サポートセンターを備えたデンタルチェアの場合：チェアベースマウントの方を向いている一体型フロアボックスカバーの側面にあるプラグを取り外します。
 - エアーバキュームシステムを備えた A-dec 300：一体型フロアボックスカバーの前端にあるプラグを排気孔カバーと交換します。
3. ユーティリティの上でカバーをスライドさせます。一体型フロアボックスカバーのフレームとチェアのベースプレートの溝にそれを合わせます。
4. カバーを溝の中に押し込み、フレーム上の2個の小さなポストの上にかぶせるようにロックします。

カバーはぴったりと完全にフィットしなければなりません。ケーブル留め、チューブまたはワイヤが見えないよう徹底してください。

注 補助器具は、必ず一体型フロアボックスカバーが正しく収まるように配置してください。

警告 一体型フロアボックスカバーは、取り外した後でしっかりと元に戻す必要があります。カバーが正しく再取り付けされて所定の位置に固定されていることを確認してください。

図 156. 一体型フロアボックスカバーの取り付け

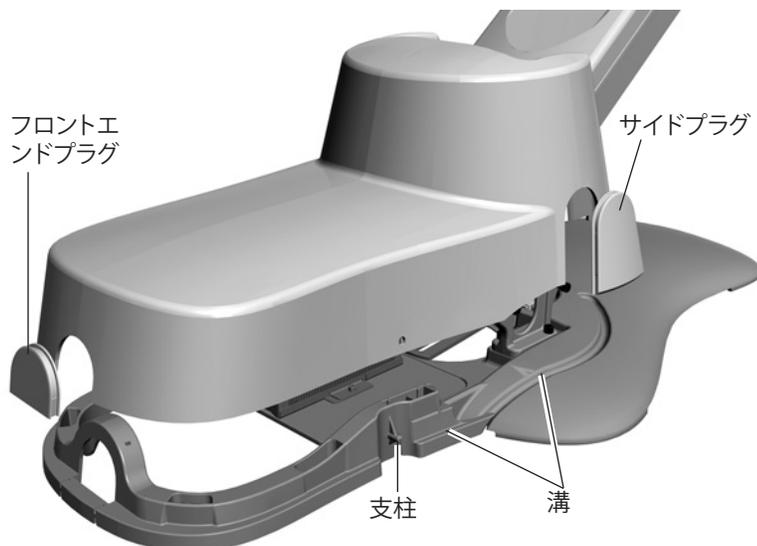
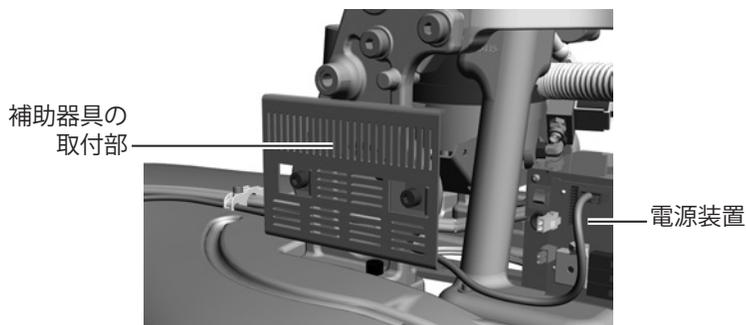


図 157. 付属ブラケットの位置



ポストホールキャップの取り付け

システムにデリバリーシステム、歯科ライト、またはモニターがない場合は、それらのモジュール用のポストホールにキャップを取り付けてください。

- **サポートセンターのポストホール:** プラスドライバーと6-19 x 1.2インチのネジを使って、トリムキャップを、フローチャートにはないサポートセンターカバーに取り付けます。
- **間柱:** システムの間柱にモニターが取り付けられていても、歯科ライトがない場合は、トリムキャップを間柱の下端に押し込みます。
- **歯科助手用器具ハブ:** システムの伸縮式アームに歯科助手用器具が取り付けられていても、デリバリーシステムがない場合は、トリムキャップをハブの上部に押し込みます。

図 158. ポストホールキャップ



サポートセンターポストホール用トリムキャップ



間柱用トリムキャップおよび歯科助手用器具ハブ

サポートセンターカバーの取り付け

1. カバーリングをチェアベースマウントの底部の所定の位置で、マウントレッグにぴったりくっつくようにはめ込みます。

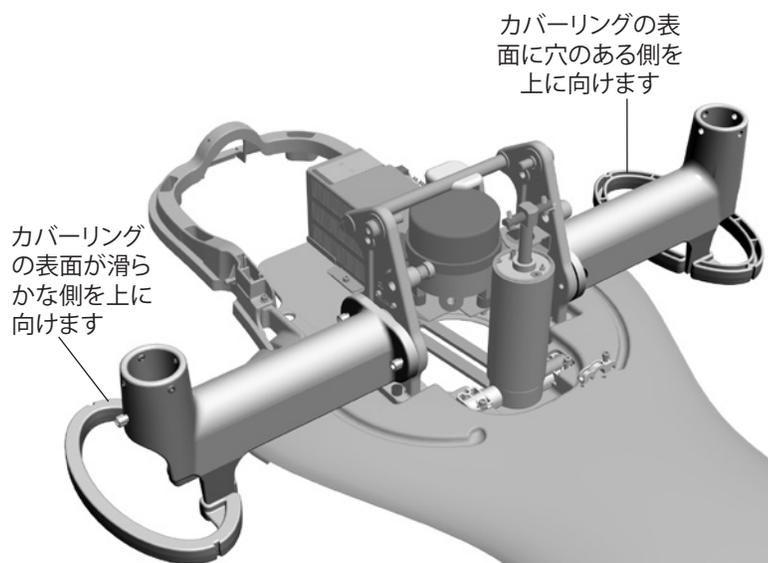
サポートセンターが患者の左側に取り付けられた場合は、リングの表面が滑らかなサイドを上に取り付けます。サポートセンターが患者の右側に付けられた場合は、リングの表面に穴のあるサイドを上に取り付けます。



ヒント リングをマウントレッグにぴったりくっつけて取り付けるためには、軽く叩いてしっかりとめ込む必要があります。

2. カバーリング周りに下部カバーを取り付けます。カバーの側面にある刻み目は、底部に向けて挿入します。穴のあるカバーは、チェアベースマウントの上に装着します。サポートセンターが患者の右側に付けられる場合は、カッティングプライヤー（ニッパー）を使用してマウント上にフィットするようにカバーの穴を広げてください。カバーリングの溝の所定の位置にパチンとはまるまでカバーのエッジをはめ込みます。

図 159. カバーリング取付オプション



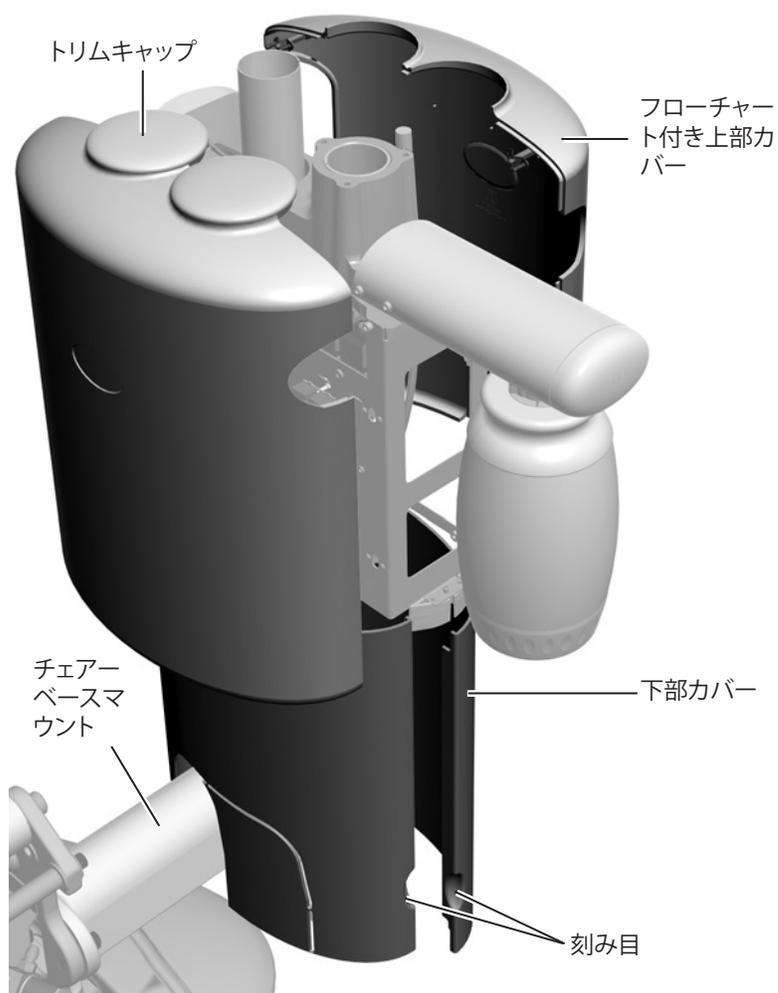
3. 上部サポートセンターカバーをサポートセンターフレームに取り付けます。サポートセンターを患者の左側に取り付ける場合、フローチャート付きのカバーは、チェアから離れてサポートセンターフレームの外側にきます。サポートセンターを患者の右側に取り付ける場合、このカバーはチェアの方に向かって側面にきます。カバー上の穴で小さい方のピンをフレームに挿入し、大きいピンを一方のカバーから他方のカバーのコネクタに挿入します。



注 システムに歯科ライトまたは、モニターマウントが含まれる場合は、サポートセンターカバーを取り付ける前にそのトリムリングをスライドアップさせてください。

カバーはトリムリング下部でギャップがないようフィットし、下部カバーの頭頂部をカバーするように取り付ける必要があります。

図 160. サポートセンターカバーの取り付け



エアバキュームシステム (AVS) の取り付け

このセクションに必要な工具

- 5/64インチの六角レンチ
- プラスドライバー
- 1/4インチのコンビネーションレンチ

! 注 エアバキュームシステム (AVS) は、一体型フロアボックスカバーまたはリモートフロアボックスが組み込まれている A-dec 300 システムでのみ利用できます。

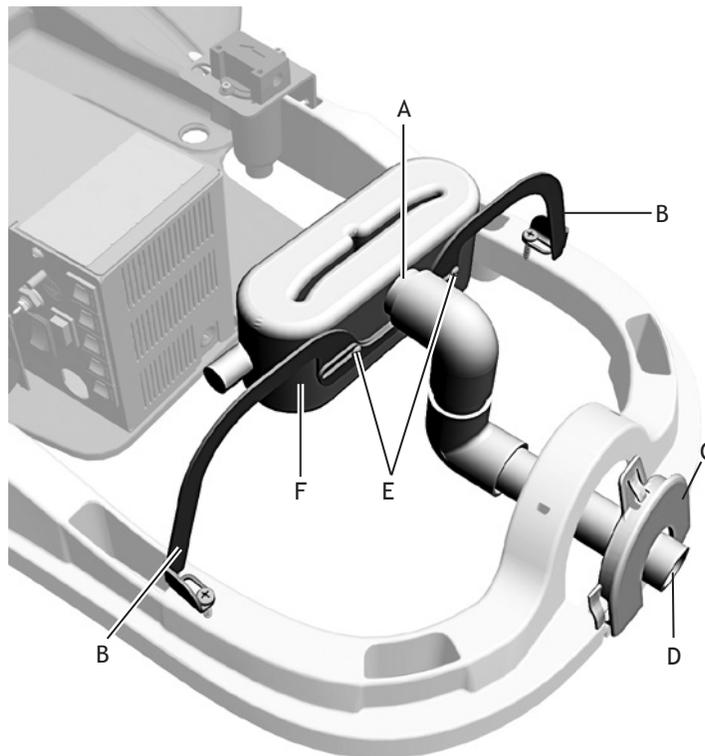
AVS は、中央バキュームシステムが利用できない場合に、最小 70 PSI の給気を使用して真空状態を作り出します。また、それはシステム中を流れる水分と空気を分離し、ドレインとエアアウトレットを経由してそれらを放出します。

! 注 スピットンなしで AVS を装備することができません。理由はスピットンには空気圧排唾管を通してのエアフローを駆動させるスイッチを搭載する必要があるからです。

AVS タンクと排気管の取り付け

1. ブラケットを一体型フロアボックスカバーフレームの下穴に合わせて位置を調整します。
2. プラスドライバーを使用して、2本の3/4インチ#10のネジでフレームの各サイドにブラケットで固定します。
3. ブラケット内のスロットをエア排出スタップ下部の液体分離タンクの取付孔に合わせて位置を調整します。
4. 5/64インチの六角レンチと2本の3/8インチのソケットスクリューを使用して、タンクをブラケットに取り付けます。
5. エルボウをエア排出スタップに接続します。
6. スプライサーをエルボウに接続します。
7. 2番目のエルボウを接続します。
8. 25mm チューブをスプライサーの終端に接続し排気孔の外へ配置します。

図 161. AVS エア排出チューブの接続



項目	説明	項目	説明
A	エア排出スタップ	D	排気孔
B	一体型フロアボックスカバーのフレームにネジで取り付けられたブラケット	E	タンクにネジで取り付けられたブラケット
C	排気孔カバー	F	液体分離タンク

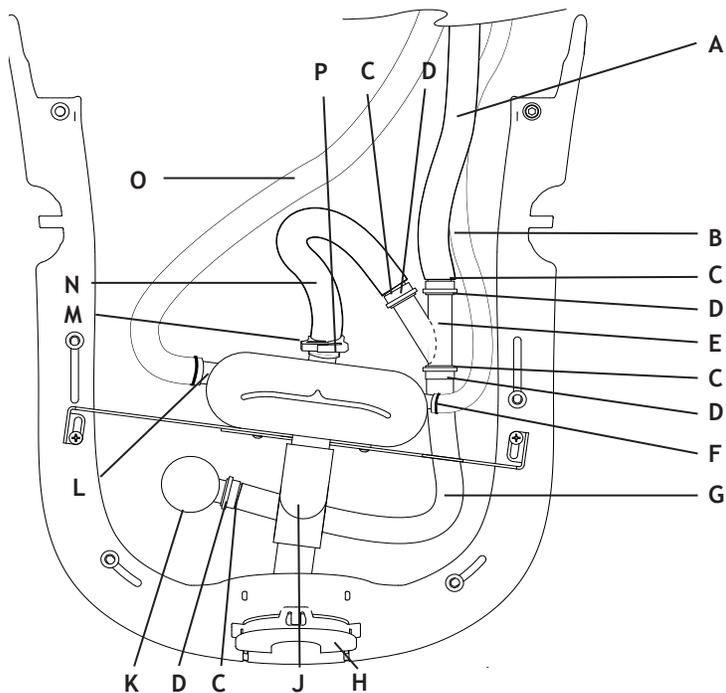
対応するチューブの接続

1. 排唾管のチューブを排唾管吸込み口に接続します。
2. 20mmアダプタとコネクタクリップを使用して、Yコネクタ上部の終端の1つにスピットンの排水管を接続します。
3. 20mmアダプタとコネクタクリップを使用して、Yコネクタの下部終端に20mmチューブを接続します。
4. 20mmアダプタとコネクタクリップを使用して、手順3の20mmチューブの開口端を排水管に接続します。
5. 20mmアダプタとコネクタクリップを使用して、Yコネクタ上部の残りの開口端に20mmチューブを接続します。
6. 20mmアダプタを使用して、手順5の20mmチューブの開口端を液体分離器ドレインに接続します。
7. HVE/AVS排気管をHVE吸込み口に接続します。



注 ドレインを専用配管コードに従って接続してください。

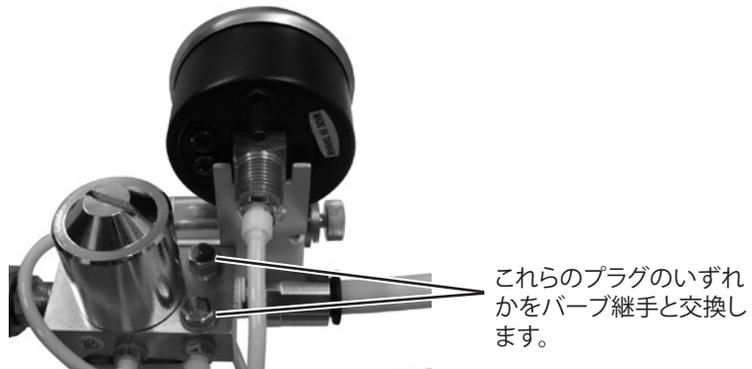
図 162. AVSシステムの俯瞰図



項目	説明	項目	説明
A	スピットンの排水管 (5/8インチ)	J	エアー排気口
B	排唾管 (3/8インチ)	K	ドレイン排水口
C	コネクタクリップ (4本)	L	HVE/AVS吸込み口
D	20mmアダプタ (4本)	M	クランプ
E	Yコネクタ	N	液体分離器への20mmチューブドレイン
F	排唾管吸込み口	O	HVE/AVS排気管 (5/8インチ)
G	ドレイン排水口への20mmチューブ	P	液体分離器ドレインチューブ
H	排気孔カバー		

8. 1/4インチのコンビネーションレンチを使用して、エアーフィルタとレギュレータのプラグを5/16インチのバーブ継手と交換してから、5/16インチの黄色のチューブをエアーバキューム発生装置に接続します。
9. 一体型フロアボックスカバーの前面にあるプラグを排気孔のカバーと交換してから、カバーを取り付けます (手順については、103ページの「一体型フロアボックスカバーの取り付け」を参照)。

図 163. エアー/フィルタレギュレータのプラグとバーブ継手の交換



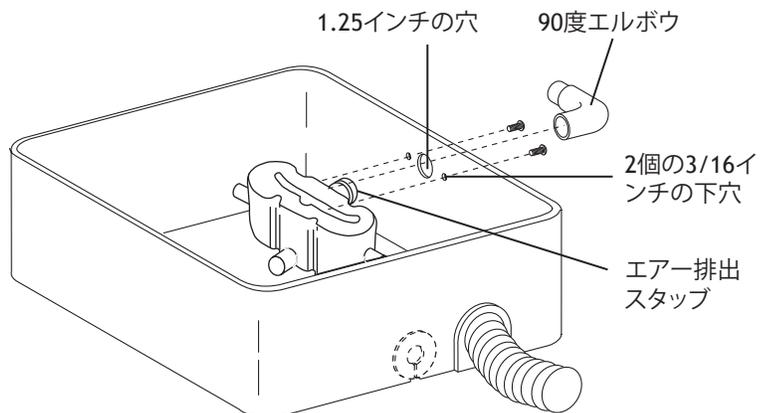
これらのプラグのいずれかをバーブ継手と交換します。

AVSをリモートフロアボックスに取り付けます。

1. エアー排出スタップを1.25インチの穴を通して挿入し、5/64インチの六角レンチと2本の3/8インチのソケットスクリューを使用して、タンクをフロアボックスに取り付けます。
2. 90度エルボウをエアー排出バルブの終端に取り付けてください。
3. HVE、排唾管、および排水口を接続します (108ページの「対応するチューブの接続」を参照)。

! 注 ドレインを専用配管コードに従って接続してください。

図 164. AVSをリモートフロアボックスに取り付けます。



規制に関する情報

規制情報は、販売代理店要件による義務に伴いA-dec機器と共に提供されます。この情報は、機器の使用方法に添付されるかまたは、別紙規制情報と仕様に添付して提供されます。この情報が入用な場合は、www.a-dec.comにアクセスし「文書ライブラリー」を検索してください。

A-dec® 本社

2601 Crestview Drive
Newberg, OR 97132
USA

電話: 1.800.547.1883 米国/カナダ国内

電話: 1.503.538.7478 米国/カナダ国外

ファックス: 1.503.538.0276

www.a-dec.com / www.a-dec.biz

A-dec Inc. は、本書の内容についてはいかなる保証もいたしません。これには製品の商品性や特定の使用目的への適合性に対する暗示的な保証が含まれますが、これに限定されないものとします。